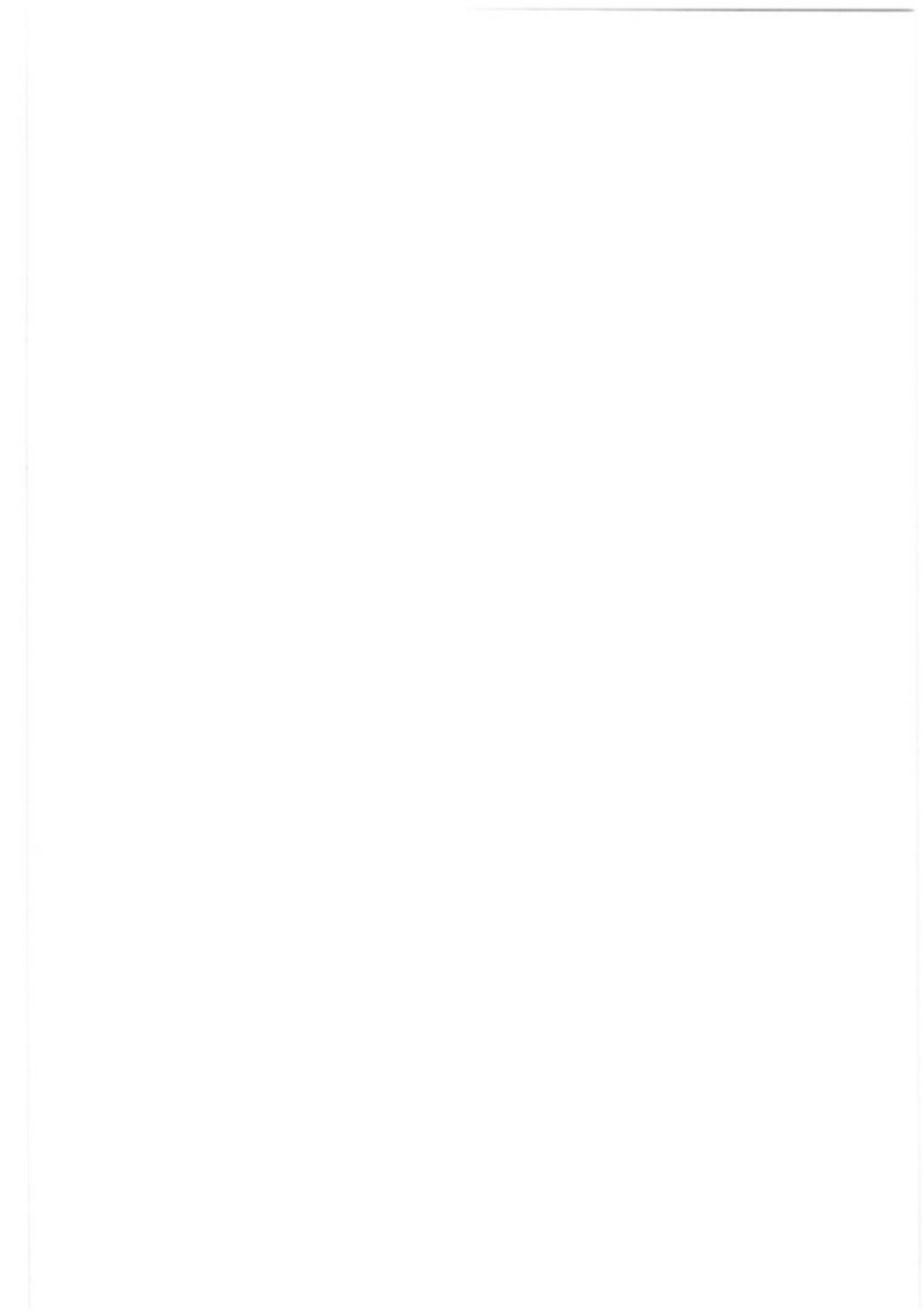


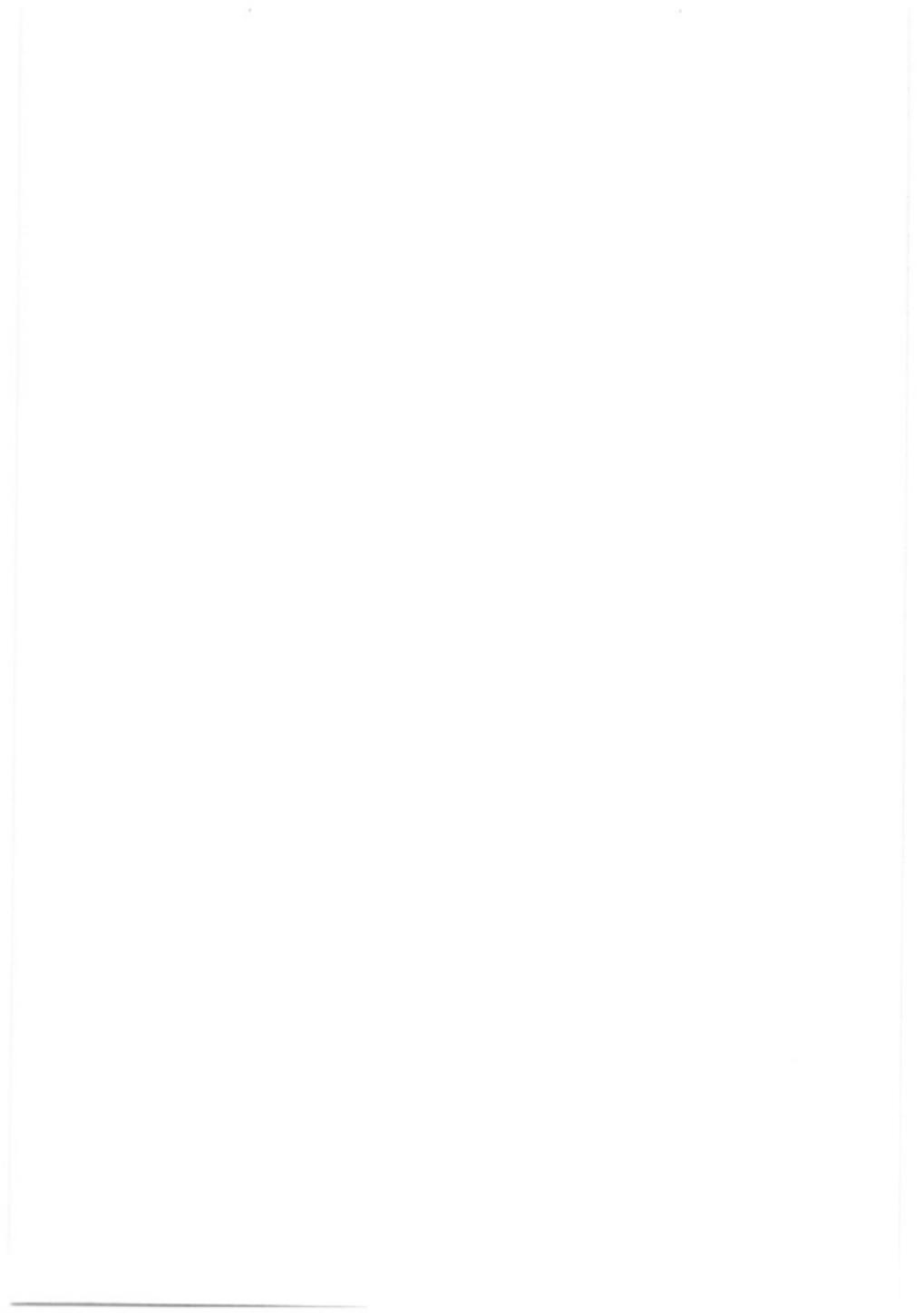
K-144

双葉町遺跡
城南町遺跡
(山形城三の丸跡)
発掘調査報告書

2006

山形市
山形市教育委員会





ふたばちょういせき
双葉町遺跡
じょうなんまちいせき
城南町遺跡
(やまがたじょうさんまるあと
(山形城三の丸跡)

発掘調査報告書

平成18年3月

山形市
山形市教育委員会

序

本報告書は、平成9～16年度にかけて実施した、双葉町遺跡および城南町遺跡の緊急発掘調査成果をまとめたものです。いずれも平成9年度に新しく確認された遺跡です。「史跡 山形城跡」は現在の山形市街の中心に位置し、その本丸と二の丸跡地は、市民の憩いの場として親しまれる霞城公園として利用されています。現在、本丸大手門跡の復元工事が進められています。

市内には史跡「嶋遺跡」をはじめ、380箇所を超える遺跡が現時点で確認されております。これらの遺跡は、山形市の歴史と文化を理解するためには欠くことのできない、保護してゆくべき市民共有の財産となっています。

近年は市内各所にて、市民生活の向上などを目的とした各種の開発事業が進められています。その中で、埋蔵文化財の保護を目的とした調整により、緊急発掘調査に至る事例が多くなっています。

双葉町遺跡・城南町遺跡の緊急発掘調査も、山形駅西土地区画整理事業との調整により、遺跡の記録保存を目的として実施いたしました。これらの調査の増加により、長い歴史の中に埋没した、往古の人々の生活の痕跡が明らかになる機会が増えております。埋蔵文化財を保護し、次代に伝えてゆくことは、私たちの重要な責務です。

本書が山形市における埋蔵文化財の保護啓蒙のために、また市民の皆様の地域史への理解を深める一助としてご活用いただければ、誠に幸いります。

最後になりましたが、発掘調査及び整理作業の実施にあたり、埋蔵文化財の保護に特段のご理解と多大なご協力をいただきました山形市都市開発部新都市拠点整備課をはじめとする関係各課、そして東ソー株式会社山形事務所をはじめとする工事関係者の皆様、並びに関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18年3月

山形市教育委員会
教育長 大場 登

例　　言

- 1 本書は山形駅西土地区画整理事業に係る「双葉町遺跡」「城南町遺跡」の平成9～16年度発掘調査の報告書である。山形市教育委員会による旧東ソーリ株式会社山形工場敷地の発掘調査については『双葉町遺跡』(山形市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集・第24集)を、(財)山形県埋蔵文化財センターによる霞城セントラル部分の発掘調査については『城南一丁目遺跡』(山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第69集)を参照いただきたい。本報告書は、上記三冊で報告済み以外の箇所における山形市教育委員会発掘調査実施部分の報告である。
- 2 緊急発掘調査は山形市都市開発部新都市拠点整備課の依頼をうけ、山形市教育委員会文化課(平成9年度～12年度)および社会教育課(平成13年度～)が担当した。
- 3 調査要項は下記の通りである。

遺跡名 双葉町遺跡(ふたばちょういせき)

城南町遺跡(じょうなんまちいせき)

遺跡略号 双葉町遺跡→FTB 城南町遺跡→JON

所在地 山形県山形市双葉町一丁目地内・城南町一丁目地内・城南町二丁目地内

調査主体 山形市都市開発部新都市拠点整備課

調査実施機関 山形市教育委員会

現地調査期間

(FTB土壌部分) (FTBⅦ) 平成16年3月15日～7月14日

平成9年7月4日～平成10年2月5日 (JON) 平成9年9月3日～9月16日

(FTBⅡ) 平成10年6月22日～8月7日 (JONⅢ) 平成11年9月27日～12月3日

(FTBⅢ) 平成11年7月19日～9月30日 (JONⅣ) 平成12年5月1日～6月8日

(FTBⅣ) 平成12年5月1日～6月8日 (JONⅤ) 平成13年9月26日～11月4日

(FTBⅤ) 平成13年11月2日～11月17日 (JONⅥ) 平成13年11月2日～11月17日

(FTBⅥ) 平成15年8月27日～12月5日

整理作業期間

平成12年10月2日～平成18年3月31日

(調査体制)

平成9年度 文化課 (JON・FTB土壌)

課長 蜂谷 哲平

課長補佐 小林 和彦

文化財係長 江川 隆

主事 武田 和宏(調査主任)

臨時職員 斎藤 仁

臨時職員 伊藤 典子

平成10年度 文化課 (FTBⅡ)

課長 富田 博

文化財担当副事務官 會田 芳男

文化財係長 江川 隆

主事 武田 和宏

主事 斎藤 仁

主事 渡辺 薫

主事 五十嵐貴久

臨時職員 山澤 譲

※FTBⅡ調査期間中に、山形市文化財保護委員会
茨木光裕氏により調査指導を得た。

平成11年度 文化課 (FTBⅢ・JONⅢ)

課長 富田 博
課長補佐 工藤 義夫
文化財係長 江川 隆
主事 武田 和宏
主事 斎藤 仁
主事 須藤 英之
主事 渡辺 薫
主事 五十嵐 貴久
主事 國井 修 (調査主任)
臨時職員 石山 公亮
臨時職員 高橋 拓

平成13年度 社会教育課

(FTBV・JONV・JONVI・整理作業)
課長 柳橋 幸男
課長補佐 金子 美則
文化財保護係長 江川 隆
主事 斎藤 仁
(FTBV・JONVI調査主任)
主事 須藤 英之 (JONV調査主任)
臨時職員 岩井 良太
臨時職員 黒澤 奈都

平成15年度 社会教育課 (FTBVI・整理作業)

課長 伊藤 邦男
課長補佐 江川 隆
文化財保護係長 小野 徹
主事 斎藤 仁
主事 須藤 英之
主事 國井 修 (FTBVI調査主任)
臨時職員 高橋 拓
臨時職員 宮嶋 啓

平成17年度 社会教育課 (整理作業)

課長 伊藤 邦男
課長補佐 江川 隆
文化財保護係長 小野 徹
主事 斎藤 仁

平成12年度 文化課

(FTBIV・JONIV・整理作業)
課長 石澤孝一郎
課長補佐 工藤 義夫
文化財係長 江川 隆
主事 斎藤 仁 (調査主任)
主事 須藤 英之
臨時職員 高橋 拓
臨時職員 岩井 良太

平成14年度 社会教育課 (整理作業)

課長 柳橋 幸男
課長補佐 江川 隆
文化財保護係長 小野 徹
主事 斎藤 仁
主事 須藤 英之
臨時職員 黒澤 奈都
臨時職員 小野 幸寛

平成16年度 社会教育課 (FTB VII・整理作業)

課長 伊藤 邦男
課長補佐 江川 隆
文化財保護係長 小野 徹
主事 斎藤 仁 (FTB VII調査主任)
主事 須藤 英之
主事 植松 薫
臨時職員 宮嶋 啓
臨時職員 遠藤 倫

主事 須藤 英之
主事 植松 薫
臨時職員 武田 陽輔
臨時職員 桶口 有美

4 発掘調査から本書の作成にいたるまで以下の方々及び機関からご教示・ご協力を頂いた。ここに記して感謝申し上げる。

東ソ一株式会社山形事務所 最上義光歴史館 諸山山形県埋蔵文化財センター

揚妻昭一郎 阿子島功 浅野晴樹 斎村均 五十嵐一治 伊藤清郎 伊藤邦弘 伊藤武士 伊藤啓雄 萩木光裕 大橋康二 大庭康時 小野正敏 片桐繁雄 金森正孝 川畠誠二 川又隆央 北野博司 工藤清泰 工藤直子 黒坂雅人 小林圭一 小林貴宏 近藤真佐夫 斎藤健 佐伯史子 佐々木健策 澤田純明 菅原哲文 鈴木健太郎 関口慶久 関根達人 高桑登 高桑弘美 高橋信敬 高橋学 澤川涉 手代木美穂 萩原三雄 橋口定志 長谷川一郎 畑大介 平田徳文 藤澤良祐 堀江格 菅田慶信 本澤惣輔 真壁建 松井敏也 三上喜孝 水澤幸一 水戸部秀樹 村木志伸 村木二郎 八重櫻忠郎 山口博之 横山昭男 吉田歛

5 本書の執筆は、I・II・III-1・IV-1・Vを須藤英之が、III-2～6・IV-1～3・6を齋藤 仁が担当した。編集は須藤が担当した。岩井良太（平成12～14年度）・高橋拓（平成12～13, 15年度）・黒澤奈都（平成13～14年度）・小野幸寛（平成14年度）・宮嶋啓（平成15～16年度）・遠藤倫（平成15～16年度）・武田陽輔（平成17年度）・樋口有美（平成17年度）がこれを補佐した。出土遺物の保存処理及び理化学分析については東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターに業務委託し、結果についてV章 附録として掲載した。

6 発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力いただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

芦名久子 阿部淳一郎 阿部巳代治 阿部幸男 荒井菊三郎 荒井清 荒井清治 荒井利雄 荒井治良 五十嵐富治 石垣勝幸 石澤富雄 伊藤桂子 伊藤省三 伊藤真喜子 伊藤義一 斎村栄一 海野藤助 遠藤久 大島ふみ子 大津弘 大貫文義 大沼美幸 大宮努 小笠原吉二 稲谷和夫 片桐長作 加藤君子 金子みつの 北野恵 木村澄子 草苅保子 栗原清子 栗原武夫 小関和子 小林はな子 斎藤和彦 斎藤邦男 斎藤幸子 斎藤武男 佐藤博 笹利幸 佐々木郁子 笹原陽子 佐藤郁江 佐藤和子 佐藤昭司 佐藤徹 佐藤博 佐藤由美子 澤口辰雄 三部秋夫 志田英信 島賀昭二郎 清水理太郎 白田敬 鈴木清志 鈴木輝男 鈴木麻里子 関口幸子 関野信子 高野喜智助 丹野昭子 丹野ヒデ子 丹野廣 堀操 戸田長生 富沢啓広 土門弘 長岡玲子 中沢林子 中村光作 日塔繁 原田とし子 播磨あい子 深瀬美貴子 藤井富士夫 保科源則 町田雅樹 松沢アイ 三浦優子 森田誠 矢作初子 山内昭三 結城なか 横沢英次 横山内宥 渡辺ふじえ 和田政之助 渡辺由華（現場調査）

芦名久子 伊藤桂子 伊藤真喜子 北野恵 木村澄子 笹原陽子 関口幸子 武田昌子 深瀬美貴子 矢作初子 渡辺ふじえ（出土遺物整理）

7 出土遺物・調査記録類については、山形市教育委員会社会教育課が一括保管している。

凡　例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

S B…掘立柱建物跡 S I・S T…竪穴住居跡 S D…溝跡 SK…土坑 S P…柱穴・ピット
E P…掘立柱建物跡柱穴 S G…自然河川 S E…井戸跡 S X…性格不明遺構
S…礫 P…土器
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号を報告書においても踏襲した。
- 3 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

遺構平面図に付す座標値は、平面直角座標系第X系（日本測地系）に換算。単位はmである。
高さは海拔高で記載した。
- 4 調査区グリッドの南北軸は各調査区で任意の設定とし、基本的には現場段階のグリッド番号を報告書においても踏襲した。
- 5 遺構実測図は原則として1/40の縮図で採録し、各々スケールを付した。
- 6 遺物実測図・拓影図は基本的には1/3の縮図で採録し、各々スケールを付した。
- 7 遺構実測図中の水糸レベルは標高を表す。単位はmである。
- 8 土層観察においては、各調査区の基本層序についてはローマ数字を、各遺構覆土の層位についてはアラビア数字で表した。
- 9 遺物実測図の内、断面黒ベタは須恵器を示し、その他の遺物は断面白抜きとした。

アミ伏せの範囲は内面黒色処理・スス付着範囲を示す。
- 10 遺構実測図中、アミ伏せ箇所は焼土範囲を示す。
- 11 遺構観察表中において、() 内数値は図面上の推計値を示す。単位はcmを使用している。
- 12 遺物観察表中において、() 内数値は図上復元による推計値を、-は計測不能を示す。単位はcmを使用している。
- 13 遺構・遺物番号は本文・表・挿図・写真図版とも一致させている。
- 14 基本層序及び遺構覆土の色調記載については、『新版標準土色帳』（小山・竹原：1997）に依った。
- 15 本書で使用した地形図等は以下の通りである。

第1図 国土地理院発行 1:25,000『山形北部』『山形南部』
第2図 山形市発行 1:1,000『山形駅西地区画整理事業図』
- 16 双葉町遺跡・城南町遺跡の発掘調査成果については現地説明会、各種研究会でその内容の一部を報告しているが、これらと本書の内容が異なる場合は本書の内容が優先する。

目 次

I 調査の経緯	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の経過	2
II 遺跡の立地と環境	5
1 地理的環境	5
2 歴史的環境	5
III 双葉町遺跡	13
1 第2次調査 (FTB II)	13
(1) 遺跡の層序	13
(2) 遺構と遺物の分布	13
(3) 検出された遺構と遺物	13
(4) 小結	15
2 第3次調査 (FTB III)	15
(1) 遺跡の層序	15
(2) 遺構と遺物の分布	26
(3) 検出された遺構と遺物	26
(4) 小結	53
3 第4次調査 (FTB IV)	53
(1) 遺跡の層序	53
(2) 遺構と遺物の分布	53
(3) 検出された遺構と遺物	53
(4) 小結	64
4 第5次調査 (FTB V)	64
(1) 調査の方法	64
(2) 調査の成果	64
5 第6次調査 (FTB VI)	67
(1) 遺跡の層序	67
(2) 遺構と遺物の分布	67
(3) 検出された遺構と遺物	67
(4) 小結	114
6 第7次調査 (FTB VII)	114
(1) 遺跡の層序	114
(2) 遺構と遺物の分布	114
(3) 検出された遺構と遺物	115
(4) 小結	126
7 第1次調査 (山形城三の丸土壘跡調査部分)	193
(1) 調査の方法	193
(2) 調査の成果	193
IV 城南町遺跡	191
1 第1次調査 (JON)	197
(1) 遺構と遺物の分布	197
(2) 検出された遺構と遺物	197
(3) 小結	197
2 第3次調査 (JON III)	197
(1) 遺跡の層序	197
(2) 遺構と遺物の分布	200
(3) 検出された遺構と遺物	200
(4) 小結	200
3 第4次調査 (JON IV)	213
(1) 遺跡の層序	213
(2) 遺構と遺物の分布	213
4 第5次調査 (JON V)	213
(1) 遺跡の層序	213
(2) 遺構と遺物の分布	213
(3) 検出された遺構と遺物	213
5 第6次調査 (JON VI)	293
(1) 遺跡の層序	293
(2) 遺構と遺物の分布	293
(3) 検出された遺構と遺物	294

V 附	編	300
1	山形市双葉町遺跡出土の中世人骨	300
2	山形市教育委員会調査 双葉町遺跡出土土器・陶器器付着物のフーリエ変換赤外分光分析(FT-IR)結果報告	307
VI 考	察	309
参考文献		311
報告書抄録		352

表

表1	周辺遺跡地名表	7	表6	双葉町遺跡遺構観察表	332
表2	双葉町遺跡各次調査概要	7	表7	城南町遺跡遺構観察表	336
表3	城南町遺跡各次調査概要	7	表8	双葉町遺跡遺物観察表	339
表4	双葉町遺跡土層注記	313	表9	城南町遺跡遺物観察表	346
表5	城南町遺跡土層注記	325			

挿 図

第1図	周辺遺跡位置図	6
第2図	双葉町遺跡・城南町遺跡調査区概要図	9
第3図	山形城最上氏時代絵図	4
第4図	山形城保科氏時代絵図	11
第5図	F T B II 調査区遺構配置図	17-18
第6図	F T B II SE01平面図・F T B II SE01出土遺物	19
第7図	F T B II SK 2 平面図・断面図/F T B II SK 2 出土遺物	20
第8図	F T B II SK05-SK12-SD06-SD13平面図・断面図/F T B II SK05-SK12-SD06-SD13出土遺物	21
第9図	F T B II SD01・SD15・SD20平面図・断面図/F T B II SD01出土遺物	22
第10図	F T B II SD02平面図・断面図	23
第11図	F T B II SD08断面図/F T B II SD08出土遺物(1)	24
第12図	F T B II SD08出土遺物(2)	25
第13図	F T B III 遺構配置図	31-32
第14図	F T B III 基本層序	33
第15図	F T B III ST72平面図・断面図/F T B III ST72出土遺物	34
第16図	F T B III SK 5 平面図・断面図/F T B III SK 5 出土遺物(1)	35
第17図	F T B III SK 5 出土遺物(2)/F T B III SK19平面図・断面図	36
第18図	F T B III SK19出土遺物	37
第19図	F T B III SK57平面図・断面図/F T B III SK57出土遺物/F T B III SK59平面図・断面図	38
第20図	F T B III SK59出土遺物/F T B III SK63・SK64平面図・断面図	39
第21図	F T B III SK63出土遺物/F T B III SK64出土遺物	40
第22図	F T B III SK73平面図・断面図/F T B III SK73出土遺物/F T B III SK75平面図・断面図	41

第23図	F T B III SK75出土遺物/F T B III SE20平面図	42
第24図	F T B III SE20出土遺物/F T B III SE25平面図	43
第25図	F T B III SE32・SE49平面図/F T B III SE53平面図	44
第26図	F T B III SE53出土遺物(1)	45
第27図	F T B III SE53出土遺物(2)/F T B III SE65・SD21平面図	46
第28図	F T B III SE65出土遺物/F T B III SD21出土遺物/F T B III SE77平面図	47
第29図	F T B III SD24・SD26平面図/F T B III 平面図・断面図	48
第30図	F T B III SD24出土遺物	49
第31図	F T B III SD26出土遺物	50
第32図	F T B III SX58平面図・断面図/F T B III SX58出土遺物	51
第33図	F T B III SK 2 平面図・断面図/F T B III B-2 グリット出土遺物	52
第34図	F T B IV 遺構配置図	55
第35図	F T B IV 基本層序	56
第36図	F T B IV SB114平面図	57
第37図	F T B IV SB114断面図/F T B IV SB129平面図	58
第38図	F T B IV SB129断面図/F T B IV SK99平面図・断面図/F T B IV SK99出土遺物/F T B IV SE68平面図	59
第39図	F T B IV SE68断面図/F T B IV SE68出土遺物	60
第40図	F T B IV SE125・SE126平面図・断面図/F T B IV SE125出土遺物	61
第41図	F T B IV SD 5 平面図・断面図	62
第42図	F T B IV SD 5 出土遺物	63
第43図	F T B V トレンチ位置図	65
第44図	F T B V トレンチ出土遺物	66
第45図	F T B VI 遺構配置図	75-76
第46図	F T B VI 基本層序	77
第47図	F T B VIST 1 平面図・断面図/F T B VIST 1 出土遺物	78
第48図	F T B VIST25平面図・断面図/F T B IV ST25出土遺物/F T B VIST45平面図・断面図	79
第49図	F T B VIST45出土遺物/F T B VIST49平面図・断面図	80
第50図	F T B VIST81平面図・断面図/F T B IV ST81出土遺物	81
第51図	F T B VIST120平面図・断面図/F T B IV ST120出土遺物	82
第52図	F T B VIST121平面図・断面図/F T B IV ST126平面図・断面図	83
第53図	F T B VIST126出土遺物/F T B IV ST131平面図・断面図/F T B IV ST131出土遺物	84
第54図	F T B VIST146平面図・断面図/F T B VIST146出土遺物/F T B IV ST148平面図・断面図	85
第55図	F T B VIST148出土遺物/F T B IV ST188平面図・断面図/F T B VIST188出土遺物	86
第56図	F T B VISK132平面図・断面図/F T B IV SK132出土遺物/F T B VISP 3 出土遺物	87
第57図	F T B VISP21平面図・断面図/F T B IV SP21出土遺物/F T B VISE15平面図・断面図/F T B VISE15出土遺物	88
第58図	F T B VISD16平面図/F T B V ISD16断面図/F T B IV SD16出土遺物	89
第59図	F T B VISK10平面図・断面図/F T B IV SK10出土遺物	90
第60図	F T B VISE 6 平面図・断面図/F T B IV SE 6 出土遺物/F T B IV SE11平面図・断面図	91
第61図	F T B VISE 8 平面図・断面図	92
第62図	F T B VISE 8 出土遺物/F T B VISE13平面図・断面図/F T B VISE13出土遺物	93

第63図	F T B VISE104平面図・断面図/F T B IVSE104出土遺物	94
第64図	F T B VISK191平面図・断面図/F T B IVSK191出土遺物/F T B IVSK211平面図・断面図/F T B IVSK211出土遺物	95
第65図	F T B VISP150平面図・断面図/F T B VISP150出土遺物/F T B IVSE7平面図・断面図/F T B IVSE7出土遺物	96
第66図	F T B VISE23・SE43平面図・断面図	97
第67図	F T B VISE128平面図・断面図/F T B IVSE128出土遺物	98
第68図	F T B VISE129平面図・断面図/F T B IVSE129出土遺物	99
第69図	F T B VISE173平面図・断面図/F T B IVSE186出土遺物/F T B IVSE186平面図・断面図	100
第70図	F T B VISE187平面図・断面図/F T B IVSE187出土遺物/F T B IVSE189平面図・断面図	101
第71図	F T B VISE189出土遺物/F T B IVSE201平面図/F T B IVSE201出土遺物	102
第72図	F T B VISD139・SD140平面図・断面図	103
第73図	F T B VISD197平面図・断面図/F T B VISD197出土遺物(1)	104
第74図	F T B VISD197平面図・断面図(2)/F T B VISX79平面図・断面図	105
第75図	F T B VISX79出土遺物(1)	106
第76図	F T B VISX79出土遺物(2)	107
第77図	F T B VISX79出土遺物(3)	108
第78図	F T B VISX79出土遺物(4)	109
第79図	F T B VISX141平面図・断面図	110
第80図	F T B VISX141出土遺物(1)	111
第81図	F T B VISX141出土遺物(2)	112
第82図	F T B VISX168平面図・断面図/F T B IVSX168出土遺物/F T B IVSX125(搅乱)出土遺物	113
第83図	F T B VII造構配置図	127・128
第84図	F T B VII基本層序	129
第85図	F T B VISK70・SK178・SK267・SK268・SK282・SK283・SK304・SK324平面図・断面図	130
第86図	F T B VIIST91a・ST91b平面図・断面図	131
第87図	F T B VIIST91出土遺物/F T B VIIST144平面図・断面図/F T B VIIST144出土遺物	132
第88図	F T B VIIST146平面図・断面図/F T B VIIST146出土遺物	133
第89図	F T B VIIST154平面図・断面図/F T B VIIST154出土遺物	134
第90図	F T B VIIST163平面図・断面図/F T B VIIST163出土遺物	135
第91図	F T B VIIST185床面検出状況平面図・断面図/F T B VIIST185完掘状況平面図	136
第92図	F T B VIIST185出土遺物	137
第93図	F T B VIIST195・ST196平面図・断面図	139・140
第94図	F T B VIIST195・ST196出土遺物	141
第95図	F T B VIIST230平面図・断面図/F T B VIIST230出土遺物	142
第96図	F T B VIIST234平面図・断面図/F T B VIIST234出土遺物	143
第97図	F T B VIIST270平面図・断面図/F T B VIIST270出土遺物	144
第98図	F T B VIIST271平面図・断面図/F T B VIIST271出土遺物	145
第99図	F T B VIIST272平面図・断面図	146
第100図	F T B VIIST276平面図・断面図/F T B VIIST276出土遺物	147
第101図	F T B VISK103平面図・断面図/F T B VISK103出土遺物	148
第102図	F T B VISK119平面図・断面図/F T B VISK119出土遺物	149

第103图	F T B VII SK277平面图·断面图/F T B VII SK277出土遗物	150
第104图	F T B VII SE105平面图·断面图/F T B VII SE105出土遗物/F T B VII SE147平面图·断面图/F T B VII SE147出土遗物	151
第105图	F T B VII SE220平面图·断面图/F T B VII SE258平面图·断面图/F T B VII SE258出土遗物/F T B VII SE264平面图·断面图/F T B VII SE264出土遗物	152
第106图	F T B VII SD10平面图/F T B VII SD10断面图/F T B VII SD10出土遗物	153·154
第107图	F T B VII SD222平面图/F T B VII SD222断面图/F T B VII SD222出土遗物	155
第108图	F T B VII SD244平面图/F T B VII SD244断面图/F T B VII SD244出土遗物	157·158
第109图	F T B VII SE159平面图·断面图/F T B VII SE159出土遗物	159
第110图	F T B VII SD5平面图/F T B VII SD5断面图/F T B VII SD5出土遗物	161·162
第111图	F T B VII SD6平面图/F T B VII SD6断面图/F T B VII SD6出土遗物	163
第112图	F T B VII SD13平面图/F T B VII SD13断面图/F T B VII SD13出土遗物	165·166
第113图	F T B VII SB322平面图·断面图/F T B VII SB322出土遗物	167
第114图	F T B VII SK18·SK25·SK26·SK32平面图·断面图/F T B VII SK18出土遗物/F T B VII SK26出土遗物/F T B VII SK32出土遗物	168
第115图	F T B VII SK29·SK33平面图·断面图/F T B VII SK29出土遗物/F T B VII SK33出土遗物	169
第116图	F T B VII SK58平面图·断面图/F T B VII SK58出土遗物	170
第117图	F T B VII SK73平面图·断面图/F T B VII SK73出土遗物	171
第118图	F T B VII SK74平面图·断面图/F T B VII SK74出土遗物	172
第119图	F T B VII SK99·SK101平面图·断面图/F T B VII SK99出土遗物/F T B VII SK101出土遗物	173
第120图	F T B VII SK111平面图·断面图/F T B VII SK111出土遗物	174
第121图	F T B VII SK156平面图·断面图/F T B VII SK156出土遗物(1)	175
第122图	F T B VII SK156出土遗物(2)	176
第123图	F T B VII SK213平面图·断面图/F T B VII SK213出土遗物	177
第124图	F T B VII SK279平面图·断面图/F T B VII SK279出土遗物	178
第125图	F T B VII SK280平面图·断面图/F T B VII SK280出土遗物	179
第126图	F T B VII SK293平面图·断面图/F T B VII SK293出土遗物/F T B VII SK298平面图·断面图/F T B VII SK298出土遗物	180
第127图	F T B VII SK303平面图·断面图/F T B VII SK303出土遗物/F T B VII SE3平面图·断面图/F T B VII SE3出土遗物	181
第128图	F T B VII SE62平面图·断面图/F T B VII SE62出土遗物/F T B VII SE71平面图	182
第129图	F T B VII SE71出土遗物	183
第130图	F T B VII SE175平面图·断面图/F T B VII SE175出土遗物	184
第131图	F T B VII SE206平面图·断面图/F T B VII SE206出土遗物	185
第132图	F T B VII SE242平面图·断面图/F T B VII SE242出土遗物	186
第133图	F T B VII SD1平面图/F T B VII SD1断面图/F T B VII SD1出土遗物	187·188
第134图	F T B VII SD64平面图·断面图/F T B VII SD64出土遗物	189
第135图	F T B VII SD107平面图/F T B VII SD107断面图	190
第136图	F T B VII SD107出土遗物/F T B VII SP28平面图·断面图/F T B VII SP28出土遗物	191
第137图	F T B VII SX55平面图·断面图/F T B VII SX55出土遗物	192

第138図	F T B 土壌調査区概要図	194
第139図	F T B トレンチ断面図(1)	195
第140図	F T B トレンチ断面図(2)	196
第141図	J ON遺構配置図	198
第142図	J ONSK06平面図・断面図/J ONSK06出土遺物	199
第143図	J ONⅢ遺構配置図	203-204
第144図	J ONⅢ基本層序	205
第145図	J ONⅢST122平面図・断面図/J ONⅢST122出土遺物	206
第146図	J ONⅢSK133・SK136・SK140・SP141・SX142・SX144平面図・断面図	207
第147図	J ONⅢSK133出土遺物/J ONⅢSK136出土遺物/J ONⅢSK140出土遺物/J ONⅢSP141出土遺物(1)	208
第148図	J ONⅢSP141出土遺物(2)/J ONⅢSX142出土遺物(1)	209
第149図	J ONⅢSX142出土遺物(2)	210
第150図	J ONⅢSX144出土遺物/J ONⅢSE10平面図/J ONⅢSD95平面図・断面図	211
第151図	J ONⅢSD95出土遺物/J ONⅢSD120平面図・断面図/J ONⅢSD120出土遺物	212
第152図	J ONⅣ遺構配置図	217-218
第153図	J ONⅣ基本層序	219
第154図	J ONIVST20平面図・断面図	220
第155図	J ONIVST39・ST42・ST43平面図・断面図	221
第156図	J ONIVST43出土遺物/J ONIVST73平面図	222
第157図	J ONIVSK34平面図・断面図/J ONIVSK34出土遺物(1)	223
第158図	J ONIVSK34出土遺物(2)/J ONIV井戸平面図	224
第159図	J ONIVSD29・SD33平面図・断面図	225
第160図	J ONIVSD29出土遺物/J ONIVSD33出土遺物/J ONIVSD36平面図・断面図	226
第161図	J ONIVSD36出土遺物/J ONIVSD37平面図・断面図	227
第162図	J ONIVSD37出土遺物	228
第163図	J ONIVSX79平面図・断面図	229
第164図	J ONIVSX79出土遺物(1)	230
第165図	J ONIVSX79出土遺物(2)	231
第166図	J ONIVSX79出土遺物(3)	232
第167図	J ONIVSX79出土遺物(4)	233
第168図	J ONIVSB80平面図・断面図	234
第169図	J ONV調査区遺構配置図	247-248
第170図	J ONV下層面 遺構配置図	249
第171図	J ONV基本層序/J ONVSX162断面図	250
第172図	J ONVSP114・SP116・SP117・SP122・SP123・SP124・SP125・SP126・SP127・SP132断面図	251
第173図	J ONVSP128・SP129・SP130・SP131・SP134・SP135・SP136・SP137・SP138・SP152・ SP153・SP157・SP158・SP159・SP160・SP161断面図	252
第174図	J ONVSX162Ⅱ層 出土遺物	254
第175図	J ONVRP480出土遺物	255
第176図	J ONVSI179平面図・断面図/J ONVSI179出土遺物	256

第177图	J ON VSK192·SP190平面图/J ON VSK192·SP190出土遗物	257
第178图	J ON VSX162 I 层 出土遗物	258
第179图	J ON VSX162 II 层 出土遗物	259
第180图	J ON VSX162 III 层 出土遗物(1)	260
第181图	J ON VSX162 III 层 出土遗物(2)	261
第182图	J ON V 包含层 I 层 出土遗物	262
第183图	J ON V 包含层 II 层 出土遗物	263
第184图	J ON V 包含层 III 层 出土遗物	264
第185图	J ON VSP204南调查区深堀区平面图·断面图/J ON VSP204出土遗物	265
第186图	J ON VSE95平面图·断面图/J ON VSE95出土遗物	266
第187图	J ON VSE96平面图/J ON VSE96出土遗物(1)	267
第188图	J ON VSE96出土遗物(2)	268
第189图	J ON VSE194·SK202·SK203平面图·断面图	269
第190图	J ON VSK84·SK85平面图·断面图/J ON VSK84 (1 层) 出土遗物	270
第191图	J ON VSK84 (2 层) 出土遗物	271
第192图	J ON VSK86平面图·断面图/J ON VSK86出土遗物	272
第193图	J ON VSK92平面图/J ON VSK92出土遗物	273
第194图	J ON VSK97平面图·断面图/J ON VSK97出土遗物(1)	274
第195图	J ON VSK97出土遗物(2)	275
第196图	J ON VSK100·SK103·SK104平面图·断面图/J ON VSK100出土遗物	276
第197图	J ON VSK103出土遗物/J ON VSK104出土遗物	277
第198图	J ON VSK110平面图/J ON VSK110出土遗物	278
第199图	J ON VSK111·SK193平面图·断面图	279·280
第200图	J ON VSK111出土遗物(1)	281
第201图	J ON VSK111出土遗物(2)	282
第202图	J ON VSK111出土遗物(3)	283
第203图	J ON VSK193出土遗物	284
第204图	J ON VSK168·SP106平面图·断面图/J ON VSK168出土遗物	285
第205图	J ON VSK199平面图/J ON VSK199出土遗物	286
第206图	J ON VSK119·SP120·SP121平面图·断面图/J ON VSP118·SP121出土遗物	287
第207图	J ON VSD99平面图/J ON VSD99出土遗物	288
第208图	J ON VSD101·SK98断面图/J ON VSD101出土遗物	289
第209图	J ON VSD141平面图·断面图/J ON VSD141出土遗物	290
第210图	J ON VSD183平面图·断面图/J ON VSD183出土遗物	291
第211图	J ON VA-12確認面 出土遗物	292
第212图	J ON VI 遗構配置图	295
第213图	J ON VI 基本層序	296
第214图	J ON VSK 7 平面图·断面图/J ON VSK 7 出土遗物	297
第215图	J ON VSK 9 平面图·断面图/J ON VSK 9 出土遗物/J ON VSE 1 平面图·断面图	298
第216图	J ON VSD10平面图·断面图/J ON VSD10出土遗物	299

図 版

- 図版1 F T B VII調査区全景/F T B V下層面遺構完掘状況
- 図版2 F T B III B-2グリット/J ON III SX142/F T B VISK132
- 図版3 F T B VII SK119/F T B VISE11/F T B VISE104
- 図版4 F T B VSD197/F T B VSK297
- 図版5 F T B II 表土除去/F T B II SK05付近遺構精査状況/F T B II SE01完掘状況/F T B II SK 2断面/F T B II SD08断面西半/F T B II SD08断面東半/F T B II SD01・SD15・SD20断面/F T B II SD02断面
- 図版6 F T B II SK02-1/F T B II SD09・SK05・SK12-1/F T B II SD01-1/F T B II SD06-1/F T B II SD08-2/F T B II SD08-3/F T B II SD08-4/F T B II SD08-5/F T B II SD08-6
- 図版7 F T B III 調査区全景/F T B III 作業風景/F T B III 調査状況/F T B III SK 5完掘状況/F T B III SK 5・SD 4断面
- 図版8 F T B III ST72完掘状況/F T B III ST72断面/F T B III SK57断面/F T B III SK63完掘状況/F T B III SK63断面状況
- 図版9 F T B III SK64断面/F T B III SK75断面/F T B III SE20完掘状況/F T B III SE25完掘状況/F T B III SE49完掘状況/F T B III SE53完掘状況/F T B III SD21断面/F T B III SE77完掘状況
- 図版10 F T B III SE65・SD21完掘状況/F T B III SD24・SD26完掘状況/F T B III SD24完掘状況/F T B III SD24断面(a-a')/F T B III SD24断面(b-b')
- 図版11 F T B III SD26断面(c-c')/F T B III SX58完掘状況/F T B III SX58断面/F T B III SK 2人骨出土状況/F T B III SK 2断面/F T B III B-2グリット遺物出土状況
- 図版12 F T B III SK 5/F T B III SK19/F T B III SK57
- 図版13 F T B III SK57/F T B III SK59/F T B III SK63/F T B III SK64/F T B III SK73/F T B III SK75
- 図版14 F T B III SK75/F T B III SE53/F T B III SE20/F T B III SD24
- 図版15 F T B III SD24/F T B III SD26/F T B III SX58/F T B III B-2グリット
- 図版16 F T B IV 1区全景/F T B IV 2区全景
- 図版17 F T B IV SB114全景/F T B IV SB129全景
- 図版18 F T B IV SK99完掘状況/F T B IV SK99断面/F T B IV SE68完掘状況/F T B IV SE68断面/F T B IV SE125完掘状況
- 図版19 F T B IV SE126完掘状況/F T B IV SD5・SK 6・SD 7断面/F T B IV SD5完掘状況
- 図版20 F T B IV SK99/F T B IV SE68/F T B IV SE125/F T B IV SD5
- 図版21 F T B V三の丸堀断面/F T B V精査前状況/F T B V調査風景/F T B V精査前面状況
- 図版22 F T B V
- 図版23 F T B VIST 1遺物出土状況/F T B VIST25断面/F T B VIST45床面検出状況/F T B VIST45断面/F T B VIST45カマド断面
- 図版24 F T B VIST81完掘状況/F T B VIST81遺物出土状況/F T B VIST81断面/F T B VIST81カマド/F T B VIST81カマド断面
- 図版25 F T B VIST120完掘状況/F T B VIST126完掘状況
- 図版26 F T B VIST121断面/F T B VIST126断面/F T B VIST146断面/F T B VIST148完掘状況/F T B VIST148断面/F T B VIST188カマド/F T B VIST188カマド断面/F T B VISK132断面
- 図版27 F T B VIST188精査状況/F T B VISP21断面/F T B VISE 6断面/F T B VISE11断面/F T B VI

SP150断面

- 図版28 F T B VISE23断面/F T B VISE43断面/F T B VISE129断面/F T B VISE186断面/F T B VISE189
断面/F T B VISD139・SD140完掘状況/F T B VISD197完掘状況/F T B VISX79断面
- 図版29 F T B VISX79瓦・礫出土状況/F T B VISX141完掘状況
- 図版30 F T B VIST1/F T B VIST25/F T B VIST45/F T B VIST81/F T B VIST120/F T B VIST126/F
T B VIST131
- 図版31 F T B VIST146/F T B VIST148/F T B VIST188/F T B VISK132/F T B VISE15/F T B VISP3/
F T B VISP21/F T B VISD16/F T B VISK10/F T B VISE6
- 図版32 F T B VISE11/F T B VISE8/F T B VISE13/F T B VISE104/F T B VISK191/F T B VISK211/
F T B VISP150/F T B VISE7
- 図版33 F T B VISE128/F T B VISE129/F T B VISE186/F T B VISE187/F T B VISE189/F T B VI
SE201/F T B VISD139/F T B VISD140/F T B VISD197
- 図版34 F T B VISD197/F T B VISX79
- 図版35 F T B VISX79/F T B VISX168/F T B VISX141
- 図版36 F T B VISX141
- 図版37 F T B VII調査区全景/F T B VII SK70完掘状況/F T B VII SK70断面/F T B VII SK178完掘状況
- 図版38 F T B VII SK178断面/F T B VII SK267・SK268完掘状況/F T B VII SK267断面/F T B VII SK268断面/
F T B VII SK282断面/F T B VII SK283完掘状況/F T B VII SK283断面/F T B VII SK304完掘状況
- 図版39 F T B VII SK304断面/F T B VII SK324完掘状況/F T B VII ST91床面検出状況/F T B VII ST91完掘状
況/F T B VII ST91断面(a-a')
- 図版40 F T B VII ST91断面(b-b')/F T B VII ST144断面(a-a')/F T B VII ST144床面検出状況/F T B VII
ST144断面
(b-b')/F T B VII ST146完掘状況
- 図版41 F T B VII ST146断面/F T B VII ST154完掘状況/F T B VII ST163完掘状況/F T B VII ST163カマド/
F T B VII ST163カマド北ソデ断面/F T B VII ST163・SX169断面/F T B VII ST185完掘状況/F T B VII
ST185カマド
- 図版42 F T B VII ST185床面検出状況/F T B VII ST185断面/F T B VII ST185カマド断面/F T B VII ST195・
ST196断面(b-b')/F T B VII ST230完掘状況
- 図版43 F T B VII ST195・ST196完掘状況/F T B VII ST230床面検出状況
- 図版44 F T B VII ST230・ST270断面/F T B VII ST234完掘状況/F T B VII ST234断面(a-a')/F T B VII ST234
断面(b-b')/F T B VII ST270完掘状況
- 図版45 F T B VII ST270断面(a-a')/F T B VII ST270完掘状況/F T B VII ST271完掘状況/F T B VII ST272断
面/F T B VII ST276完掘状況
- 図版46 F T B VII SK103断面/F T B VII SK119遺物出土状況/F T B VII SK118・SK119・SK120断面/F T B
VISE105・SK106完掘状況/F T B VII SE105断面/F T B VII SE147完掘状況/F T B VII SE220断面/F T B
VISE258断面
- 図版47 F T B VII SE264完掘状況/F T B VII SE264・SK265断面/F T B VII SD10完掘状況/F T B VII SD10ほか
断面/F T B VII SD222完掘状況/F T B VII SD244完掘状況/F T B VII SD244断面
- 図版48 F T B VII SE159完掘状況/F T B VII SE159断面/F T B VII SD5完掘状況/F T B VII SD5断面(b-b')/F
T B VII SD5断面(c-c')/F T B VII SD5断面(d-d')/F T B VII SD6完掘状況

- 図版49 F T B VII SD 6 断面(a-a')/F T B VII SD 6 断面(b-b')/F T B VII SD13 完掘状況/F T B VII SD13 断面(a-a')/F T B VII SD13 断面(b-b')/F T B VII SD13 断面(c-c')/F T B VII SD13 断面(d-d')
- 図版50 F T B VII SB322 完掘状況/F T B VII SK18・SK25 断面/F T B VII SK29・SK33 断面/F T B VII SK58・SX59 断面/F T B VII SK73 断面
- 図版51 F T B VII SK74・SD75・SD76 断面/F T B VII SK100・SK101 断面/F T B VII SK111・SD10 断面/F T B VII SK156 完掘状況/F T B VII SK156 断面/F T B VII SP211・SK212・SK213 断面/F T B VII SK279 完掘状況/F T B VII SK279 断面
- 図版52 F T B VII SK280 完掘状況/F T B VII SK303 完掘状況/F T B VII SK298 完掘状況/F T B VII SK303 断面/F T B VII SE3 完掘状況/F T B VII SE3 断面/F T B VII SE71 完掘状況
- 図版53 F T B VII SE175 完掘状況/F T B VII SE175 断面/F T B VII SE206 完掘状況/F T B VII SE206 断面/F T B VII SE242 完掘状況/F T B VII SD107 完掘状況/F T B VII SD1 完掘状況
- 図版54 F T B VII SD107 断面/F T B VII SX55 検出状況/F T B VII SX55 完掘状況/F T B VII SX55 断面(a-a')/F T B VII SX55 断面(b-b')
- 図版55 F T B VII ST91/F T B VII ST144/F T B VII ST146/F T B VII ST154/F T B VII ST163/F T B VII ST185/F T B VII ST196/F T B VII ST195
- 図版56 F T B VII ST195/F T B VII ST230/F T B VII ST234/F T B VII ST270/F T B VII ST271/F T B VII ST276/F T B VII SK119/F T B VII SK277/F T B VII SE147
- 図版67 F T B VII SE147/F T B VII SE258/F T B VII SE264/F T B VII SD10/F T B VII SD222/F T B VII SD244/F T B VII SE159/F T B VII SD5/F T B VII SD13
- 図版58 F T B VII SD13/F T B VII SB322/F T B VII SK18/F T B VII SK25/F T B VII SK26/F T B VII SK32/F T B VII SK29/F T B VII SK33/F T B VII SK58/F T B VII SK74/F T B VII SK73/F T B VII SK99/F T B VII SK101/F T B VII SK111
- 図版59 F T B VII SK156/F T B VII SK213/F T B VII SK279
- 図版60 F T B VII SK279/F T B VII SK280/F T B VII SK293/F T B VII SK298/F T B VII SE3/F T B VII SE62
- 図版61 F T B VII SE62/F T B VII SE71/F T B VII SE175/F T B VII SE206/F T B VII SE242/F T B VII SD1
- 図版62 F T B VII SD64/F T B VII SD107/F T B VII SP28/F T B VII SX55
- 図版63 F T B 三の丸土壙断面(a-a')/F T B 三の丸土壙断面(b-b')
- 図版64 F T B 三の丸土壙断面(c-c')/F T B 三の丸土壙断面(d-d')
- 図版65 J ON 調査区全景/J ON SK06 完掘状況/J ON 作業風景
- 図版66 J ON SK06
- 図版67 J ON III 1区全景/J ON III 3区全景
- 図版68 J ON III ST122 完掘状況/J ON III ST122 カマド付近遺物出土状況
- 図版69 J ON III SP131・SK132・SK133 完掘状況/J ON III SK136 遺物出土状況/J ON III SK140 断面/J ON III SP141 完掘状況/J ON III SX142 完掘状況/J ON III SX142 断面/J ON III SX144 完掘状況/J ON III SX144 断面
- 図版70 J ON III SD95 完掘状況/J ON III SD95 断面/J ON III SD120 完掘状況/J ON III SD120 断面
- 図版71 J ON III ST122/J ON III SK133/J ON III SK136/J ON III SK140/J ON III SP141/J ON III SX142
- 図版72 J ON III SX142/J ON III SX144/J ON III SD95/J ON III SD120
- 図版73 J ON IV ST20 完掘状況/J ON IV ST20 カマド/J ON IV ST39・ST42・ST43 床面検出状況/J ON

- IVST39床面検出状況/JONIVST39カマド断面
- 図版74 JONIVST39完掘状況/JONIVST39・ST42・ST43完掘状況/JONIVST42・ST43断面(c-c')/JONIVSK34断面/JONIVSE30完掘状況/JONIVSE46完掘状況/JONIVSE47完掘状況
- 図版75 JONIVSE60完掘状況/JONIVSD33完掘状況/JONIVSD29・SD30断面(a-a')/JONIVSD33断面(b-b')/JONIVSD36断面/JONIVSD37縦検出状況/JONIVSD37・SX38断面/JONIVSX79プラン検出状況
- 図版76 JONIVSX79完掘状況/JONIVSX79断面(a-a')/JONIVSX79断面(b-b')
- 図版77 JONIVST43/JONIVSK34/JONIVSD29/JONIVSD33/JONIVSD36
- 図版78 JONIVSD37/JONIVSX79
- 図版79 JONIVSX79
- 図版80 JONIVSX79
- 図版81 JONIVSX79
- 図版82 JONVSI179完掘状況/JONVSE95断面/JONVSE95完掘状況/JONVSE96完掘状況/JONVSE194完掘状況/JONVSK84断面/JONVSK97断面/JONVSK97断面
- 図版83 JONVSK103断面/JONVSK100・SK103・SK104完掘状況/JONVSK111・SK112断面(1)/JONVSK111・SK112断面(2)JONVSK202・SK203断面/JONV調査区南端完掘状況/JONVSD183完掘状況/JONVSD141断面
- 図版84 JONVSD201断面/JONVSP106断面/JONVSP152・SP153断面/JONV遺構精查状況/JONV南調査区南壁断面/JONVSX162断面/JONV北調査区基本層序/JONV下層面遺構完掘状況
- 図版85 JONVSE96/JONVSK84-1層/JONVSK86/JONVSK97/JONVSK100/JONVSK103/JONVSK104/JONVSK110/JONVSK111
- 図版86 JONVSK193/JONVSK168/JONVSK192/JONVSK199/JONVSD99/JONVSP118/JONVSP204/JONVSX162Ⅰ層/JONVSX162Ⅱ層
- 図版87 JONVSX162Ⅲ層/JONV包含層Ⅱ層/JONV包含層Ⅲ層/JONVSP146-1/JONVA-12確認面
- 図版88 JONVSI179/JONVSE95
- 図版89 JONVSK84-1層/JONVSK84-2層
- 図版90 JONVSE96/JONVSK92
- 図版91 JONVSK100・SK103・SK104/JONVSK111(1)
- 図版92 JONVSK111(2)/JONVSK193
- 図版93 JONVSD99・SD101・SD141/JONVSD183
- 図版94 JONVSX162Ⅰ層/JONVSX162Ⅱ層
- 図版95 JONVSX162Ⅲ層/JONV包含層Ⅰ層
- 図版96 JONV包含層Ⅲ層/JONVRP480
- 図版97 JONVSP出土遺物/JONV出土遺物
- 図版98 JONVI1区完掘状況/JONVSK7完掘状況/JONVI2区完掘状況
- 図版99 JONVSK7断面/JONVSK9断面/JONVISE1断面/JONVSD10完掘状況/JONVSD10(a-a')/JONVSD10断面(b-b')/JONVI2区作業風景
- 図版100 JONVSK7/JONVSK9/JONVSD10

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

山形駅西地区には、既存の市街地と連続して生活・文化・情報機能等の役割を果たす「新都心地区」としての整備の要望が以前より求められてきた。そこで山形市都市開発部新都市拠点整備課により、平成8年度から双葉町一丁目・城南町一～三丁目・香澄町一丁目の区域を対象として山形駅西地区画整理事業が実施され、駅前広場及び都市計画道路5路線の建設を骨格とする公共施設の整備が進められる事となった。その経過の中で、東ソー株式会社山形工場撤退後の跡地やその周辺地域については、上記事業実施区域が山形城三の丸範囲内の一画を成すものと推定されていたことから、平成9年度に山形県教育委員会・山形市教育委員会により試掘調査が実施され、埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。その結果を受け関係諸機関の協議により、記録保存を目的とした緊急発掘調査が実施される事となった。

発掘調査を実施した区域の内、東ソー株式会社山形工場跡地発掘調査部分（双葉町遺跡）（齋藤・須藤2003-2005）及び山形駅西新都心ビル（霞城セントラル）建設に先立つ山形県埋蔵文化財センター実施の発掘調査部分（城南一丁目遺跡）（黒坂・國井・稻村2000）については既に報告書が刊行されている。

他には区画整理事業地外であるが、都市計画道東原木沢線の拡幅工事に先立つ発掘調査が山形県埋蔵文化財センターにより実施され、報告書が刊行されている（伊藤2005）。

以下、本報告書所収の各調査区の調査に至る経緯を略述する。（ ）内は各調査次の略号である。各調査の概要是表2の、各調査区の位置は第2図のとおりである。

双葉町遺跡第2次調査（F T B II）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道山形停車場西口線の拡幅工事が計画され、教育委員会宛てに平成10年4月19日付けで埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「双葉町遺跡」に含まれるため、緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

双葉町遺跡第3次調査（F T B III）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により西口駅前広場整備工事が計画され、教育委員会宛てに平成11年4月1日付けで埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「双葉町遺跡」に含まれるため、緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

双葉町遺跡第4次調査（F T B IV）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により西口駅前広場立体横断自由通路（アピカ）の建設工事が計画され、教育委員会宛てに平成12年4月19日付けで埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「双葉町遺跡」に含まれることから、緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

双葉町遺跡第5次調査（F T B V）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道十日町城南町線の建設工事が計画され、教育委員会宛てに平成13年4月19日付けで埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「双葉町遺跡」に含まれることから、緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

双葉町遺跡第6次調査（F T B VI）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道南追手前南館線建設工事が計画され、教育委員会宛てに平成15年4月1日付けで埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「双葉町遺跡」に含まれることから、緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

I 調査の経緯

双葉町遺跡第7次調査（F T B VII）

昨年度の山形市都市開発部新都市拠点整備課による都市計画道南追手前南館線建設工事に伴い、駅西土地区画整理事業地Dブロックの造成工事が計画され、先の教育委員会宛て平成15年4月1日付け照会により、年度を繰り越して緊急発掘調査による記録保存を実施することとなった。

双葉町遺跡 三の丸土壘調査区（F T B）

山形市都市開発部新都市拠点整備課による駅西土地区画整理事業に伴う東ソ一株式会社山形工場の解体に合わせ、絵図等から三の丸土壘跡の痕跡と目されていた工場敷地南端の高まりに対して、平成9年7月4日から試掘調査を行い、結果土壘と推定される土層堆積状況が確認された。

そのため、平成10年2月5日まで、双葉町遺跡（F T B）B区・A区の調査（齋藤・須藤2004）と併行して断続的にトレーナー調査を実施した。

城南町遺跡第1次調査（J O N）

個人により住宅の建築工事が計画され、教育委員会宛てに平成9年度に埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「城南町遺跡」に含まれるため、調査を実施することとなった。

城南町遺跡第3次調査（J O N III）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道山形停車場西口線の拡幅工事が計画され、教育委員会宛てに平成11年4月に埋蔵文化財の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「城南町遺跡」に含まれることから、調査を実施することとなった。

城南町遺跡第4次調査（J O N IV）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道霞城公園南口線の拡幅工事が計画され、教育委員会宛てに平成12年4月に埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「城南町遺跡」に含まれることから、調査を実施することとなった。

城南町遺跡第5次調査（J O N V）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により都市計画道霞城公園南口線の拡幅工事が計画され、教育委員会宛てに平成13年4月1日付けで埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「城南町遺跡」に含まれることから、調査を実施することとなった。

城南町遺跡第6次調査（J O N VI）

山形市都市開発部新都市拠点整備課により区道10号線の拡幅工事が計画され、教育委員会宛てに平成13年4月1日付けで埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。事業区域が周知の遺跡「城南町遺跡」に含まれることから、調査を実施することとなった。

2 調査の経過

双葉町遺跡第2次調査（F T B II）

発掘調査は平成10年6月22日から8月7日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、8月7日に発掘調査の全作業工程を終了した。

双葉町遺跡第3次調査（F T B III）

発掘調査は平成11年7月19日から9月30日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、9月30日に発掘調査の全作業工程を終了した。

双葉町遺跡第4次調査（FTB IV）

発掘調査は平成12年5月1日から6月8日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、6月8日に発掘調査の全作業工程を終了した。

双葉町遺跡第5次調査（FTB V）

発掘調査は平成13年11月2日から11月17日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。事業実施範囲の内、発掘調査は部分的な内容にとどめ、面整理段階で検出された山形城三の丸堀跡と推定される遺構にトレーンチを設定し、断面を記録するに留めた。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、11月17日に発掘調査の全作業工程を終了した。

双葉町遺跡第6次調査（FTB VI）

発掘調査は平成15年8月27日から12月5日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、12月5日に発掘調査の全作業工程を終了した。

双葉町遺跡第7次調査（FTB VII）

発掘調査は平成16年3月15日から7月14日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、7月14日に発掘調査の全作業工程を終了した。

城南町遺跡第1次調査（JON I）

発掘調査は平成9年9月3日から9月16日にかけて実施した。住宅建築区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、9月16日に発掘調査の全作業工程を終了した。

城南町遺跡第3次調査（JON III）

発掘調査は平成11年8月1日から11月1日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、11月1日に発掘調査の全作業工程を終了した。

城南町遺跡第4次調査（JON IV）

発掘調査は平成12年5月1日から6月8日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、6月8日に発掘調査の全作業工程を終了した。

I 調査の経緯

城南町遺跡第5次調査（JONV5）

発掘調査は平成13年9月26日から11月4日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、11月4日に発掘調査の全作業工程を終了した。

城南町遺跡第6次調査（JONV6）

発掘調査は平成13年11月2日から11月14日にかけて実施した。事前の協議で定めた発掘調査区域の表土を重機により除去し、その後人力により遺構の検出作業を実施した。

その後、調査区内に国家座標値に基づき5mメッシュの方眼区域を設定し、遺構の精査・写真・図面等の諸記録作業を行い、11月14日に発掘調査の全作業工程を終了した。

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

山形市は、山形県東部に形成される山形盆地の南東部に位置する。東側には宮城県との県境となる奥羽山脈が連なり、市域の南部と西部には白鷹丘陵が裾野を広げている。奥羽山脈に源を発する馬見ヶ崎川が市内を北流し、南東から北西に伸びる扇状地を形成し、その中に山形市街地は形成されている。その他にも、周囲の山々から流れ出す大小の河川が小規模な扇状地をつくり、複合扇状地の様相を呈している。

双葉町遺跡・城南町遺跡は山形市の中心部、JR山形駅の西側に隣接して、山形市双葉町一丁目・城南町一～二丁目地内に所在する。馬見ヶ崎川によって形成された扇状地上に立地した山形市街地は、東の奥羽山脈から村山盆地南半西側を北流する須川に向かって緩やかに傾斜して低くなっている。本遺跡は扇状地の扇端部に立地しており、平均標高は約129mを測る。調査区の東側は扇状地扇央部、西側は扇状地下を伏流する小河川によって形成される沖積平野と、その間に自然堤防が絡み合うような地形様相を呈している。調査前の地目は工業用地・宅地として利用されていた。

2 歴史的環境

山形市内では現在約330箇所の遺跡が確認されている。近年の山形市内においては、各地域で土地区画整理事業等をはじめとする開発事業の進展に伴い、埋蔵文化財と開発行為との調整が増加している。

双葉町遺跡・城南町遺跡の所在する山形駅西地区付近には、第1図のように縄文時代中期の熊ノ前遺跡、縄文時代中期～平安時代までの複合遺跡である山形西高敷地内遺跡（8）が存在する。

古墳時代では、前期の集落は山形西高敷地内遺跡（8）、後期の集落はJR山形駅より北西に2.2kmの位置に国指定史跡鶴岡遺跡、古墳と伝えられる地点は石関古墳・五日町古墳（20）、JR山形駅より南西5.4kmの場所に形象埴輪の出土した県指定史跡「普沢古墳2号墳」が所在する。

奈良～平安時代では鉄砲町三丁目遺跡（10）、鉄砲町一丁目遺跡（9）長苗代条里遺跡（18）などが所在する。

中世に至り、西根小但馬屋敷（35）や南館（16）などの平地居館が築かれ、戦国時代に至り長谷堂城・成沢城・平清水館（11）・山家楯などの山城が築かれたものと推定される。

近世になると双葉町遺跡（1）、城南町遺跡（2）、城南一丁目遺跡（3）を含む山形城三の丸（6）が築かれ、現在の山形市街地に続く都市計画がなされている。山形城跡の本丸と二の丸を中心とする区域、すなわち現在の霞城公園（4）、十日町の三の丸の堀と土塁の残存区域（5）については史跡として国指定を受け、現在整備が進められている。

これらの事から、縄文時代中期頃から人々は既に山形市内に形成自然堤防としての微高地に集落を営み、そして古墳時代・奈良～平安時代に至っても当地において集落が形成され、生業活動が行われ続けたものと考えられる。

現在の山形市街地は、古代の地名では出羽国最上郡のうち最上郷が比定されている（加藤1987）。その時期の集落の一端を成すのが双葉町遺跡・城南町遺跡であり、古代出羽国最上郡内の集落の一部であったものと推定される。山形市街地の西側、須川周辺の自然堤防には多くの奈良～平安時代遺跡が確認される。また、山形市内南端の中位段丘地に展開する山形市小松原地区や上山市久保手地区では、当時の須恵器の大生産地帯であった事を物語るように、窯跡遺跡が数多く発見されている。これら生産遺跡についても近年発掘調査事業が蓄積されており、双葉町遺跡・城南町遺跡をはじめとする山形市内消費地遺跡との供給関係など、関連

II 遺跡の立地と環境



表1 周辺遺跡地名表

No	遺 跡 名	No	遺 跡 名	No	遺 跡 名
1	双葉町遺跡	14	荒棚	27	吉原Ⅶ遺跡
2	城南町遺跡	15	松見町遺跡	28	若宮の館跡
3	城南一丁目遺跡	16	南館	29	馬上台遺跡
4	山形城跡	17	五日町遺跡	30	江候遺跡
5	山形城跡（三の丸部分）	18	長苗代条里	31	宮町古墳
6	山形城三の丸堀推定ライン	19	觀音堂遺跡	32	桧葉ノ木遺跡
7	城北遺跡	22	五日町古墳	33	川原田遺跡
8	山形西高敷地内遺跡	21	吉原Ⅰ遺跡	34	宮町円応寺遺跡
9	鉄砲町一丁目遺跡	22	吉原Ⅱ遺跡	35	西根小但馬屋敷
10	鉄砲町三丁目遺跡	23	吉原Ⅲ遺跡	36	宮町三小遺跡
11	平清水館	24	吉原Ⅳ遺跡	37	薬師町五中遺跡
12	青田遺跡	25	吉原Ⅴ遺跡		
13	永大ハウス裏遺跡	26	吉原Ⅵ遺跡		

表2 双葉町遺跡各調査次概要

調査件名	調査原因	調査期間	北緯	東経	調査面積(m ²)
F T B II	駅西土地区画整理事業山形停車場西口線拡幅工事	平成10年6月22日～8月7日	38° 14' 57"	140° 19' 34"	800m ²
F T B III	駅西土地区画整理事業西口駅前広場建設工事	平成11年7月19日～9月30日	38° 14' 55"	140° 19' 34"	1,200m ²
F T B IV	駅西土地区画整理事業山形停車場西口線立体横断施設建設工事	平成12年5月1日～6月8日	38° 14' 57"	140° 19' 34"	400m ²
F T B V	駅西土地区画整理事業都市計画道十日町双葉町線建設工事	平成13年11月2日～17日	38° 14' 47"	140° 19' 23"	36m ²
F T B VI	駅西土地区画整理事業都市計画道南追手前南館線建設工事	平成15年8月27日～12月5日	38° 14' 51"	140° 19' 20"	3,000m ²
F T B VII	駅西土地区画整理事業D街区造成工事	平成16年3月15日～7月14日	38° 14' 52"	140° 19' 21"	2,500m ²
F T B (土星調査区)	駅西土地区画整理事業	平成9年7月4日～平成10年2月5日	38° 14' 48"	140° 19' 25"	1,680m ²

表3 城南町遺跡各調査次概要性についても今後の課題となっている。

調査件名	調査原因	調査期間	北緯	東経	調査面積(m ²)
J O N I	個人住宅建設工事	平成9年9月3日～9月16日	38° 15' 03"	140° 19' 34"	200m ²
J O N III	駅西土地区画整理事業山形停車場西口線拡幅工事	平成11年9月27日～12月3日	38° 15' 00"	140° 19' 28"	1,000m ²
J O N IV	駅西土地区画整理事業都市計画道霞城公園南口線建設工事	平成12年5月1日～6月8日	38° 15' 05"	140° 19' 31"	900m ²
J O N V	駅西土地区画整理事業都市計画道十日町双葉町線建設工事	平成13年9月26日～11月4日	38° 15' 05"	140° 19' 33"	1,200m ²
J O N VI	駅西土地区画整理事業区道10号線建設工事	平成13年11月2日～11月17日	38° 15' 09"	140° 19' 41"	100m ²

II 遺跡の立地と環境

性についても今後の課題となっている。

中世において、現在の山形市街地の範囲は「大山荘」の範囲内に推定され、長表遺跡、志戸田縄遺跡、吉原I遺跡（21）などが当該期の遺跡として確認されている。

山形城は、延文元年（1356）に出羽管領として入部した斯波兼頼によってその原型が築かれたと伝えられる。しかし当該期の山形城はどこに築かれたのか、現在確たる痕跡は確認されておらず、室町時代における山形城の正確な位置及び様相は未だ不明のままである。

近世に入ってからの山形城の形成は、斯波氏の子孫である最上義光が奥羽仕置の後、推定13万石の所領を安堵されて以降と文献記録等より推定されている。本丸から三の丸に至る大規模な連郭式縄張りによる城郭、加えて城外に連結する町場の形成は、義光が出羽合戦（1600）の功績で57万石といわれる領地を安堵されて以降のものと推定され、根拠としては最上義光発布の書状（『立石寺文書』）等から判断して慶長年間（1596～1614）以降と考えられるが、その過程については諸説があり、資料の少なさや脆弱さにより未だ定かではない。

絵図から推定される本丸の規模は東西170m・南北190mであり、現在残る二の丸の規模は、東西530m・南北590mである。山形城跡は昭和63年に国指定史跡となり、「霞城公園」の名称で、市民の憩いの場や運動施設として利用されている。

山形市街地の中心に位置する三の丸の規模は、絵図から推定すると東西1580m・南北2090mである。現在は痕跡が市内各地に点在するのみであるが、良好に残存している十日町口近辺の堀と土塁が本丸・二の丸と併せて史跡の指定を受けている。

本丸及び二の丸は藩主の政務及び日常の場であったと考えられる。三の丸内外には下級家臣の屋敷が配置され、近世初頭の最上氏時代の城下絵図「最上家在城諸家中町割図（藤原守春本）」（山形県立図書館蔵）（第3図）によると、三の丸の中に511軒、三の丸の外に943軒の家臣團屋敷が存在したことが看取できる。三の丸内部には中・上級の家臣團が、三の丸の外部縁辺には足軽や小姓などの身分の低い家臣團が屋敷を構えるといった住み分けが成されていたと推定される。

三の丸内部の区画は、街路が二の丸の東西南北四方の門と三の丸の11の虎口を結ぶ形で四方に規格的に連結するよう配置され、交差する部分は丁字路、あるいは鉤型となっている。最上氏時代には、重臣の屋敷が二の丸門外側付近、あるいは三の丸門内側付近に配置されていた様子が絵図から読み取れる。

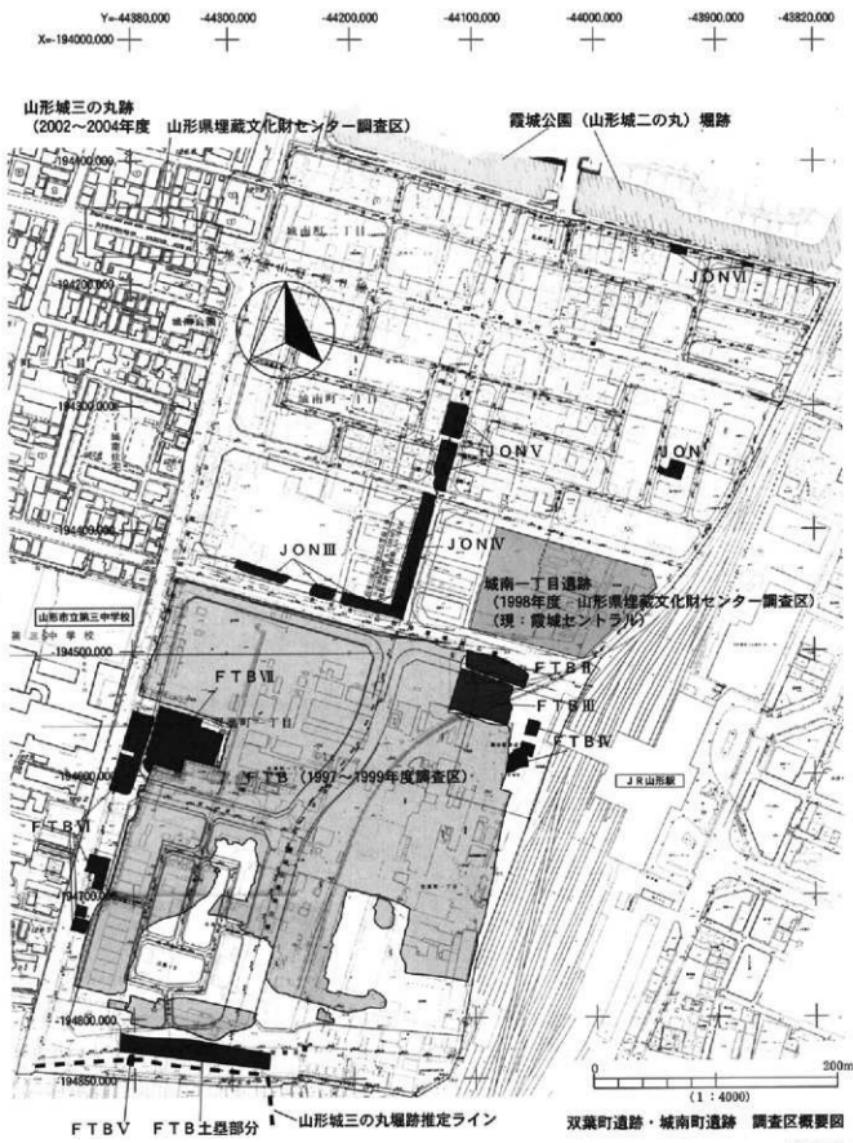
その後最上氏は元和8年（1622）に改易され、鳥居忠正がその年の内に、続いて寛永13年（1636）に保科正之が入部している。文献記録によれば、この頃に山形城の大改修が行われている。

城南町遺跡・双葉町遺跡は山形城三の丸の一部を成すものと考えられ、「最上家在城諸家中町割図」に対照すると、調査区に該当する部分については「里見」等の屋敷地の名称が確認できる。近世の中～後期に至ると、結城松平氏時代の元禄元年（1688）絵図他にも「畑地」と記載があり、屋敷地ではなく農地として利用され続けたものと推測される。

近代に至り、明治2年（1869）に廃藩置県が実施され、新制「山形県」が明治4年（1871）7月の廃藩令により置かれることとなり、この際に本丸が取り壊されたと伝えられる。

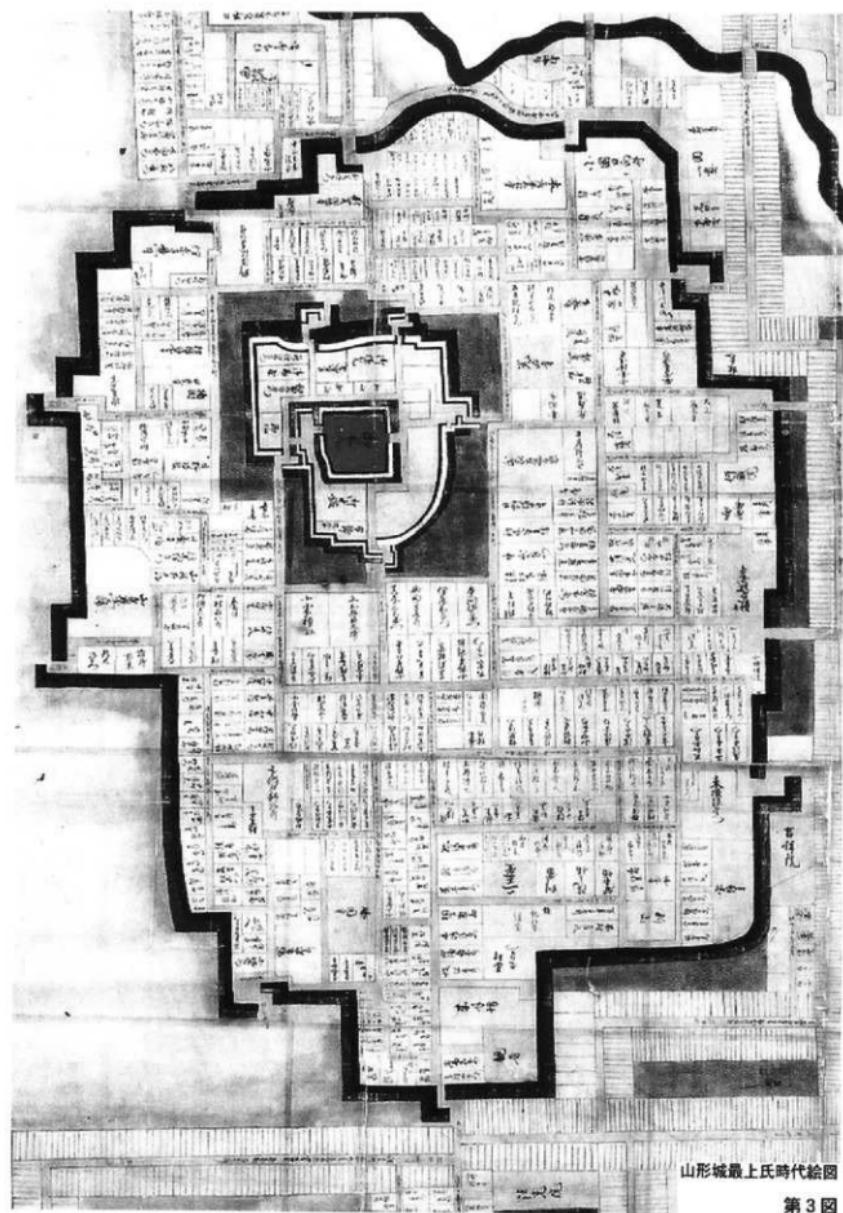
明治34年（1901）に現在の場所に国鉄山形駅が開設、奥羽南線が開通し、商業都としての交通基盤が整備されるに至った。駅舎西側には明治31年（1898）に第八師団歩兵32連隊が設置されることとなり、今回の発掘調査区域はその練兵場の一部に利用されていたものと考えられ、ほとんどは固化していないが、その痕跡を物語る遺構・遺物も多数出土している。

化学薬品工業会社である「鐵興社」がこの場所に工場を建設したのは昭和3年（1928）のことであり、以後昭和30年（1955）に東ソー株式会社と合併し、戦後山形市内の有数の企業として高度経済成長期を支えた。



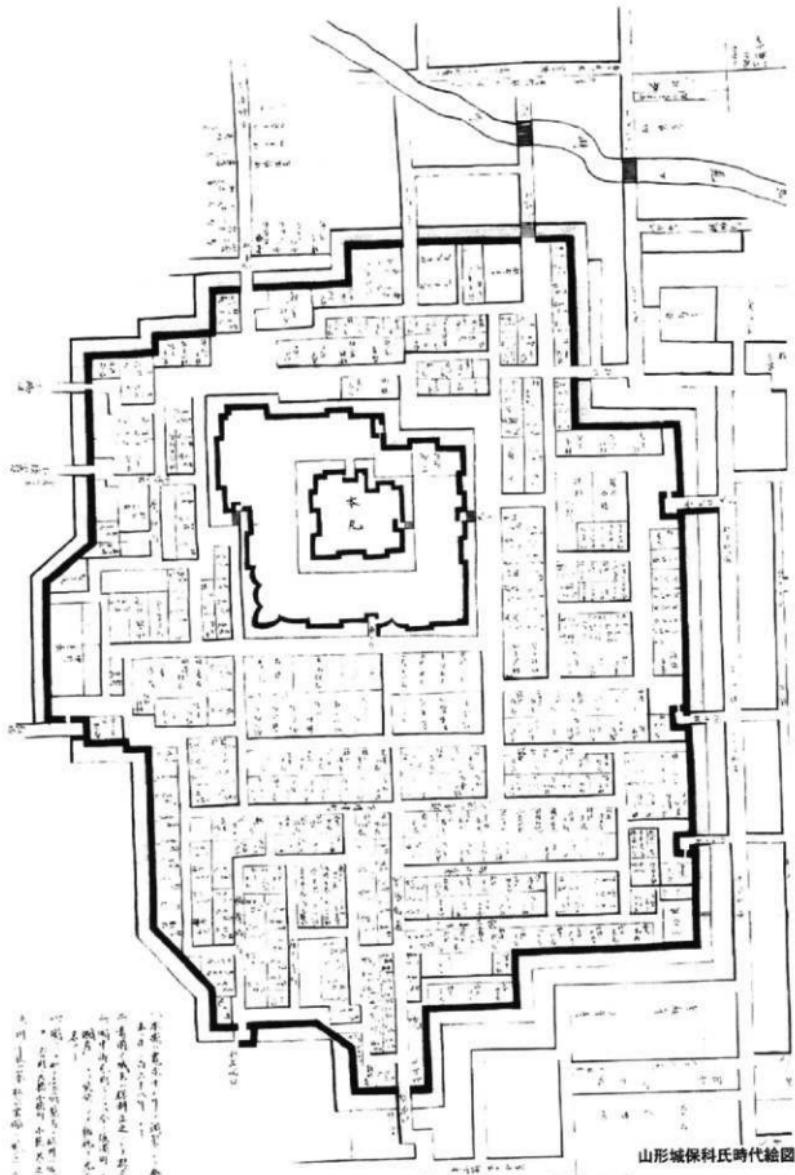
第2図

II 遺跡の立地と環境



山形城最上氏時代絵図

第3図



第4図

II 遺跡の立地と環境

近年に至り、山形駅西地区の再開発を目的として山形市による土地区画整理事業の実施が確定した平成8年、工場の撤退が決定した。それ以後、土地区画整理事業の進捗に先立ち、工場内外の土地区画整理事業対象地にて発掘調査を実施することとなった。

III 双葉町遺跡

1 第2次調査 (FTB II)

(1) 遺跡の層序

双葉町遺跡第2次調査区については、近世期における山形城の城下町としての土地利用を終えた後、明治時代に入ってから明治29年(1896)に大日本帝国陸軍歩兵第32連隊の練兵場が置かれ、その後昭和時代になつてから宅地や社屋として分譲されたものと諸記録等から推察される。これらの開発に伴う近代以降の痕跡が調査区全体に確認された。

FTB II調査区の層序については現場段階では記録していない。隣接する双葉町遺跡(FTB)調査区や第3次調査(FTB III)区の状況と大きくは変わらず、I層として近代～現代に至る整地層、II層として近世の遺物を含む包含層、III層にて遺構を確認した暗褐色シルト層、といった基本層序の状況であり、遺構は全てIII層にて確認された。

(2) 遺構と遺物の分布

本調査区では近世の土坑群や井戸跡群及び溝跡、近代における練兵場としての利用に係る塹壕とおぼしきクランクする溝跡群が検出された。遺構と遺物の分布は調査区全体でまんべんなく検出されたが、全体的に近年までの開発による搅乱が著しい様相であった。

本調査の前後に、南側隣接地で双葉町遺跡発掘調査(FTB)を実施しており、古代及び近世の遺構・遺物群が数多く検出されている。国鉄貨物引込線関連施設の敷設に伴い開発の繰り返されてきた箇所であり、概略的な傾向として、調査区の東側、現在のJR山形駅寄りに向かうにつれて遺構・遺物の分布に比して搅乱が著しくなる様相であった。都市計画道路山形停車場西口線に隣接する調査区北側においては特に開発の痕跡が著しく、遺構・遺物の残存が全く見られない状況であり、埋蔵文化財の調査は不要と判断された。

今回の調査においては、遺物は中～近世初頭移行期の陶磁器・瓦類・金属製品、古代の土師器・須恵器、近現代の遺物群がまとまって検出された。いずれも遺構に伴う出土状況であったが、遺構検出段階においてII層中から近世の遺物が若干確認された。自然の作用による二次的な堆積によるものがほとんどと考えられる。

近代の塹壕跡の精査の後に近世の遺構群の精査に着手する方針で調査を実施した。調査期間の制約もあり、ほとんどの遺構について完掘することができなかった。出土遺物についても帰属遺構が判然しないものがあることを予めお断りしておきたい。

(3) 検出された遺構と遺物

① 中世～近世

FTB II SE01 (第6図：図版5)

特 徴 平面プランは円形を呈する石組井戸である。FTB II SD08を切る。

出土遺物 大定通寶(1)が出土した。他に、図化していないが黒瓦が多数出土した。

時 期 出土遺物やSD08との切り合いから、井戸として機能した年代は近世初頭以降が推定される。

III 双葉町遺跡

F T B II SK 2 (第7図: 図版5・6)

- 特 徴 平面プランは、隅丸方形を呈する土坑である。他遺構との切り合いはない。
出土遺物 唐津碗(1)が1点出土した。
時期 出土した遺物や堆積土の状態から、近世初頭の年代が推定される。

F T B II SK05 (第8図: 図版5・6)

- 特 徴 平面プランは、不正円形を呈する土坑である。F T B II SK12を切る。
出土遺物 F T B II SK12・SD13と共にトレンチ精査時に天目茶碗(1)が1点出土した。調査期間の制約上、完掘できなかった。他に、図化していないが黒瓦が多数出土した。
時期 出土した遺物や堆積土の状態から、近世初頭の年代が推定される。

F T B II SK12 (第8図: 図版6)

- 特 徴 平面プランは不正円形を呈する土坑である。F T B II SK05に切られ、F T B II SD06・SD13に切られる。
出土遺物 図化していないが天目茶碗(SK05・SD13・SK12-1)以外にも近世陶磁器が出土した。調査期間の制約上、完掘できなかった。他に、図化していないが壇し瓦が多数出土した。
時期 出土した遺物の年代や、SK05との切り合いから、廃絶した年代としては近世初頭が推定される。

F T B II SD08 (平面) 第5図・(断面) 第11図: 図版5・6

- 特 徴 平面プランは、蛇行しながら北東より南西に流れる。F T B III SD24・F T B SD6035と同一の溝跡である。
出土遺物 石製品(1~6)が多量に出土した。調査期間の制約上、完掘できなかった。他に、図化していないが黒瓦が多数出土した。
時期 出土した遺物の年代や、SD08との切り合いから、廃絶した年代としては近世初頭の年代が推定される。先のF T B II SE01や、他の調査区でも近世初頭と推測される遺構群に切られる層位関係にあることから、中世末~近世初頭の年代が推定される。

F T B II SD02 (第10図: 図版5)

- 特 徴 平面プランは、直行して北西より南東に流れる。F T B III SD26と同一の溝である。
出土遺物 遺物は出土していない。調査期間の制約上、完掘できていない。図化していないが黒瓦が多数出土した。
時期 覆土の堆積状況や、F T B III調査区においてF T B III SE32・F T B III SE49に切られる状況から勘案して、廃絶した年代としては中世末~近世初頭の年代が推定される。

② 近代

F T B II SD01 (第9図: 図版5・6)

- 特 徴 平面プランはクランクしながら北東より南西に流れ、F T B II SD15を切る溝である。
出土遺物 石製品(1)が出土した。調査期間の制約上、完掘できなかった。
時期 近世と考えられる石製品(1)が出土しているが、覆土や遺構の形状から、陸軍32連隊

による鍊兵場の塹壕と考えられ、近代の年代が推定される。

F T B II SD06 (第8図: 図版6)

特 徴 平面プランは、北東より南西に直行して流れる溝である。断面観察からは確認できないが、遺構面精査時の印象からはF T B II SD13に切られるように見受けられた。

出土遺物 金属製品の刀子(1)が出土した。調査期間の制約上、完掘できていない。

時 期 近世と考えられる金属製品(1)が出土しているが、覆土や遺構の形状から、陸軍32連隊による鍊兵場の塹壕と考えられ、近代の年代が推定される。

F T B II SD13 (第8図)

特 徴 平面プランは、北東より南西に直行して流れる溝である。断面観察からは確認できないが、遺構面精査時にはF T B II SD06を切る印象であった。

出土遺物 調査期間の制約上完掘できなかった。図化していないが近世陶磁器が多数出土した。

時 期 覆土や遺構の形状から、陸軍32連隊による鍊兵場の塹壕と考えられ、近代の年代が推定される。F T B II SD06を切る印象であったと先述したが、年代的には大差なく、おおよそ同時期に構築されたものと推定される。

(4) 小結

以下、双葉町遺跡第2次調査区(F T B II)にて検出された遺構・遺物について概略を述べてまとめてとする。

調査区全体の傾向として、近代の塹壕をはじめとする近代以降の遺構による搅乱が著しかった。検出された遺構の大半が近世初頭に帰属すると判断され、相対的に年代を判断するとSD08→SE01・SK2となる。SD02は周辺調査区との関連や堆積土層から推察して中世から近世初頭の様相が窺えるが、他遺構との切り合いもなく、出土遺物の少なさもあり、SD08との前後関係については不明である。覆土の土色等の事項から推察しても、同等の時期が考えられるが、F T B III SD26とF T B III SD24の前後関係も明瞭でなく、判然としない。区画等を目的として構築されたと判断される規模であり、各々の溝が近接している状況ではあるが、軸線が異なることから、中世から近世に至る時期の山形城内の街区形成等に係わる変遷が窺えることが想起されるが、性急な年代の位置付けは避けたい。

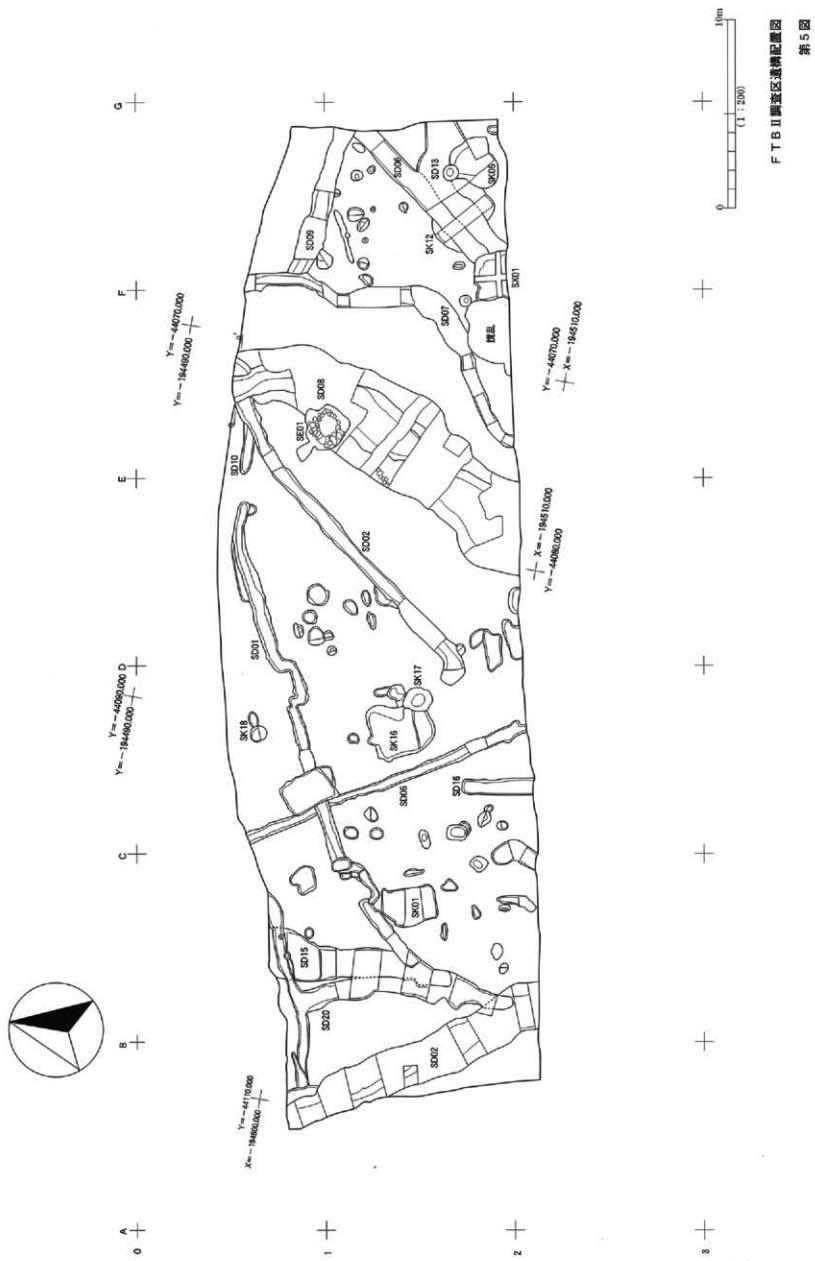
他には、SD01・SD06・SD13をはじめとする近代の塹壕跡が調査区内を縦横に走り、近世以前の遺構が搅乱されている様相であった。

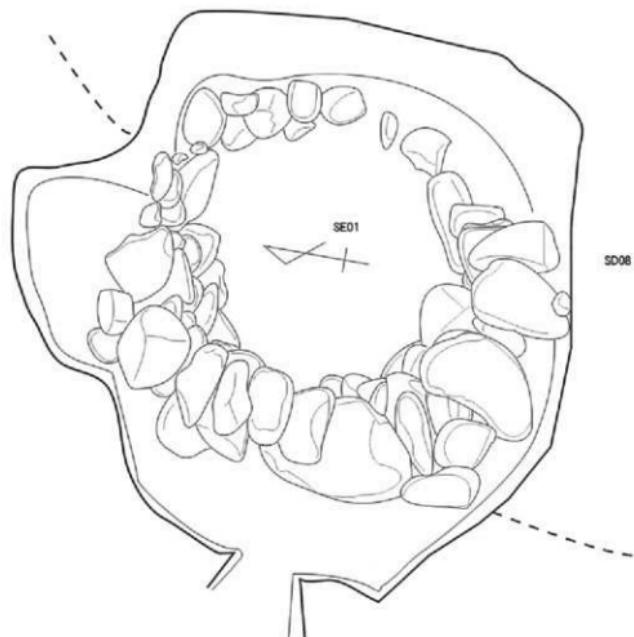
2 第3次調査 (F T B III)

(1) 遺跡の層序

本調査区は、標高131m~132mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。

基本層序は、調査区東壁の北端で観察した(第14図)。I層~II層は、現代の砂利およびバラスによる整地層である。III層~VII層は、近世から近代にかけて行われた田畠の耕作及び洪水などによる堆積であると考えられる。おおよそ水平に堆積しているが、人為的に乱されたような痕跡も一部認められる。IX層~X層は近世以前の地山であるが、IX層からは繩文土器が出土しており、この層は繩文時代においては生活面であったと思われる。X層以下は褐色の砂礫層で、河川の堆積作用によるものと判断される。





0 2m
(1 : 40)

F T B II SE01 平面図

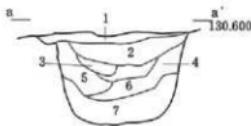
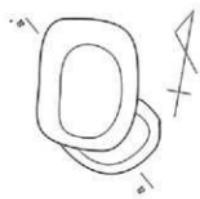


0 10cm
(1 : 2)

F T B II SE01 出土遺物

第6図

III 双葉町遺跡

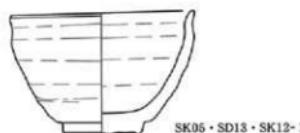
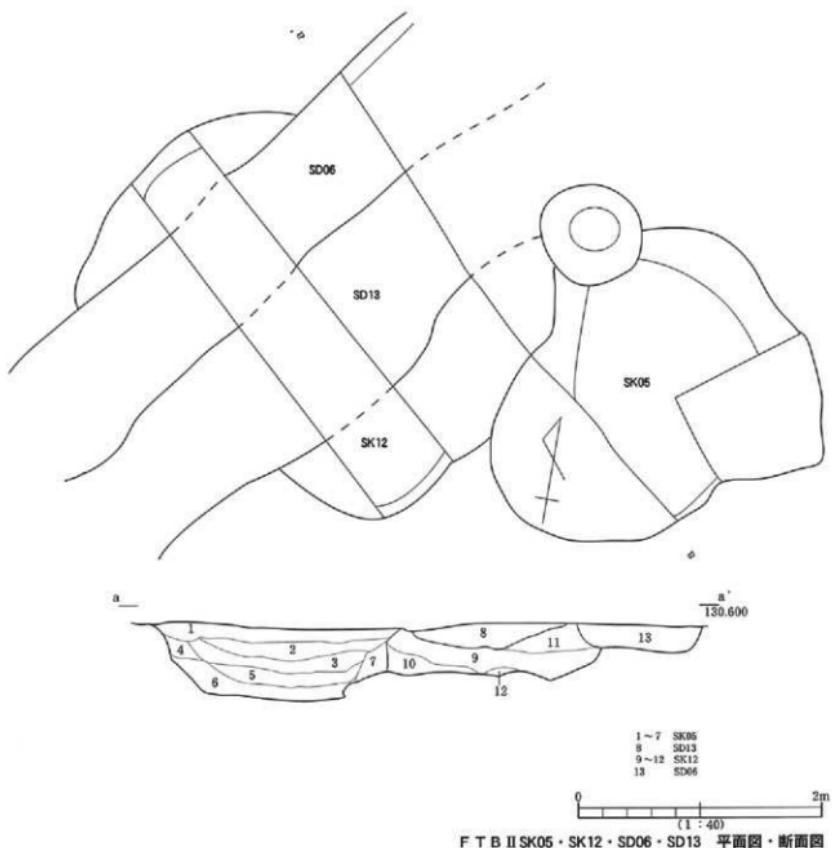


0 2m
(1 : 40)
F T B II SK 2 平面図・断面図



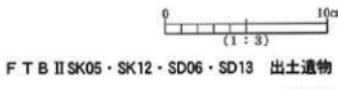
F T B II SK 2 出土遺物

第7図



0 — [Drawing of a rectangular object]

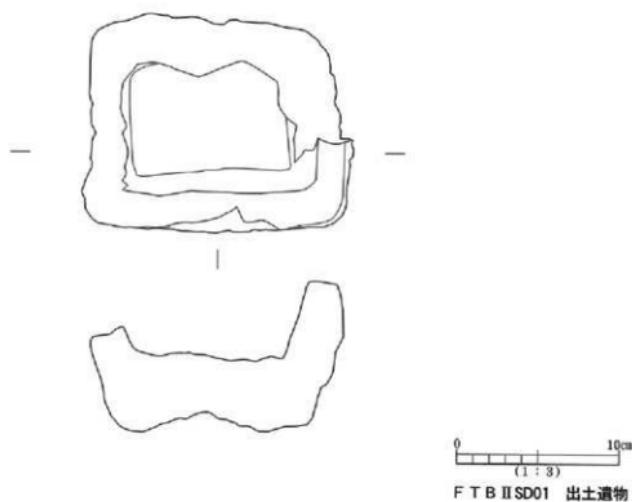
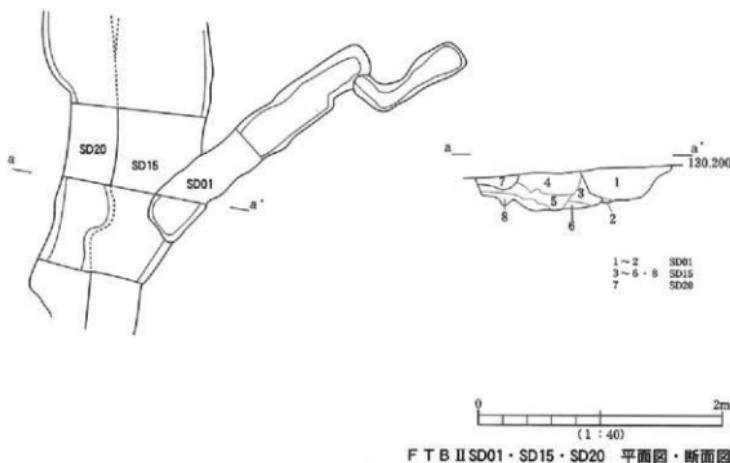
SD06-1



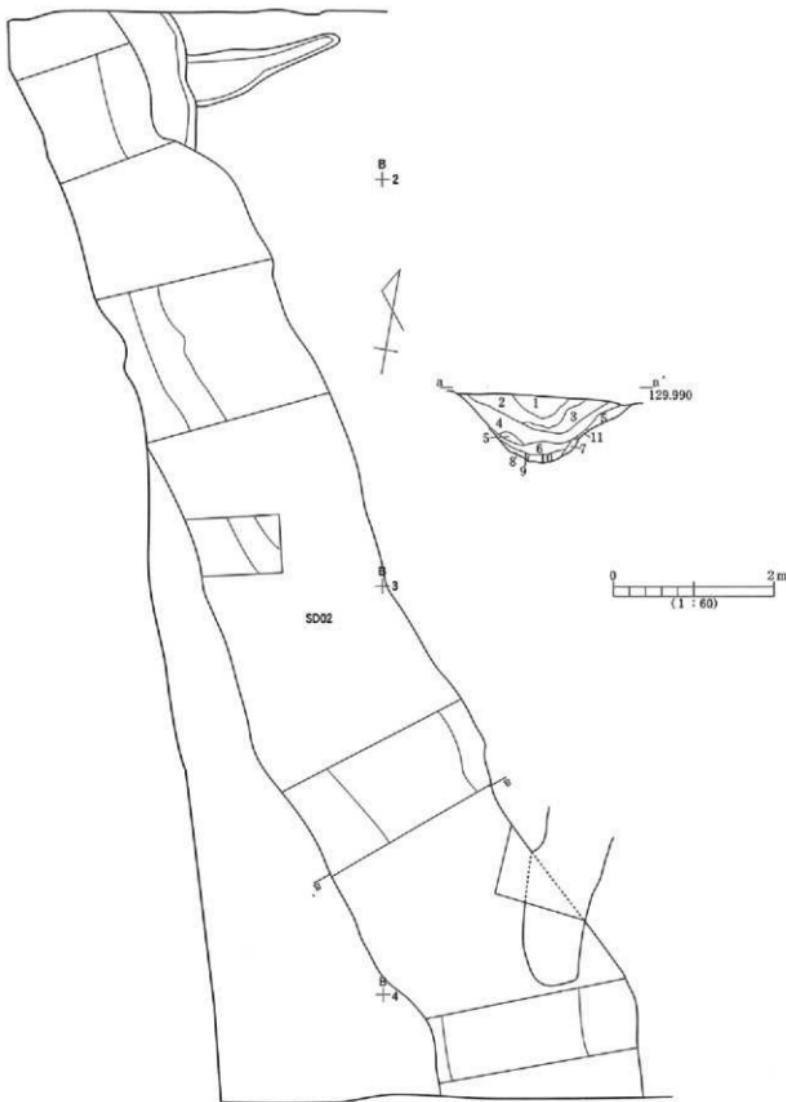
F T B II SK05・SK12・SD06・SD13 出土遺物

第8図

III 双葉町遺跡



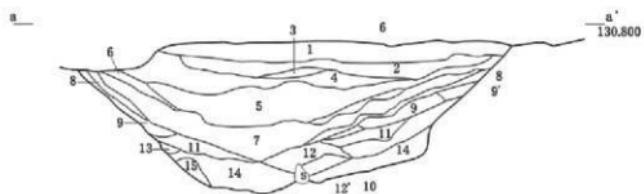
第9図



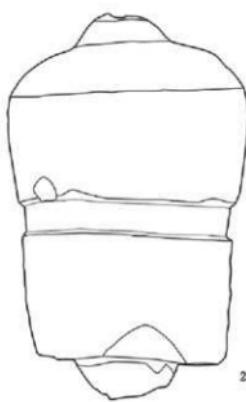
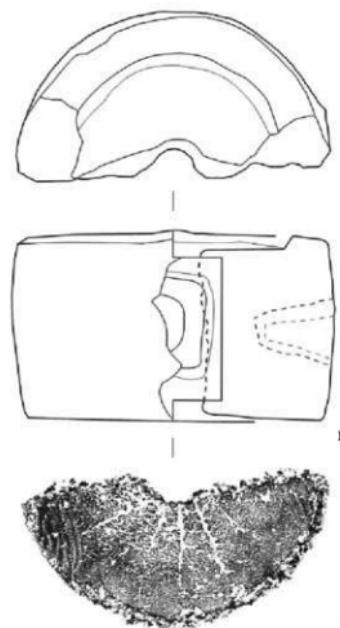
F T B II SD02 平面図・断面図

第10図

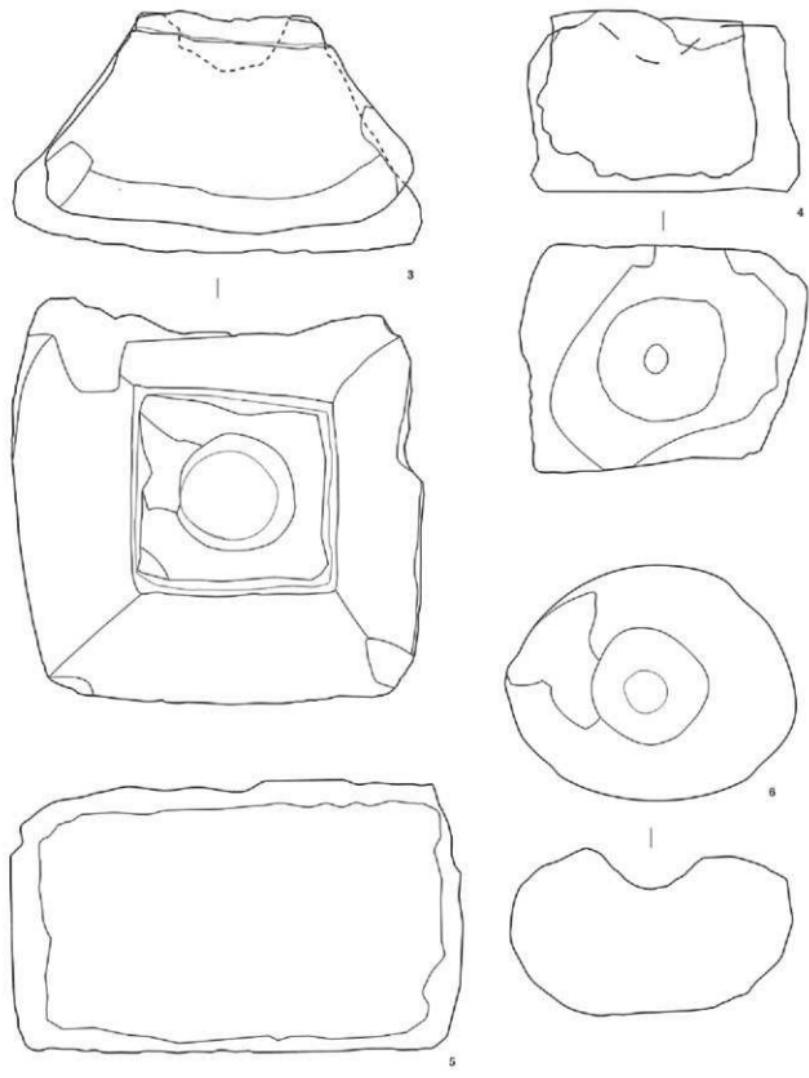
III 双葉町遺跡



0 2m
(1 : 40)
FTB II SD08 断面図



0 10cm
(1 : 3)
FTB II SD08 出土遺物(I)
第11回



F T B II SD08 出土遺物(2)

第12図

III 双葉町遺跡

(2) 遺構と遺物の分布

遺構、遺物の検出面は中世～近代と、その下層に縄文時代の遺物包含層の2面確認された。縄文時代の層位は遺物が出土したのみで、遺構は検出されなかった。中世～近代の遺構は、方形竪穴跡1棟、土坑44基、井戸跡7基、溝跡23条、土壙墓1基、性格不明遺構1基、ピット多数が検出された。このうち中世に帰属すると思われる遺構は、土坑1基と方形竪穴跡1棟、溝2条のみである。ほか多くは近世から近代の遺構である。これらは、一部分に偏ることなく、調査区の全面にわたって検出された。

建物の柱穴と思われるピットは多く検出されているが、建物を構成するに至らなかった。

(3) 検出された遺構と遺物

① 中世

F T B III ST72 (第15図：図版8)

特 徴 土層は1層しか確認されず、短時間で埋まった一括埋土であると思われる。床面は地山面を使用していると考えられる。方形竪穴であると思われる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗(1)、瀬戸美濃系陶器皿(2)の2点のみ出土した。

時 期 瀬戸美濃系陶器皿(2)は大窯段階に帰属する製品で、16世紀の生産時期を示す。他に新しい時期の遺物が出土していないので、遺構が埋没したのもおそらく16世紀であろう。

F T B III SK73 (第22図：図版13)

特 徴 四丸方形を呈す。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁香炉(1)、ロクロかわらけ(2)が出土した。

時 期 龍泉窯系青磁香炉(1)から、15世紀～16世紀であると考えられる。

F T B III SD24 (第29図：図版10・14・15)

特 徴 調査区の南西から北東にかけてほぼ直線状に走る。土層はレンズ状に堆積し、溝の両岸から土が投棄され埋まっていたような様相を示す。土層に地山由来のブロックを多く含むので、人為的な堆積である可能性が高い。なお、F T BSD6035及びF T B II SD2と同一遺構である。

出土遺物 白磁皿(1)、漳州窯系磁器皿(2)、瀬戸美濃系陶器皿(3)、肥前系陶器皿(4)、ロクロかわらけ(5)、硯(6、7)、古銭(8)、五輪塔空風輪(9～11)・火輪(12)、珠洲系陶器、瓷器系陶器、石鉢などが出土した。なお、掲載した遺物は、平成16年度刊行報告書においてもF T BSD6035出土遺物として掲載している。

時 期 出土遺物の生産年代は14世紀～17世紀初頭と幅があるが、肥前系陶器皿(4)が最新の生産年代を示す遺物であるので、最終的な埋没年代は16世紀末～17世紀初頭であろう。

F T B III SD26 (第29図：図版10・15)

特 徴 調査区の北端から南に直線状に走る。土層はレンズ状に堆積し、SD24と同様に溝の両岸から土が投棄され埋まったような様相を示す。F T BSD6035・F T B II SD08と同一遺構である。

出土遺物 砧石(1)、五輪塔火輪(2、3)、茶白(4)、肥前系陶器、珠洲系陶器などが出土した。

時 期 SD24と同様で、出土遺物の生産年代はおよそ14世紀～17世紀初頭だが、最終的な埋

没年代は、最新の生産年代を示す肥前系陶器から16世紀末～17世紀初頭であろう。

② 近世

F T B III SK 5 (第16図：図版7・12)

特 徴 土層は2層に分かれ、第1層から多く遺物が出土した。ほぼ円形で、底面は緩やかに傾斜している。SD 4に切られる。土器・陶磁器などを廃棄するための土坑と考えられる。
出土遺物 景徳鎮系磁器（1）、華南彩（2）、瀬戸美濃系陶器天目茶碗（3）、肥前系磁器皿（4）、肥前系磁器碗（5～8）、備前鋤鉢（9）、ロクロかわらけ（10～14）、瓦質香炉（15）、円盤状石製品（16、17）、产地不明陶磁器、黒瓦、火打石？、古代の土師器、須恵器などが出土した。

時 期 肥前系磁器で高台内無釉の碗（8）が出土していることより、17世紀半ばである。

F T B III SK 19 (第17・18図：図版12)

特 徴 ほぼ楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 肥前系磁器碗（1）、瓦質ほうろく（2）の2点のみ出土した。

時 期 肥前系磁器碗（1）から17世紀代半ばと考えられる。

F T B III SK 57 (第19図：図版8・12・13)

特 徴 円形を呈す。底面はほぼ平坦だが、北側に径約80cmの浅い落ち込みがある。

出土遺物 瀬戸美濃系志野丸皿（1、2）、肥前系陶器皿（3、4）、壺器系陶器、石鉢が出土した。

時 期 瀬戸美濃大窯第4段階の製品（1、2）や胎土目段階の肥前系陶器（4）から、16世紀末～17世紀初頭の時期が与えられる。

F T B III SK 59 (第19図：図版13)

特 徴 楕円形を呈し、底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 肥前系陶器皿（1）、ロクロかわらけ（2、3）、碁石（4）、円盤状石製品（5）、古銭（6、7）、黒瓦などが出土した。

時 期 胎土目段階の肥前系陶器（1）があり、砂目段階の肥前系陶器や、肥前系磁器が出土していないため、16世紀末～17世紀初頭の時期が与えられる。

F T B III SK 63 (第20・21図：図版8・13)

特 徴 ややいびつな楕円形を呈し、底面は緩やかにカーブする。土層は2層に分かれ、第2層には礫が多く混入する。

出土遺物 景徳鎮系磁器皿（1）、瀬戸美濃系陶器皿（2）、肥前系磁器碗（3）、古銭（4、5）、釘（6）、刀子（7）、煙管吸口（8）、古瀬戸瓶、瀬戸美濃志野皿、肥前系陶器皿、かわらけ、黒瓦、石鉢などが出土した。

時 期 出土遺物の帰属年代にやや幅がある。瀬戸美濃系陶器皿（2）は16世紀末の所産であるが、肥前系磁器碗（3）は17世紀半ばの年代が与えられる。

III 双葉町遺跡

F T B III SK64 (第20・21図: 図版9)

特 微 円形を呈し、底面は最深部が北側に偏る。北側の壁面が急に、南側の壁面が緩やかに立ち上がる。土層は3層に分かれ、第2層には縁が多く混入しているのが認められる。

出土遺物 潤戸美濃系陶器皿(1)、津洲窯系磁器皿(2)、肥前系磁器碗(3)、火打石(4)、古銭(5~8)、かわらけ、黒瓦などが出土した。

時 期 潤戸美濃系陶器皿(1)や肥前系磁器碗(3)から、17世紀前半~半ばであろう。

F T B III SK75 (第22・23図: 図版9)

特 微 北東側が調査区外にかかり、全体の形状は不明である。底面はほぼ平坦で、径10~20cmほどの縁が検出された。土層記録は取っていないが、堆積土中に炭化物や焼土が多く含まれているのが確認された。

出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1)、潤戸美濃系陶器碗(2)、肥前系陶器皿(3)、ロクロかわらけ(4)、肥前系磁器皿・碗、珠洲系陶器、黒瓦、石鉢などが出土した。ロクロかわらけ(4)は煤が付着していたので灯明皿として使用されたと考えられる。

時 期 固化していないが、出土した肥前系磁器皿から17世紀半ばであると考えられる。

F T B III SE20 (第23・24図: 図版9)

特 微 石組の井戸である。攪乱により東側が崩落し、全体の形状はわからなかった。石組は上部から下部に向かって狭くすぼまっていくような形状を呈している。

出土遺物 五輪塔火輪(1、2)、肥前系磁器碗、砾石が出土した。

時 期 固化していないが、肥前系磁器碗から17世紀半ばの埋没年代が与えられる。

F T B III SE25 (第24図: 図版9)

特 微 石組井戸である。上部がSD1により切られ、石組は3段ほどしか残存していなかった。

出土遺物 なし。

時 期 出土遺物は無いのではっきりしないが、他の石組井戸はおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると思われる。

F T B III SE32 (第25図)

特 微 石組の井戸である。崩れた梢円形を呈し、他の石組井戸と比較するとやや作りが雑である。石組は外周に裏込め石を用いているのが確認される。

出土遺物 ロクロかわらけ、黒瓦、石鉢が出土した。

時 期 ロクロかわらけや黒瓦が出土しており、近世に属すると思われるが詳細は不明である。

F T B III SE49 (第25図: 図版9)

特 微 石組の井戸である。西側は調査区外にかかり、全体の様子はわからなかった。

出土遺物 なし。

時 期 出土遺物は無いのではっきりしないが、他の石組井戸はおおよそ近世に属し、本遺構も近世であると思われる。

F T B III SE53 (第25・26図: 図版9)

特 微 石組の井戸である。北側は調査区外にかかる。遺構の上層をSD51に切られている。

出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1、2)、瀬戸美濃系陶器志野碗(3)、黒瓦鳥衾(4)・丸瓦(5)が出土した。黒瓦鳥衾(4)は掘り方から出土した。

時 期 瀬戸美濃系陶器志野碗(3)が井戸内から出土しているので、17世紀初頭であると思われる。また、掘り方から黒瓦鳥衾(4)が出土しているため近世に入つてから築造されたと考えられる。築造後まもなく廃棄されたと推定される。

F T B III SE65 (第27・28図: 図版10)

特 微 石組の井戸である。北西方向に、石組を伴う溝であるSD21が隣接するが、これがSE65に伴う遺構かどうかは判別できなかった。

出土遺物 石臼(1)、五輪塔水輪(2)が出土した。

時 期 石組の井戸であるので近世に属すると思われるが、詳細は不明である。

F T B III SE77 (第28図: 図版9)

特 微 石組の井戸である。直径が2m足らずでまた石組に使用されている礫も10~30cmと、他の石組井戸と比較して規模がやや小さい。

出土遺物 なし。

時 期 出土遺物は無いのではっきりしないが、他の石組井戸がおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると思われる。

F T B III SD21 (第28図: 図版9・10)

特 微 SE65の北西部に隣接し、北西方向に直線的に走る。溝の両側の壁面付近に礫が直線的に並び、水路のような形状を呈する。SE65に付属する遺構なのかどうかはわからなかった。

出土遺物 砥石(1)のみ出土した。

時 期 時期は不明である。

F T B III SX58 (第32図: 図版11)

特 微 やや崩れた隅丸方形を呈し、底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 津洲窯系磁器碗(1)、瀬戸美濃系陶器天目茶碗(2)・志野皿(3)、肥前系陶器皿(4)・碗(5)、古銭(6)、肥前系磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土した。

時 期 (5)や、図化していないが出土した肥前系磁器から、17世紀半ば~後半である。

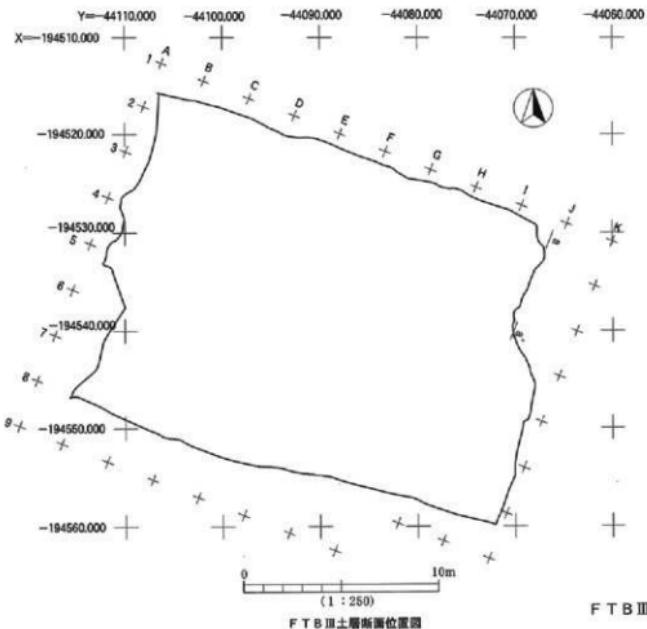
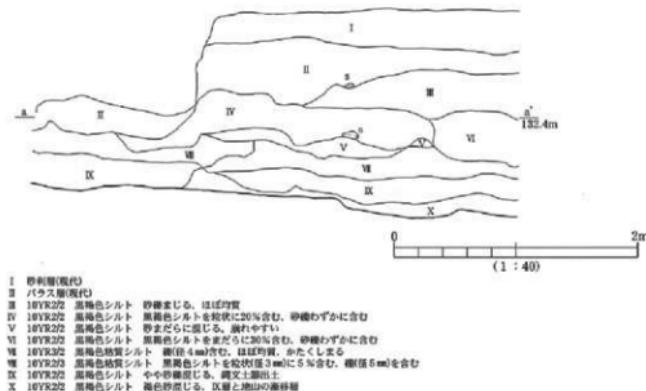
F T B III SK 2 (第33図: 図版11)

特 微 円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。人骨が出土している。遺構の規模から辻伸葬の土壤墓であると考えられる。

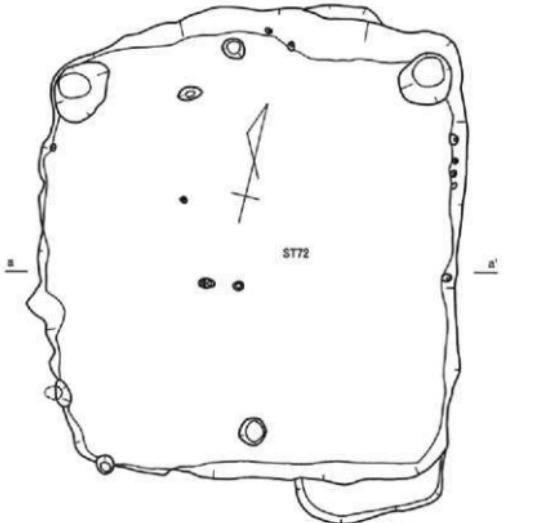
出土遺物 人骨のみ出土した。

時 期 不明。



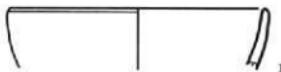


第14図



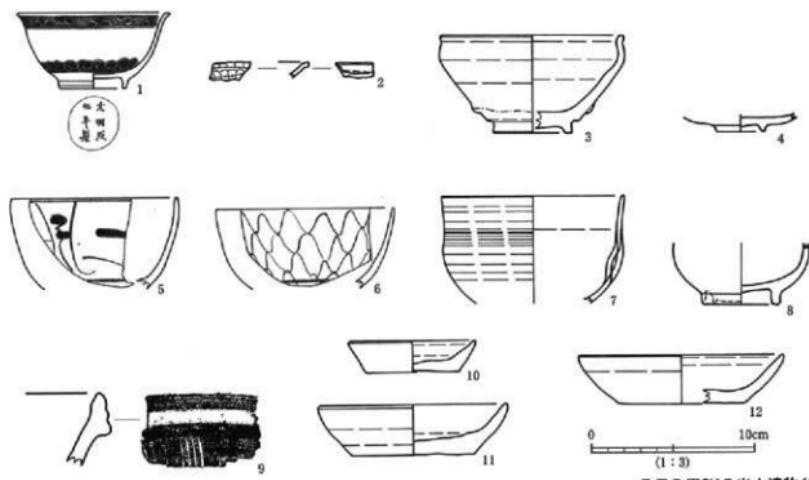
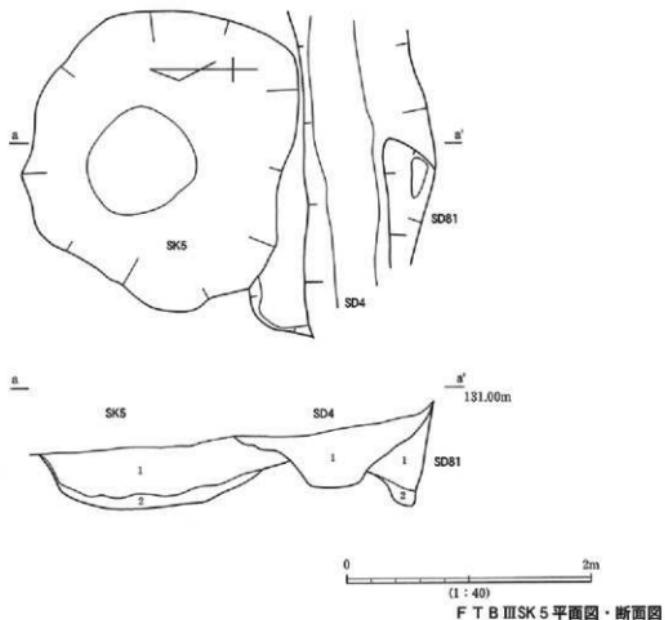
0 2m
(1:40)

F T B III ST72平面図・断面図

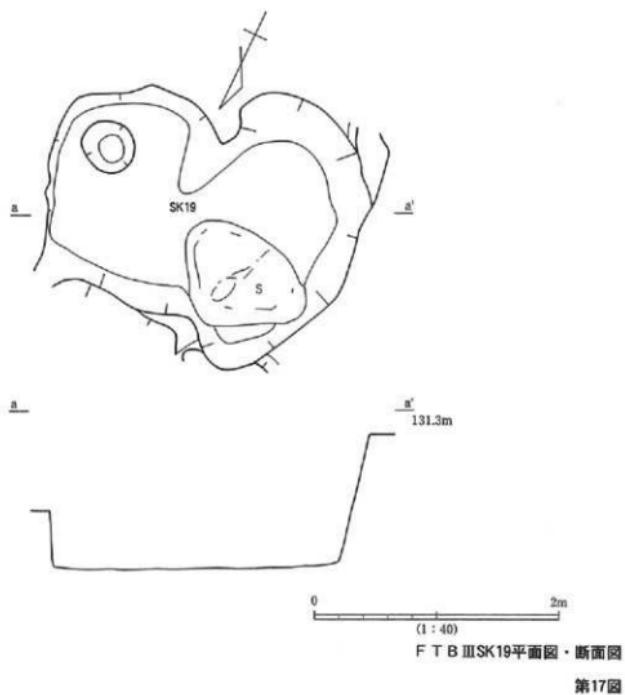
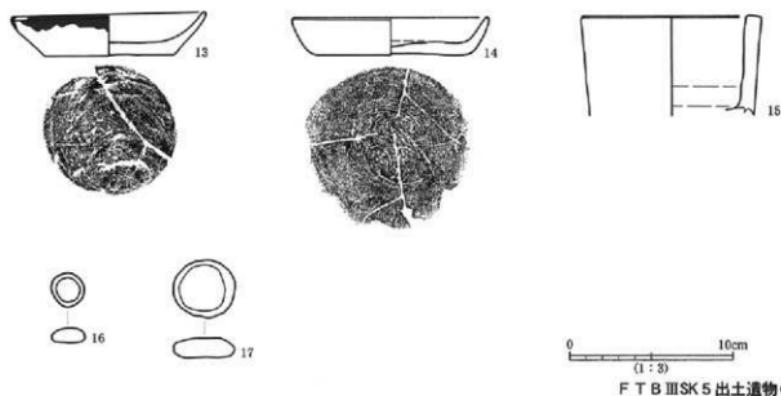


0 10cm
(1:3)

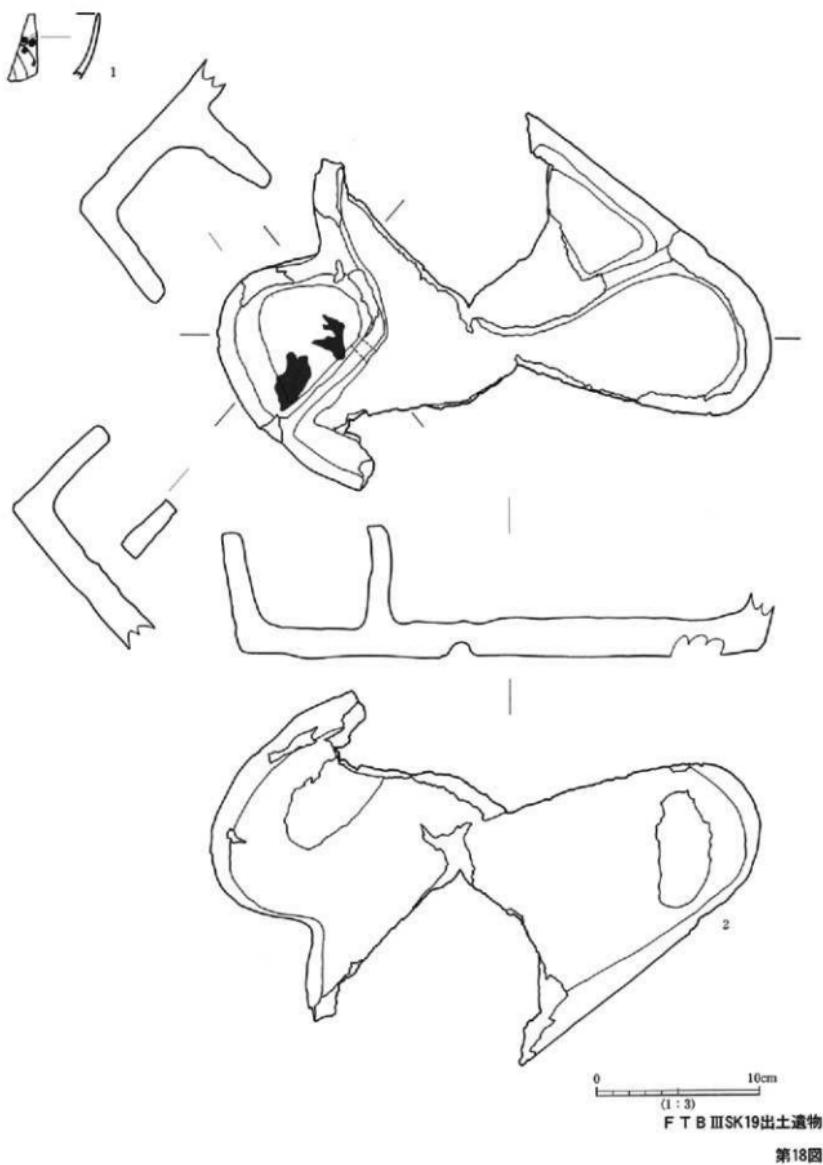
F T B III ST72出土遺物

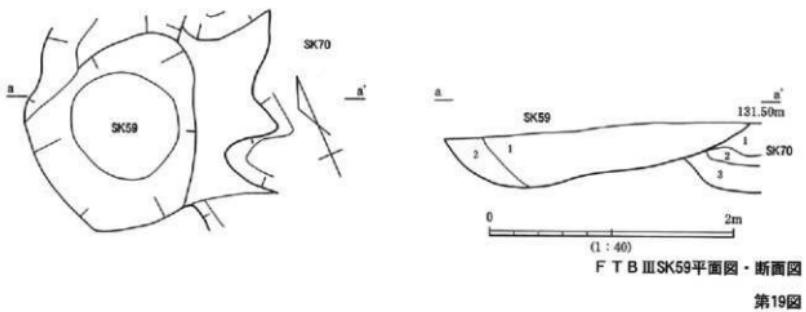
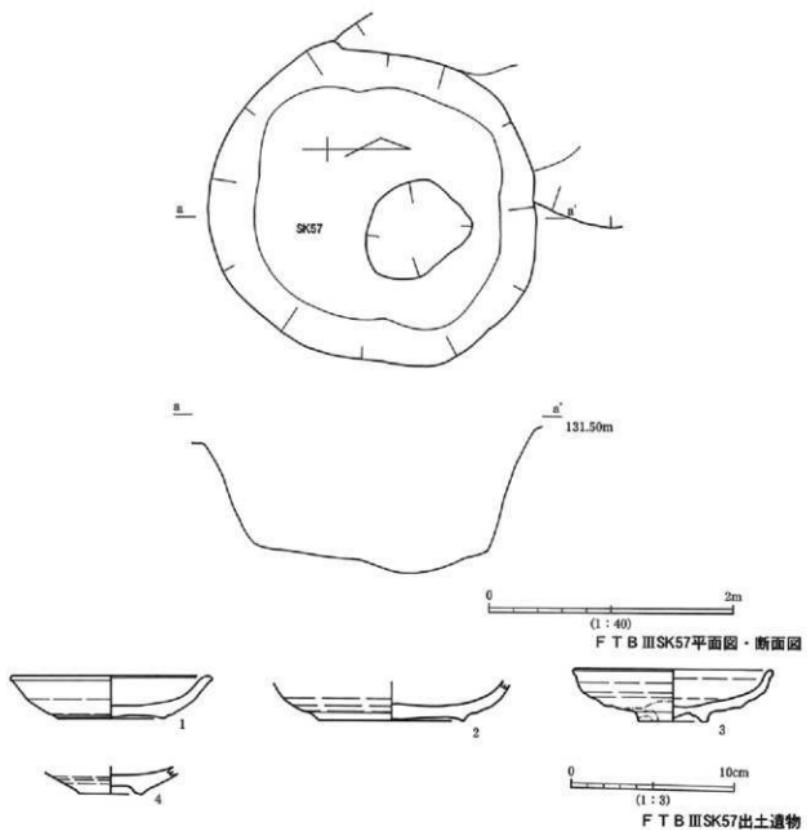


第16図

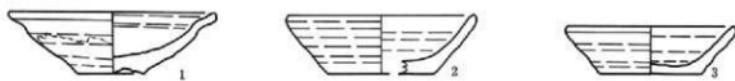


第17図





第19図

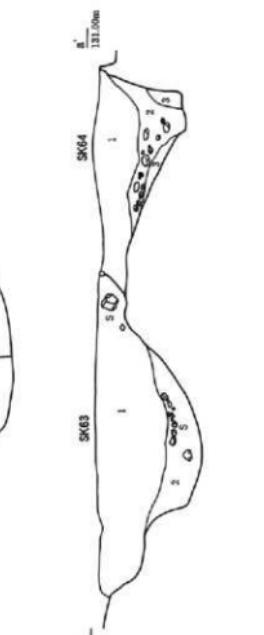
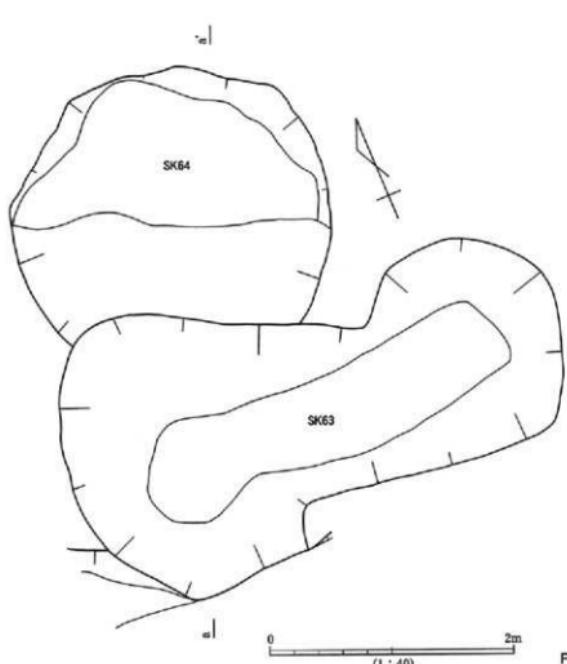


0 (1~5) 10cm
(1 : 3)



0 (6~7) 10cm
(1 : 2)

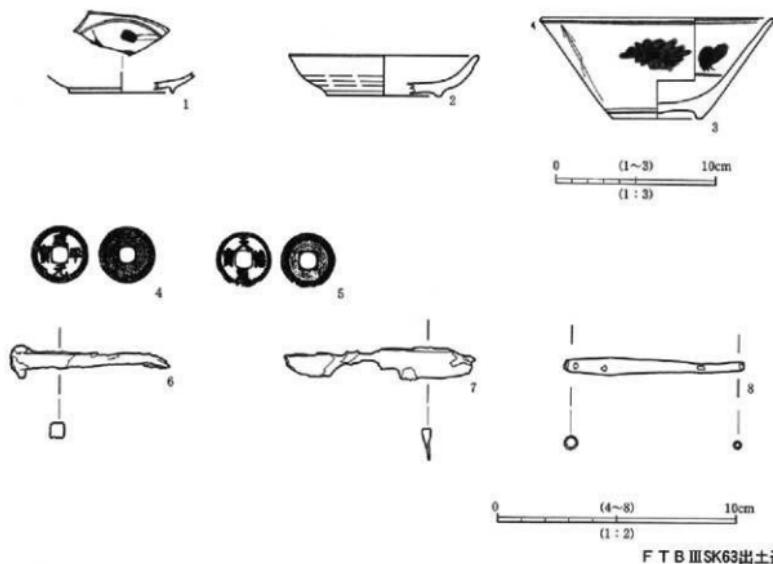
F T B III SK59出土遺物



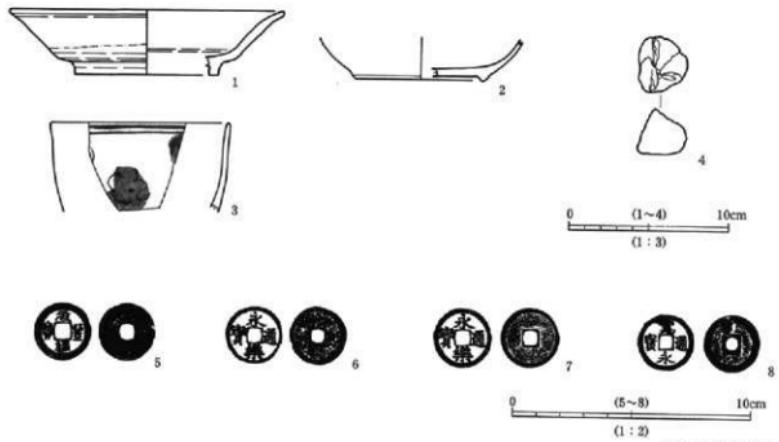
F T B III SK63・SK64平面図・断面図

第20図

III 双葉町遺跡

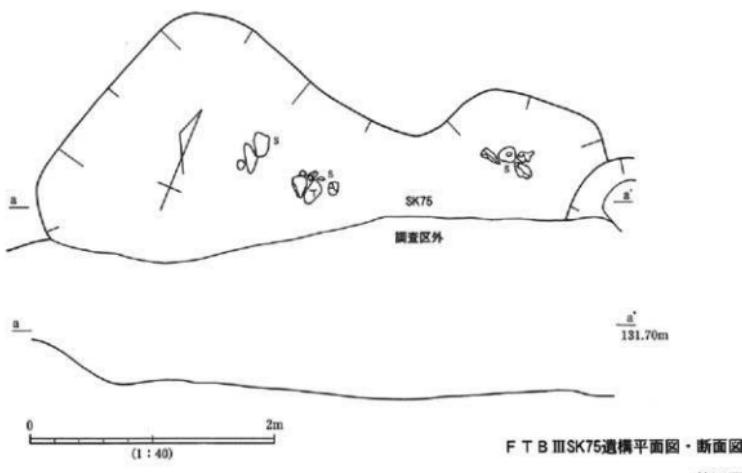
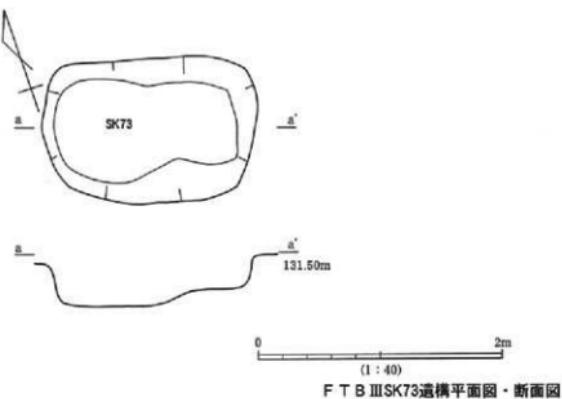


F T B III SK63出土遺物



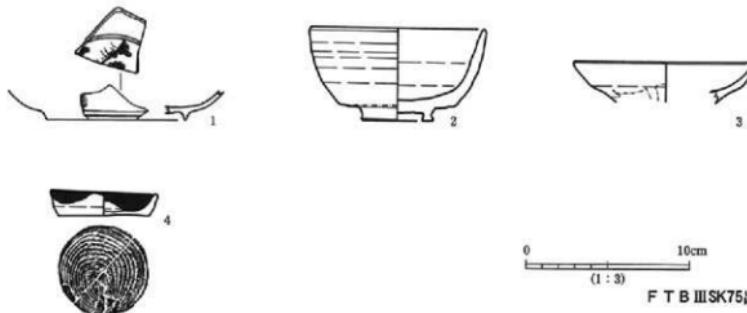
F T B III SK64出土遺物

第21図

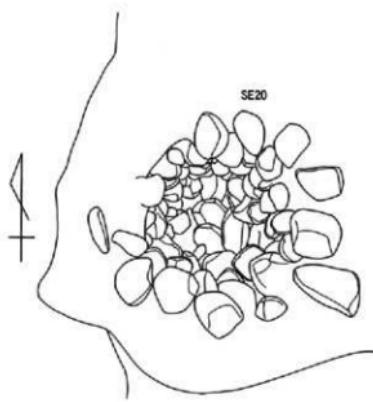


第22図

III 双葉町遺跡

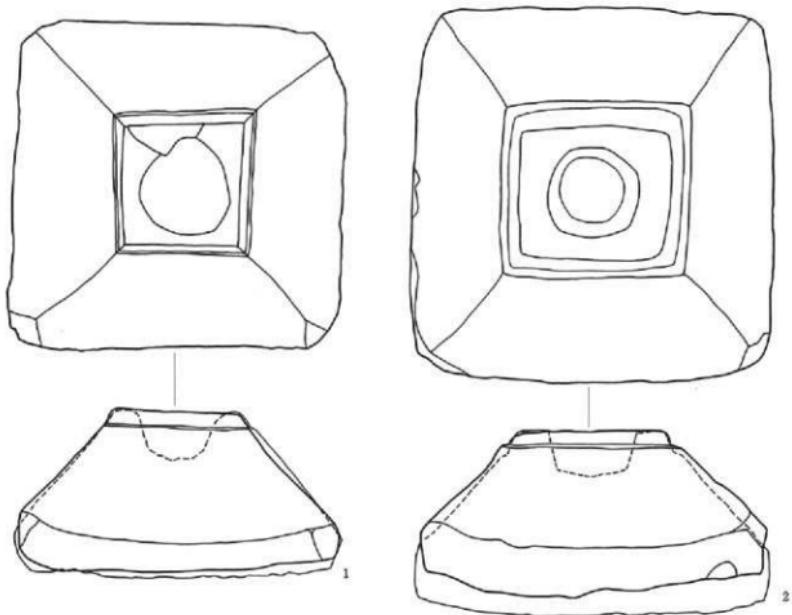


F TB III SK75出土遺物



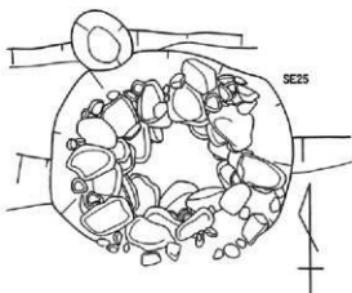
F TB III SE20平面図

第23図



0 20cm
(1 : 4)

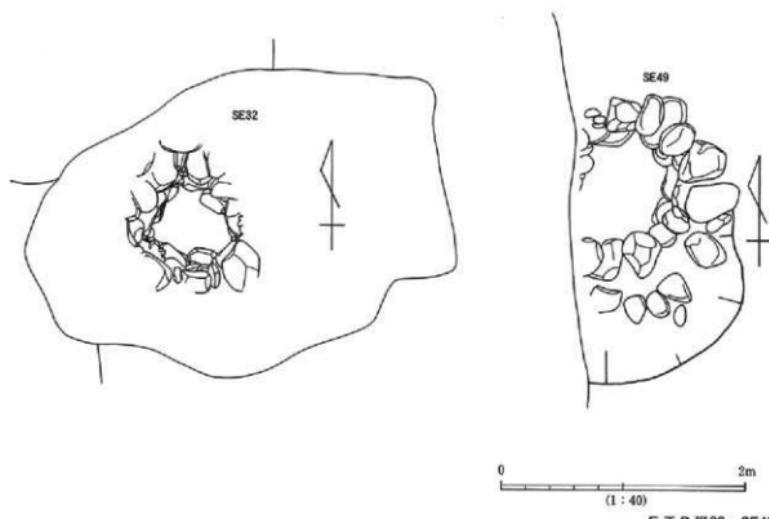
F T B III SE20出土遺物



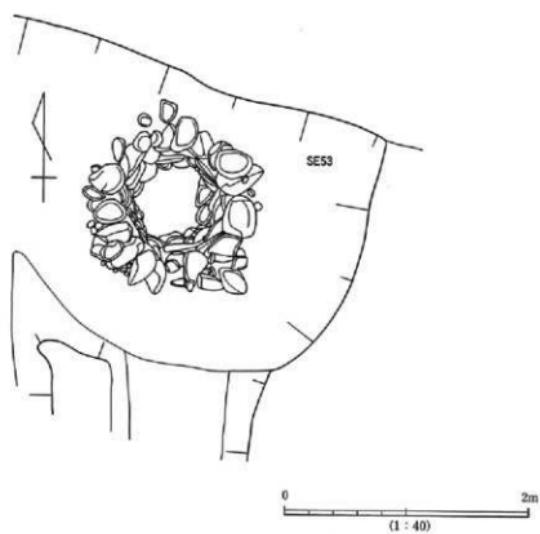
0 2m
(1 : 40)

F T B III SE25平面図

第24図

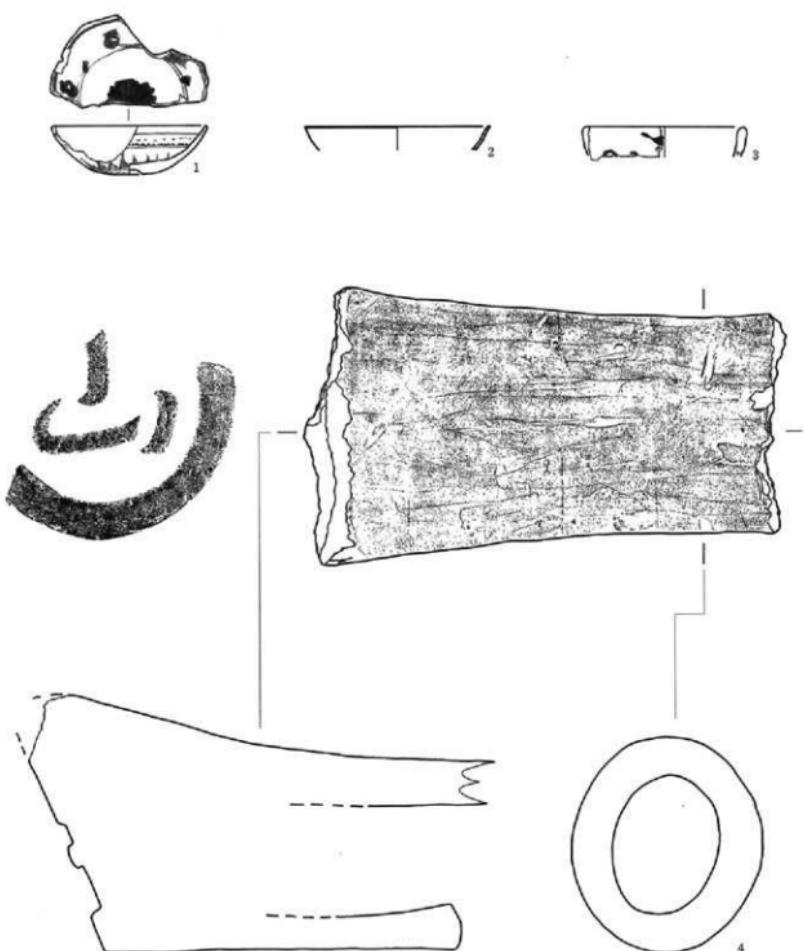


F T B III 32 - SE49平面図



F T B III SE53平面図

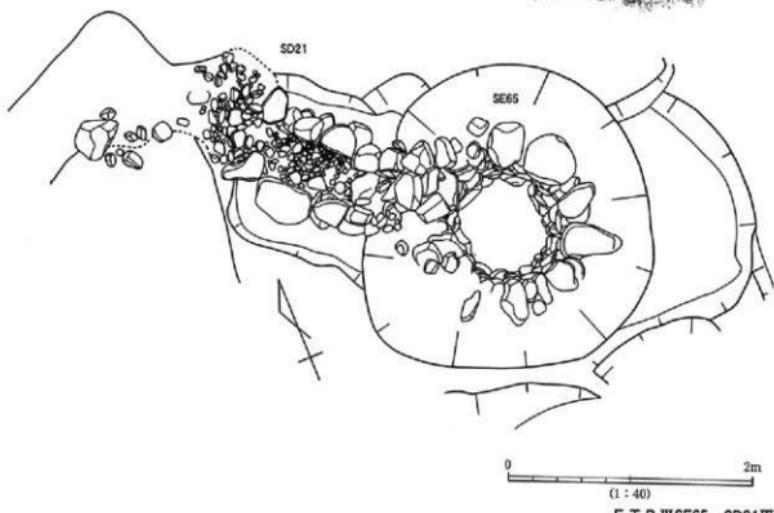
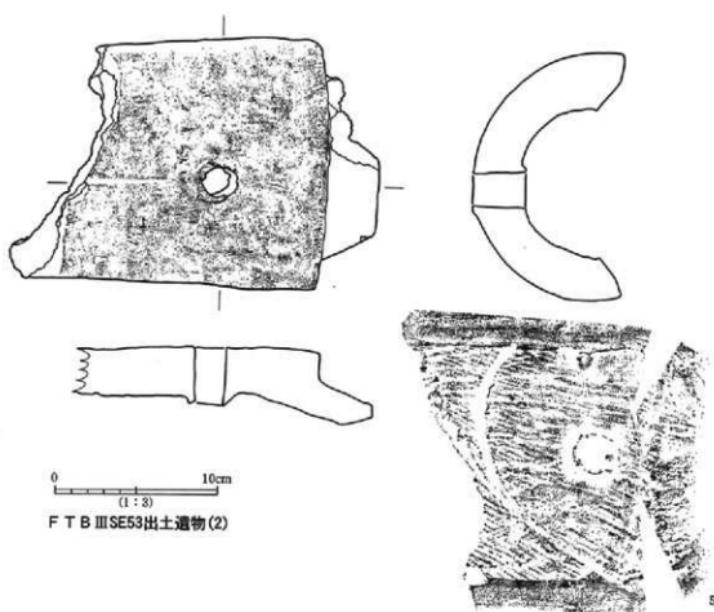
第25図



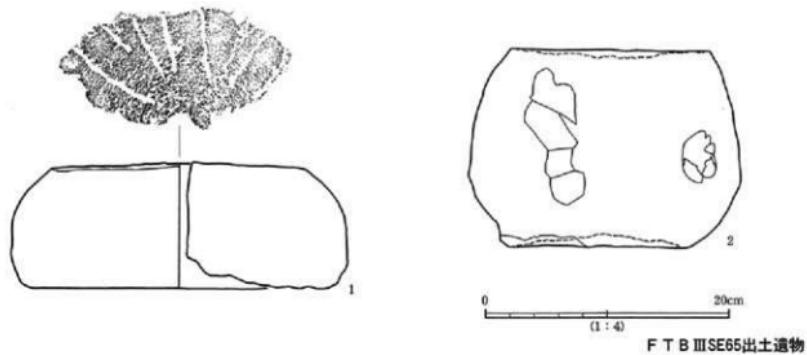
0
10cm
(1 : 3)

F T B III SE53出土遺物(1)

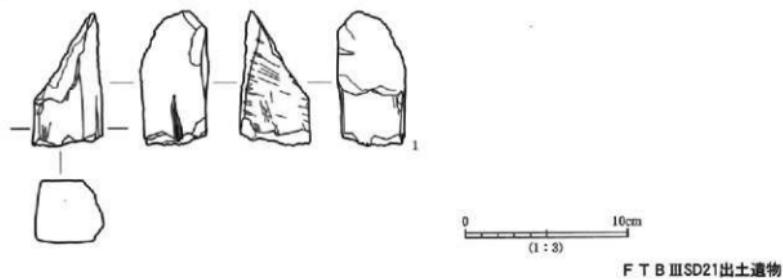
第26図



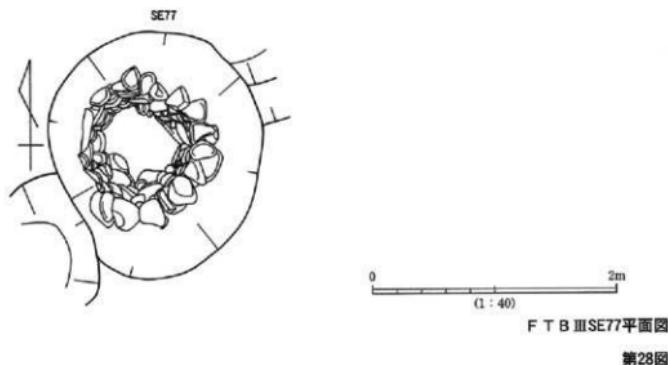
第27図



F T B III SE65出土遺物



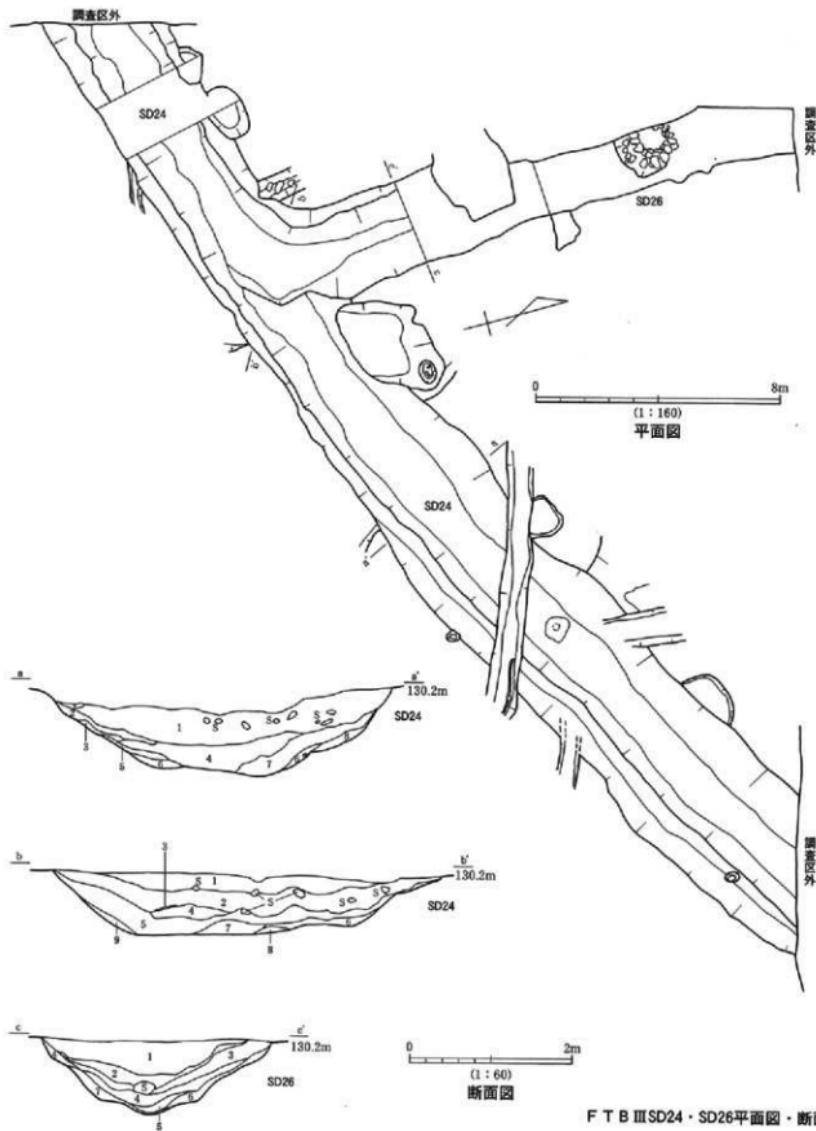
F T B III SD21出土遺物

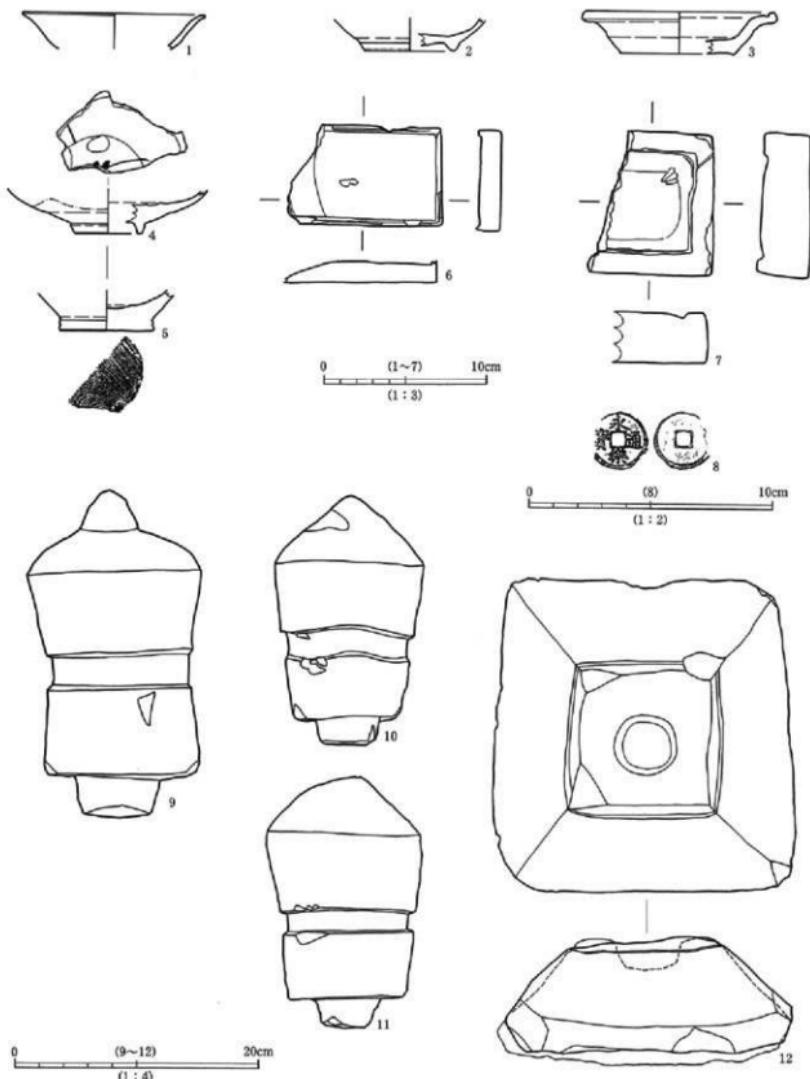


F T B III SE77平面図

第28図

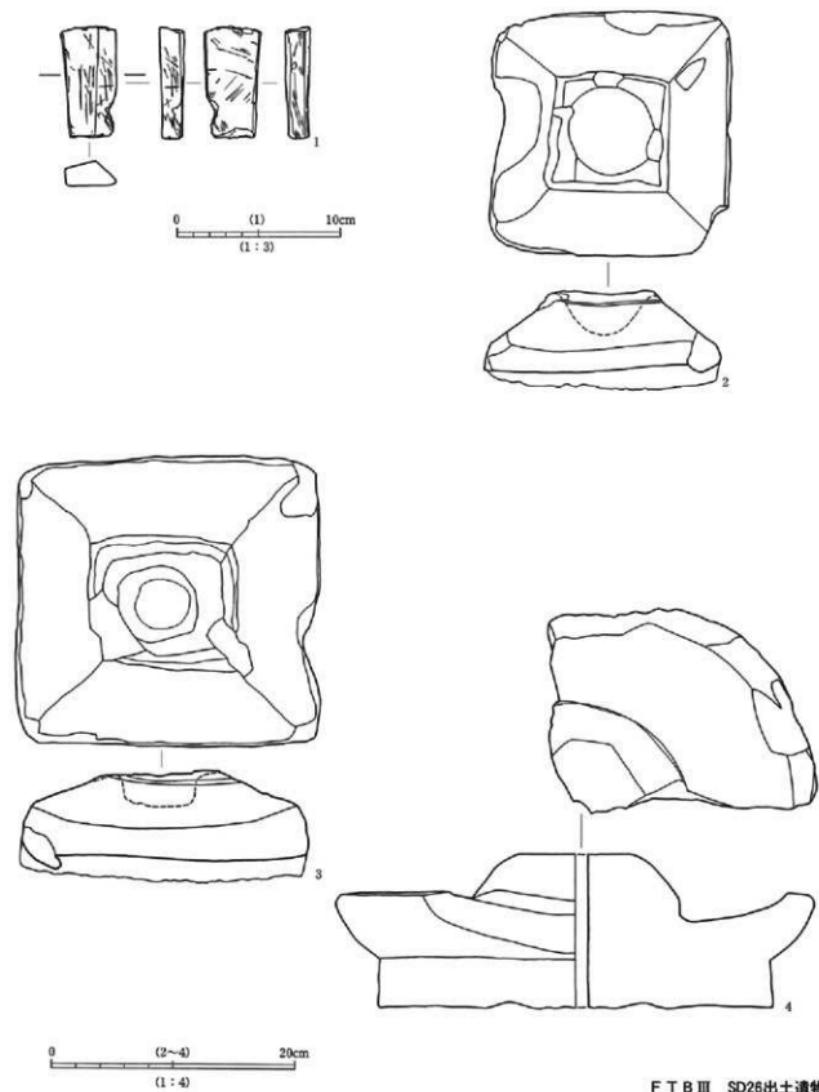
III 双葉町遺跡





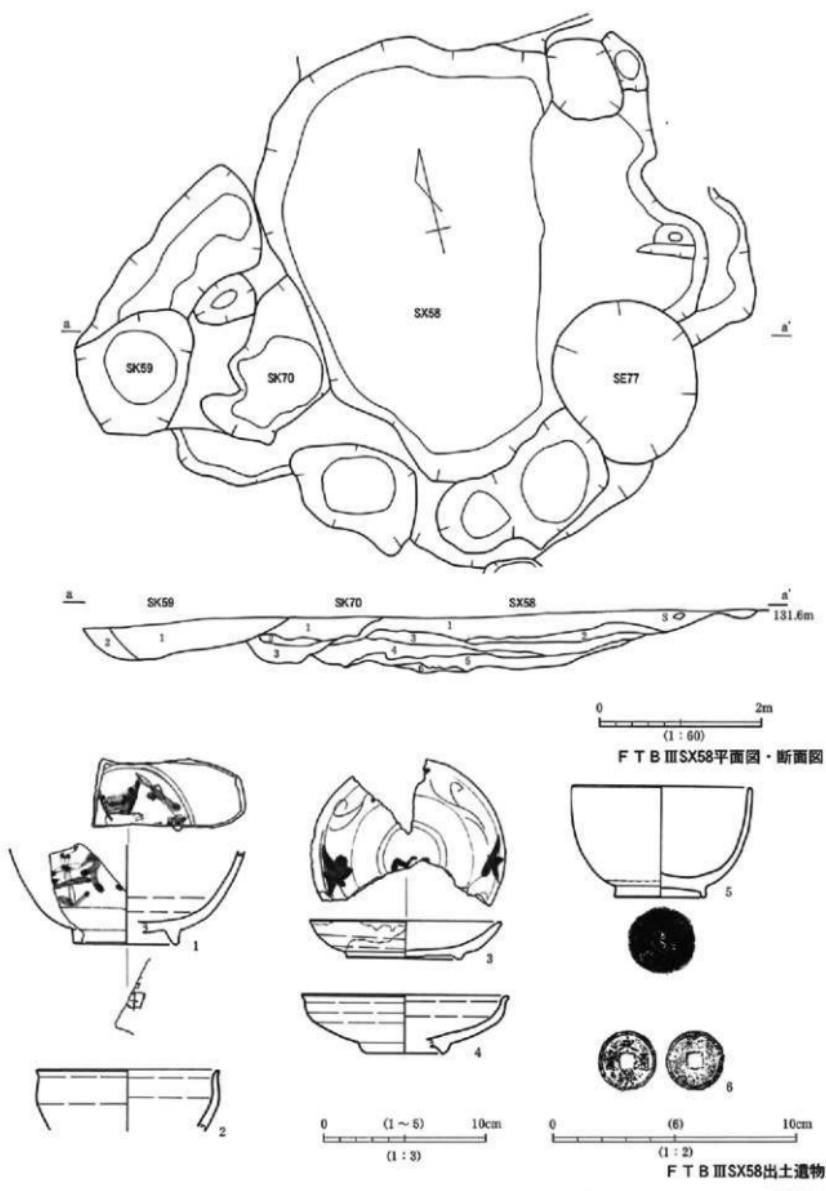
F TB III SD24出土遺物

第30図



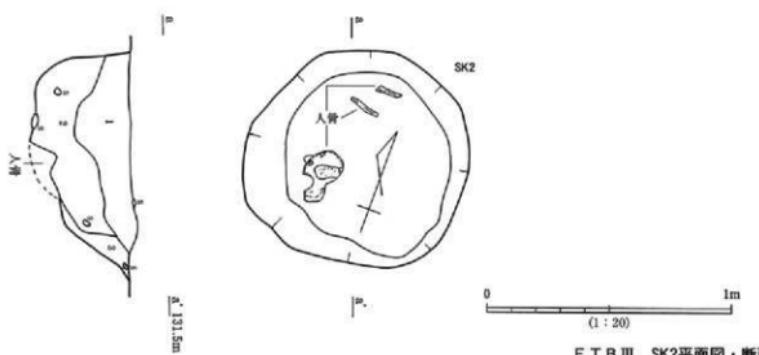
F T B III SD26出土遺物

第31図

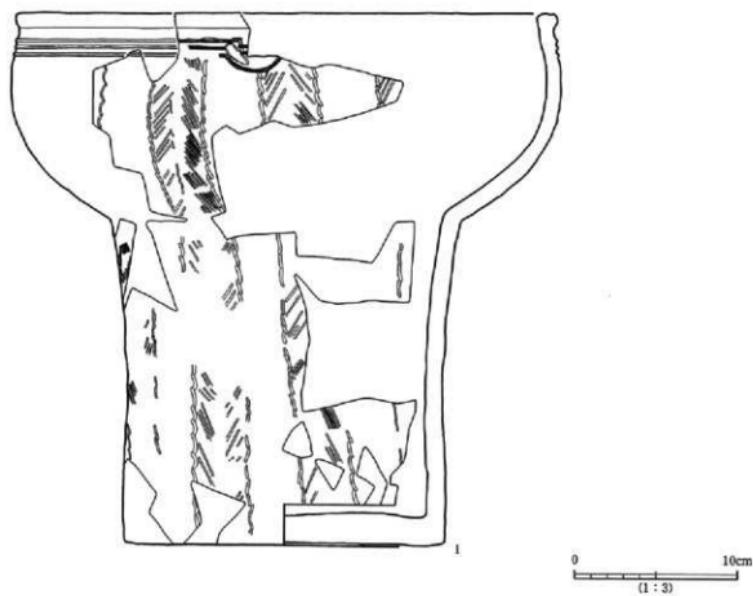


第32図

III 双葉町遺跡



F T B III SK2平面図・断面図



F T B III B-2グリッド出土遺物

第33図

(4) 小結

中世の遺構では、土坑(SK73)と方形整穴(ST72)がH-3~I-4グリッドに集中し、一方溝跡(SD24, SD26)は調査区北西側に偏在している。土坑や方形整穴と溝は、出土遺物から埋没年代がおよそ16世紀~17世紀初頭と推定されるが、同時期に存在したかどうかは不明である。

近世の遺構はおよそ2時期にわたり、16世紀末~17世紀初頭に属するものと、17世紀半ばに属するものに大別できる。この時期の住居施設は検出できなかったが、遺物が多数出土しました井戸跡などが多く存在しており、生活の痕跡は濃厚である。近代の遺構は、SD1, SD45, SD46, SD51などの溝が多く検出されたが、これらは練兵場時代の塹壕跡である可能性が高い。

3 第4次調査(FTB IV)

(1) 遺跡の層序

本調査区は、標高約131mを測り、東から西に向かって緩やかに傾斜している。

基本層序は、1区の北壁で観察した(第35図)。原況は駐車場であったが、そのアスファルトや整地層などを重機で除去した後に、基本層序を観察している。

基本層序はほぼ水平に堆積する。I層~IV層までほぼ類似した特徴で、細砂が堆積している。IV層以下が、地山である。

(2) 遺構と遺物の分布

調査区は2ヶ所に分かれ、南側の調査区を1区、北側の調査区を2区と呼称する。

遺構の検出面は、IV層上面の1面のみである。近世から近代にかけての遺構が検出された。検出された遺構は、礎石建物跡2棟、土坑跡45基、井戸跡3基、溝跡13条、ピット57基、性格不明遺構6基である。遺構の密度は、2区が高く、1区が低い。これは1区の遺構検出面が2区に比べて20~30cmほど低く、近代以降の削平を受けたためであると思われる。

近世に属するとと思われるピットが多く検出されたが、建物跡を組むことができたのは2棟のみで、他のピットは建物を構成するに至らなかった。

(3) 検出された遺構と遺物

① 近世

FTB IVSB114 (第36図: 図版17)

特 徴 硕石建物跡である。硕石には、長径30~40cmの硕が用いられている。ただし、SP9, SP45, SP51に関しては、硕石は検出できなかった。西側に底を持つと推定される。SP45(1層、2層)、SP46(1層)の柱痕跡や柱抜き取り痕から炭化物や焼土が顯著に検出されており、焼失した建物の可能性がある。

出土遺物 SP45から景德鎮系磁器、SP51から彦地不明陶器が出土している。

時 期 景德鎮系磁器が出土していることから、16世紀末~17世紀初頭であると考えられるが、詳細な時期区分はできなかった。

FTB IVSB129 (第37図: 図版17)

特 徴 硕石建物跡である。硕石はSP87やSP94で検出され、長径30~40cmの硕が用いられてお

III 双葉町遺跡

り、SB114と類似している。SP90やSP95では礎石は検出できなかった。柱穴は、やや崩れた梢円形を呈している。

出土遺物 なし。

時 期 出土遺物が無く詳細な時期は判別できないが、類似する礎石建物跡SB114は近世に帰属するため、SB129も近世であると考えられる。

F T B IVSK99 (第38図 : 図版18・20)

特 徴 円形を呈し、底面は平坦で、全体の壁面は急に立ち上がるが、北東側はオーバーハングする。土坑で登録したが、井戸の可能性もある。

出土遺物 濑戸美濃系陶器天目茶碗(1)、肥前系陶器碗(2)、肥前系磁器碗などが出土した。

時 期 肥前系陶器碗(2)から、17世紀半ばであると考えられる。

F T B IVSE68 (第38・39図 : 図版18・20)

特 徴 石組の井戸である。東側が調査区外であったため、全体の形状はわからなかった。石組の外側に直径5~20cmほどの集石が使用されており、これは特に造構の北側寄りに多く認められた。

出土遺物 肥前系磁器仏飯器(1)、円盤状石製品(2)、茶白(3)、肥前系陶器碗、肥前系磁器碗・皿、珠洲系陶器などが出土した。

時 期 (1)から、17世紀半ばに埋没したと考えられる。

F T B IVSE125 (第40図 : 図版18・20)

特 徴 素掘りの井戸である。梢円形を呈し、底面は起伏を帯び、壁面はオーバーハングする。

出土遺物 濑戸美濃系陶器皿(1)、肥前系陶器皿(2~5)などが出土した。

時 期 出土している肥前系陶器皿で目跡が確認できるものはすべて胎土目であることから、16世紀末~17世紀初頭の時期が与えられる。

F T B IVSE126 (第40図 : 図版19)

特 徴 石組の井戸である。南東側が調査区外となるため、全体の形状はわからなかった。石組も、北西側の一部しか残存していないかった。

出土遺物 古代の土師器、須恵器のみ出土した。

時 期 出土遺物は古代の土師器や須恵器のみだが、他の石組の井戸がおおむね近世に属しているので、SE126も近世に属する可能性が高い。

F T B IVSD 5 (第41・42図 : 図版19・20)

特 徴 南西から北東に緩やかに蛇行しながら走る溝である。北東端をSK52に切られ全体の形状はわからなかった。

出土遺物 肥前系陶器(もしくは越中瀬戸)碗(1)、肥前系磁器碗(2~4)、肥前系陶器蓋(5)、福岡系?陶器擂鉢(6)、瀬戸美濃系陶器志野皿、肥前系陶器碗・皿、黒瓦、赤瓦などが出土した。

時 期 瀬戸美濃系陶器志野皿は16世紀末~17世紀初頭、肥前系磁器碗(4)はコンニャク印判の

Y=-44070.000
X=-194550.000

-44080.000

-44050.000

-44040.000

III 双葉町遺跡



-194560.000

2区

SE68 SB114

3区

-194570.000

+

2区

+

5区

-194580.000

6区

+

+

-194590.000

7区

+

+

-194600.000

8区

+

1区

+

+

SE125

SE126

-194610.000

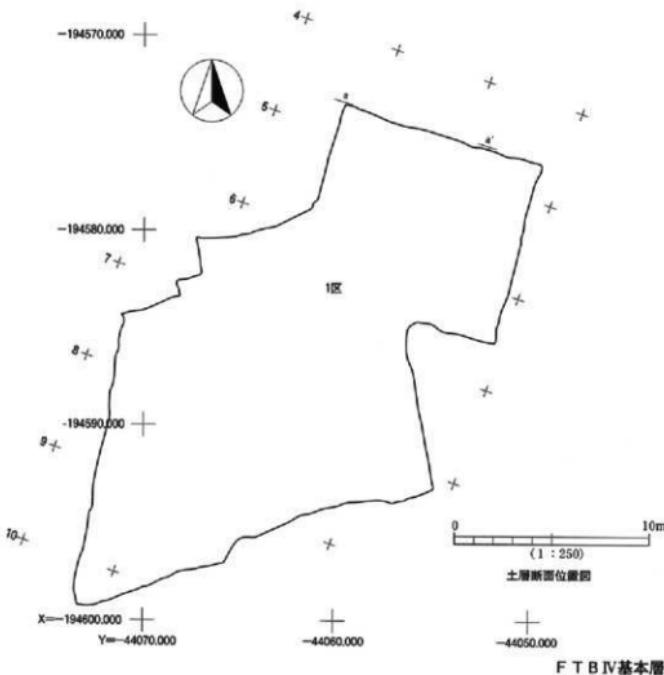
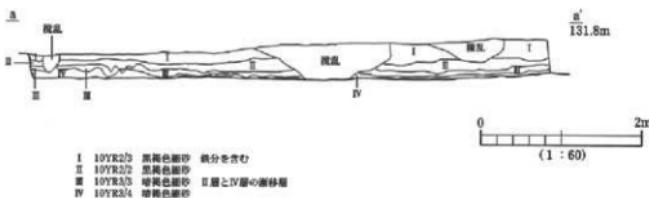
+

+

0 10m
(1 : 200)

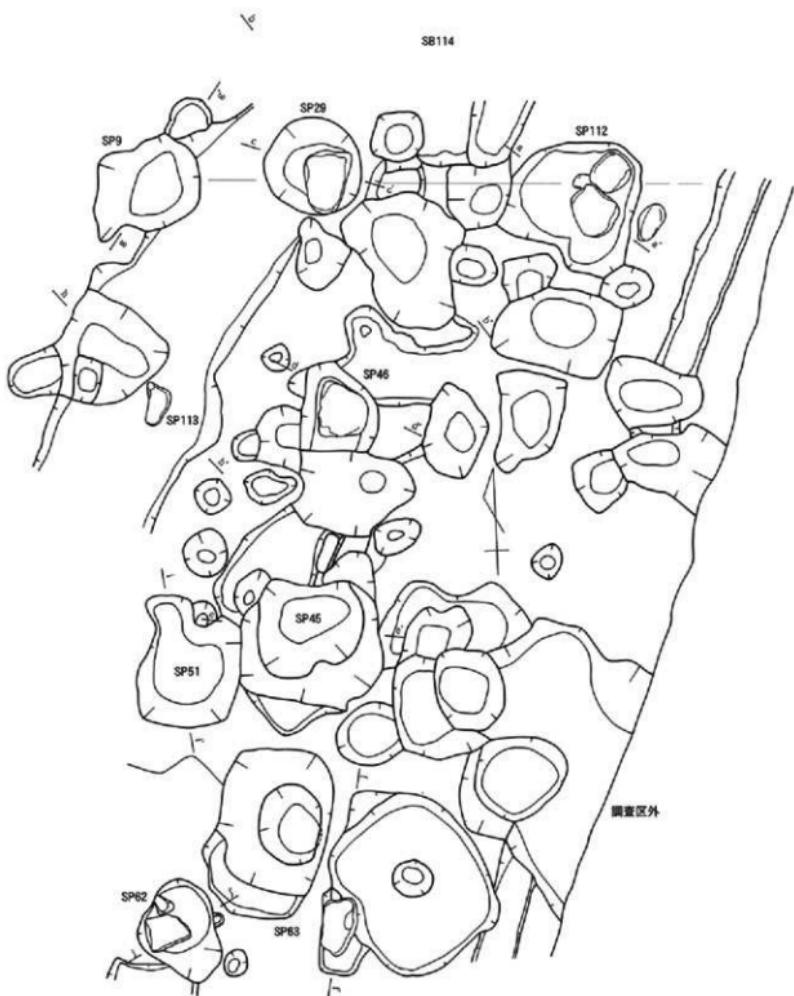
F T B IV 造構配置図

III 双葉町遺跡



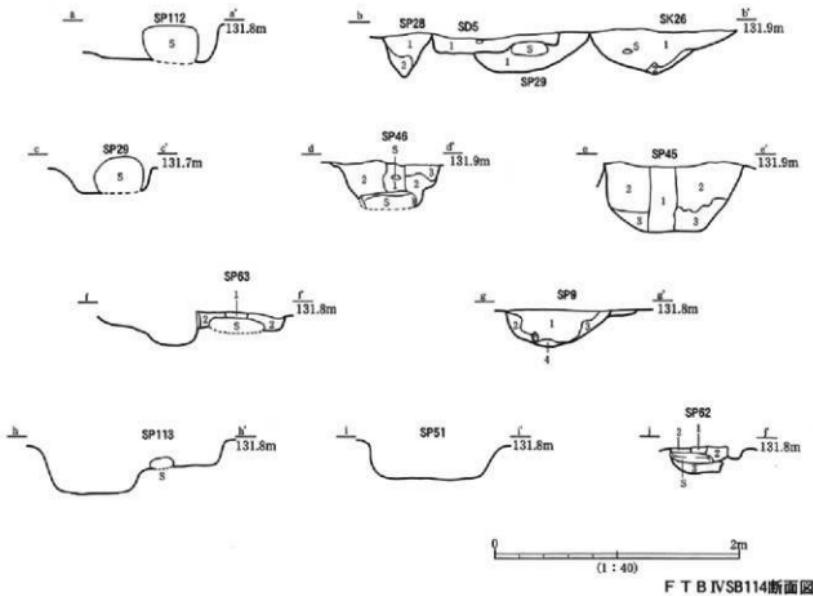
F T B IV 基本層序

第35回

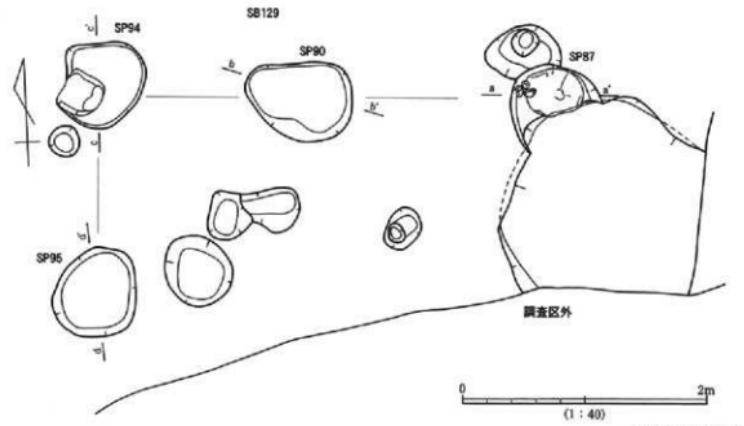


F T B IV SB114平面図(1)

第36図



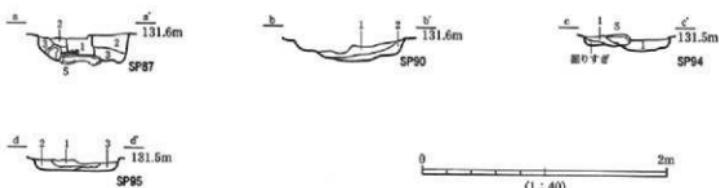
F T B IVSB114断面図



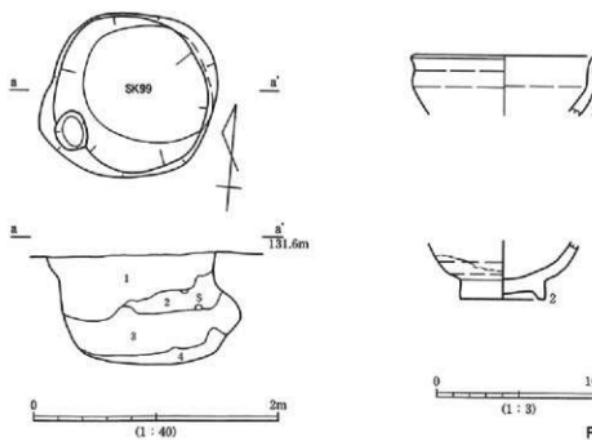
F T B IVSB129平面図

第37図

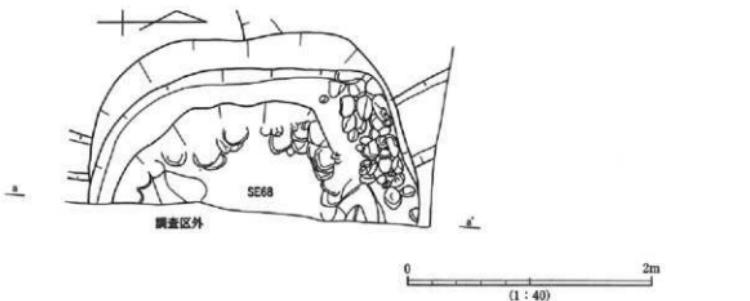
III 双葉町遺跡



F T B IVSB129断面図



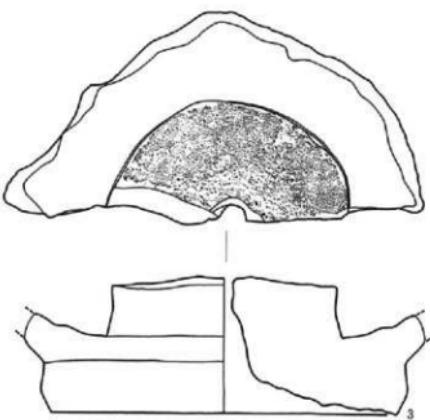
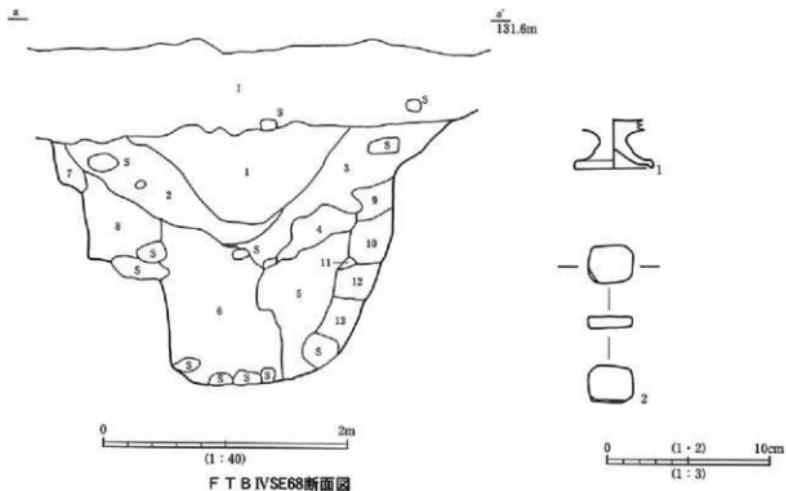
F T B IVSK99平面図・断面図



F T B IVSE68平面図

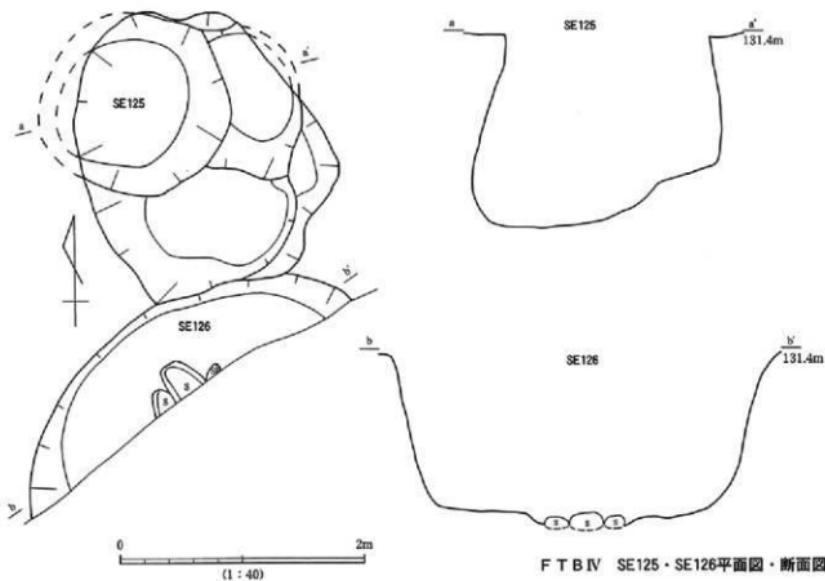
第38図

III 双葉町遺跡

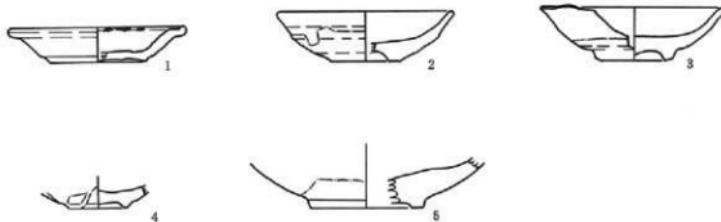


0 (1 : 4) 20cm
F T B IV SE68出土遺物

第39図

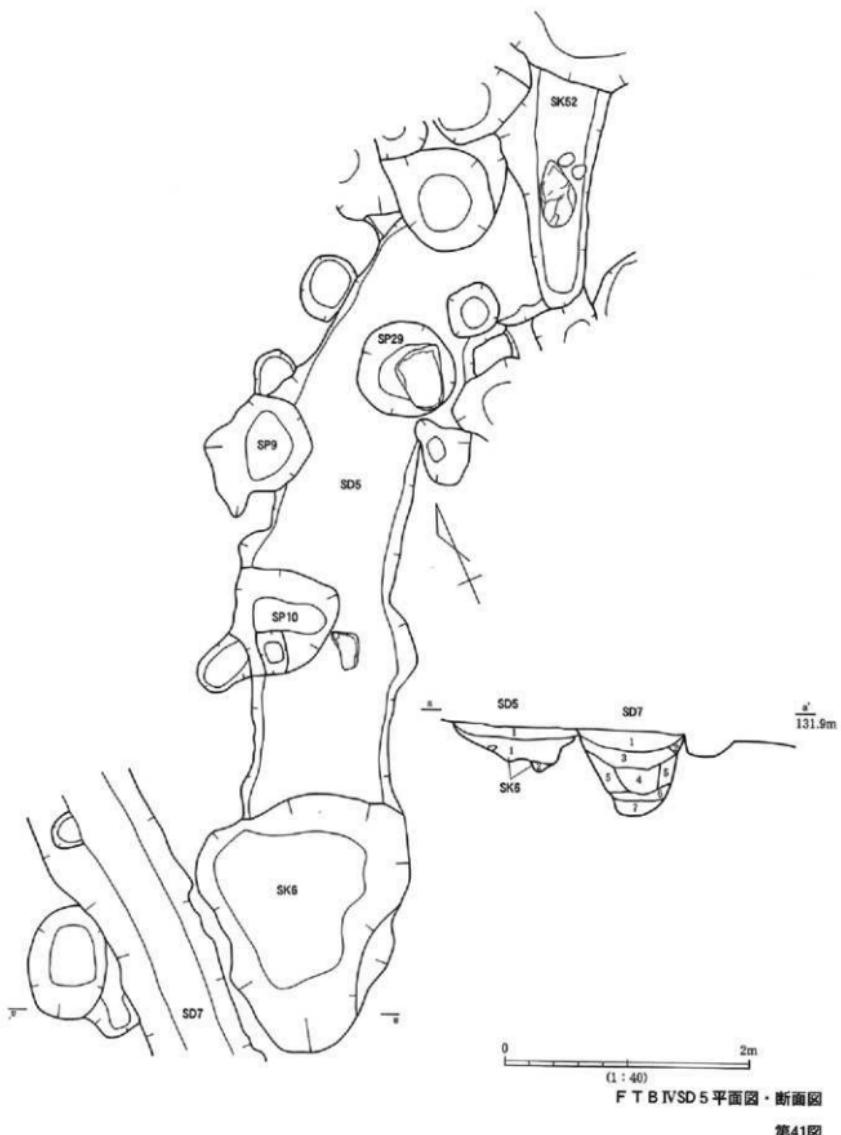


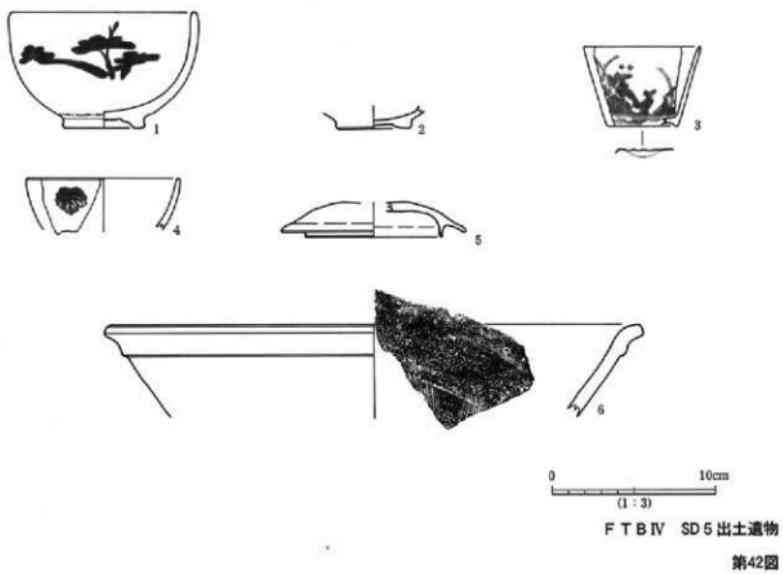
F T B IV SE125・SE126平面図・断面図



F T B IV SE125出土遺物

第40図





III 双葉町遺跡

技法を持つため18世紀代と、出土遺物の生産時期に時間幅がある。埋没年代は、最新の生産年代を示す遺物（4）から18世紀であろう。

（4）小結

近世の遺構は、出土した遺物から次の3つの時期におおよそ分けることができる。①16世紀末～17世紀初頭に属する遺構（SE125）、②17世紀半ばに属する遺構（SK99、SE68など）、③18世紀に属する遺構（SD5）である。①は瀬戸戸美濃大窯段階の製品や肥前系陶器皿の胎土目の製品などが指標となり、肥前系磁器を含まない。②は良好な資料に恵まれないが、肥前系磁器を含み、主に初期伊万里で構成される。③は肥前系磁器でコンニャク印判が施される製品が指標となる。遺物の生産年代（実年代）で見ると、②と③の間にはやや時間差が認められる。

礎石建物跡はSB114・SB129の2棟が検出された。SB114に隣接するSD5溝跡などから瓦が出土しており、瓦葺の建物であった可能性が高い。

4 第5次調査（FTBV）

（1）調査の方法

当該地区は、山形駅西土地区画整理事業に係る都市計画道十日町双葉町線の道路建設予定地となっていたが、事業実施地内に山形城の三の丸堀跡が存在することが予想されていた。そこで確認調査を行い、三の丸の堀跡と推定される土色変化が検出された。

堀跡の調査にあたっては、調査期間などの問題から全面調査ではなく、部分的にトレンチを入れて、土層を観察し、記録を探ることのみに留めるものとした。

現況が更地の箇所に幅約5m、長さ約17mのトレンチを設定し、重機で地山面まで掘り込んだ。当該箇所では堀跡が東西に走っていると推定されたため、直行して南北に断ち割りを行うことを想定した。断面観察はトレンチ東西両壁面で実施する予定だったが、掘削した箇所では、西壁面は擾乱が多く堀の土層がほとんど残存していなかった。そのため東側断面のみで観察を実施した。

（2）調査の成果（第43・44図：図版21・22）

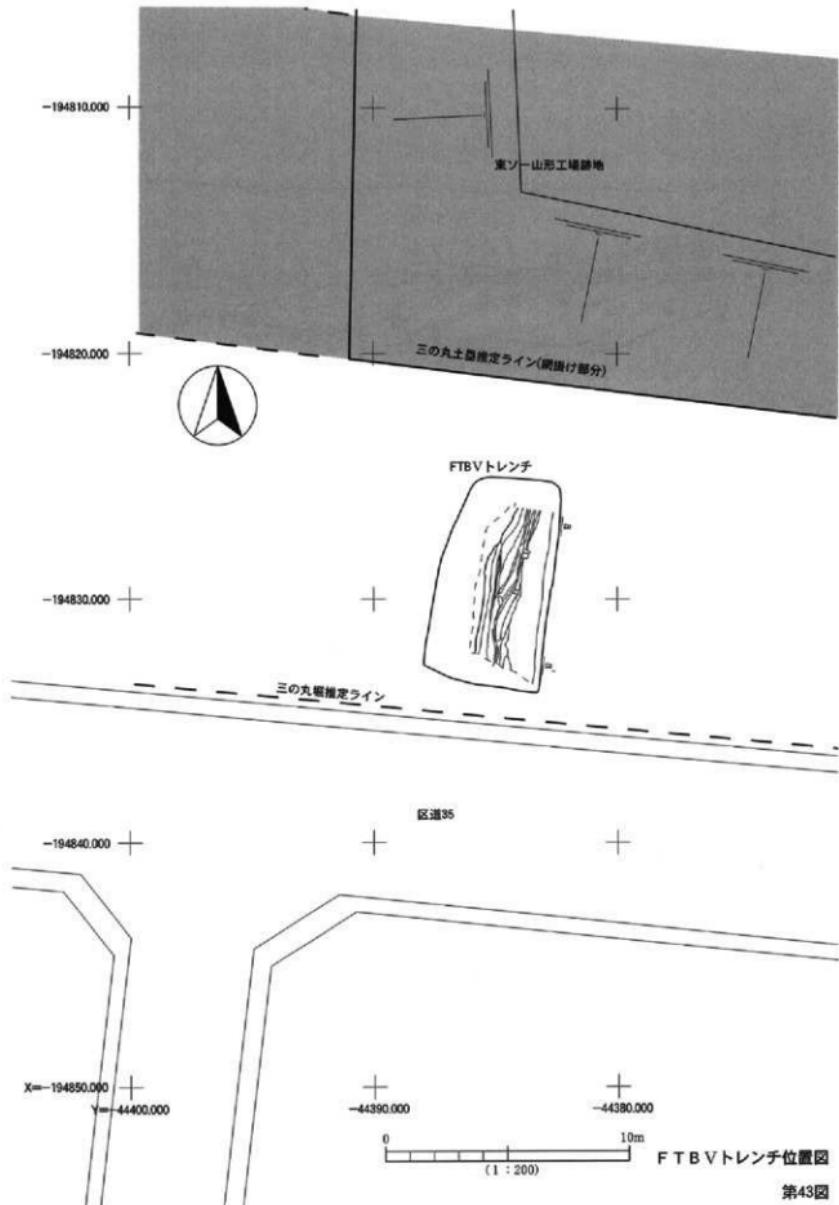
トレンチを設定した地点で、三の丸堀の南北の立ち上がりを確認することは出来なかった。確認できたのは、堀の底面から北側に向かって立ち上がる法面の一部である。

土層観察では、地山を除き29層に層位を細分したが、これらは大きく3つのグループに大別し得た。以下、上・中・下層にそれぞれの層位について概略を述べる。

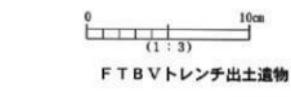
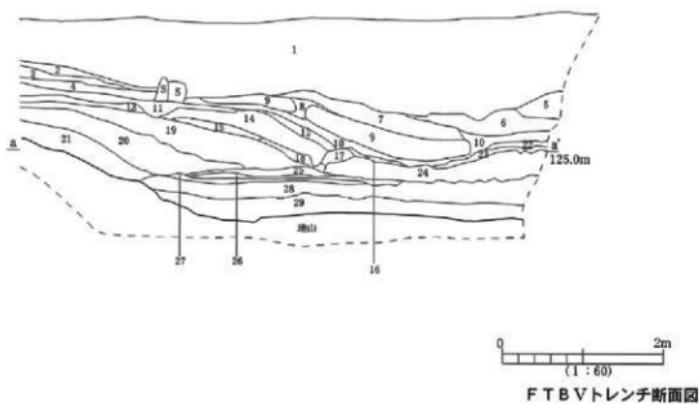
上層の第1層～第9層は礫を多く含む粗い土質で、近代～現代のものと思われる建築部材の破片や、ビニール片などが混入する。これらの土層は、近代以降に堆積したと考えられる。

中層の第10層～第21層は、砂礫や粗砂、シルト、粘土などの層が交互に堆積し、色調も黒色（10YR1.7/1）から褐色（10YR4/6）までと幅広い。堆積している土層は、北側から流れ込んだような様相を呈し、地山由来と思われるブロックを多く含むのが特徴である。これらの層から、掲載した産地不明磁器（1、2）や赤瓦（3）が出土した。出土遺物の詳しい年代は不明だが、おおよそ近世後半から近代に帰属すると考えられる。堆積の状況や出土遺物の年代から、10層～21層は近代以降に、北側に存在したと推定される三の丸土塁が崩落した土砂が堆積した事による土層の可能性が高い。

下層の第22層～第29層は、シルトや粘土の細かい粒子で構成され、第22層、第23層、第26層はグライ化



第43図



第44図

していることが認められる。中層の第10層～第21層が北側から流れ込んだためと思われるが、その下層の第22層～第29層は北半が中層の重みで押しつぶされ、その反動で南半が押し上げられたような形状が観察できた。以上のことから、下層は堀が機能している段階の堆積土で、当該地域が止水域であったため、シルトや粘土といった細かい粒子が緩やかに自然堆積して形成されたと考えられる。堀の中に土砂が堆積し始めた時期は正確にはわからないが、中層から出土した遺物の時期がおよそ近世後半から近代であるのでこれ以前と判断される。下層から出土した遺物は古代の土師器や須恵器のみである。

5 第6次調査 (F T B VI)

(1) 遺跡の層序

本調査区は、標高約127～128mを測る。

基本層序は、1区の南壁で観察した。土層はおよそ水平に堆積し、4層に分かれる。I層は、近年の家屋などの解体工事の際に動かされた埋土である。II層は近代段階の表土と考えられる。III層及びIII'層は、自然堆積により埋没した様相を呈し、近世以前の遺物を包含する。IV層は地山である。

(2) 遺構と遺物の分布

調査区は4ヶ所に分かれており、北から順に1区、2区、3区、4区と呼称する。

遺構の検出面は1面のみであり、古代から近代にかけての遺構、遺物が検出された。検出されたのは、堅穴住居跡12棟、土坑跡25基、井戸跡17基、溝跡15条、ピット139基、性格不明遺構11基である。住宅の基礎等による擾乱が1区と2区に特に多く、近世以前の遺構が擾乱に切られているケース多かった。古代の遺構は1区と2区にのみ分布し、3区と4区では確認できなかった。中近世の遺構は、特定の区に偏ることなく、おおむね全体的に検出された。

(3) 検出された遺構と遺物

① 古墳時代～奈良・平安時代

F T B VIST1 (第47図：図版23)

特 徴 検出面からの深さが浅く、特に南東側から南西側の壁面は明瞭に確認できなかった。土層中に貼床面は確認できなかったので、地山を直接床面としていると思われる。カマド、周溝は検出されなかった。

出土遺物 土師器壺(1)・甕(2)・高杯(3)・鉢(4)などが出土した。

時 期 非口クロ成形で体部下半に稜をもつ土師器壺(1)から、7世紀に帰属すると考えられる。

F T B VIST25 (第48図：図版23)

特 徴 南西部が調査区外にかかる。地山を直接床面とする。カマド・周溝は検出されなかった。

出土遺物 土師器壺(1)などが出土した。

時 期 非口クロ成形でやや深い土師器壺(1)から、7世紀末～8世紀初頭であると考えられる。

F T B VIST45 (第48・49図：図版23)

特 徴 SD47やSD48及び擾乱に切られ、また検出面からの深さも浅く、残存状況は悪かった。

III 双葉町遺跡

カマドは東壁で検出したが、残りが悪く詳細な構造はわからなかった。周溝は検出されなかった。

出土遺物 土師器鉢（1）・甕（2、3）などが出土した。

時 期 8世紀前半と考えられる。

F T B VIST49（第49図）

特 微 東壁付近に焼土が確認されたが、カマドの構築物などは確認できなかった。

出土遺物 須恵器蓋、土師器坏・甕などが出土した。すべて小破片である。

時 期 須恵器蓋などから、8世紀後半～9世紀前半であると考えられる。

F T B VIST81（第50図：図版24）

特 微 北西壁を壊乱に切られるが、残存状況は比較的良好である。北西カマドで、北側のソデはシルトで構築されていることが確認された。南側のソデは残りが悪く、構造を把握することは出来なかった。第5層を貼床としているがカマド周辺でのみ検出され、それ以外は地山を直接床面としている。周溝が、北東壁から南東壁にかけて検出された。SP205、SP208、SP209、SP212の4基で主柱穴を構成する。

出土遺物 土師器坏（1～3）・甕（4）などが出土した。坏は、全て外面にケズリおよびナデ、内面にミガキが施され、（1）はさらに黒色処理される。甕は、内外面にハケメおよびナデが認められる。

時 期 非ロクロ成形の有段丸底坏（3）から、7世紀後半～8世紀初頭に帰属すると考えられる。

F T B VIST120（第51・52図：図版25）

特 微 土層に床面は確認できず、地山を直接床面としていると思われる。周溝が北東壁及び南西壁で検出された。SP213、SP214、SP215、SP216で主柱穴を構成する。カマドは検出されなかった。

出土遺物 土師器坏（1～3）・甕などが出土した。なお、中世のかわらけ（4～6）が出土しているが、現場段階で誤ってST120出土として取上げたもので、本来はST120に帰属するものではない。

時 期 非ロクロ成形で平底に近い丸底坏（1）から、8世紀前半～半ばに帰属すると思われる。

F T B VIST121（第30図：図版26）

特 微 検出面からの深さが非常に浅く、残存度は悪い。北東壁は明瞭に確認できなかった。土層中に床面は確認できなかったので、地山を直接床面としていると思われる。西壁付近で焼土の広がりがあり、この近辺にカマドがあったと考えられるが、その構造は確認できなかった。

出土遺物 土師器の少破片が数点出土したのみである。

時 期 不明である。

F T B VIST126（第52・53図：図版25・26）

特 微 北側および南側を壊乱に切られ、また南西側は調査区外にかかる。地山を直接床面とし

ていると思われる。周溝が、東壁から南壁にかけて検出された。カマドは検出されなかった。

出土遺物 土師器壺（1）・鉢（2）などが出土した。土師器壺（1）は、柱状の低い台が付属する。
時期 時期が明瞭な出土遺物は少ないが、（1）や（2）から7～8世紀であると思われる。

F T B VIST131 (第53図：図版26)

特 徴 検出面からの深さが非常に浅く、北壁は明瞭な状態では検出できなかった。土層中に床面は確認できなかったので、地山を直接床面としていると思われる。

出土遺物 須恵器有台壺（1）が出土した。底部は回転糸切りを施した後、高台を貼り付けている。
時期 須恵器有台壺（1）から、9世紀前半であると考えられる。

F T B VIST146 (第54図：図版26)

特 徴 第3層が貼床でほぼ全面で検出された。北東カマドである。ソデは検出されたが構造を把握するには至らなかった。

出土遺物 土師器壺（1）、須恵器壺（2）などが出土した。
時期 外面下半に稜を有する土師器壺（1）から、7世紀後半～8世紀前半であると考えられる。

F T B VIST148 (第54・55図：図版26)

特 徴 北側をSX196やSP220に切られ、北壁は不明瞭であった。周溝がほぼ全周する。焼土を含む第4層を貼床とするが、貼床は住居の北側でのみ確認され、それ以外は地山を床面としている。

出土遺物 土師器壺（1）・甕（2）、須恵器壺（3）、赤焼壺（4）が出土した。
時期 出土遺物の時期に幅があるが、赤焼壺（4）から9世紀半ばに埋没したと考えられる。

F T B VIST188 (第55図：図版26・27)

特 徴 北西カマドである。ソデは、シルトや粘土を含む細砂をほぼ水平に積み上げる様相が認められた。周溝は西隅でのみ検出された。第2層を貼床としているが住居の北西側のカマド周辺でのみ検出され、それ以外は地山を床面としている。東側の床面で焼土と炭化物が多く検出された。

出土遺物 外面の上部に稜を持つ土師器鉢（1）が出土した。
時期 8世紀前半頃であると思われる。

F T B VISK132 (第56図：図版26)

特 徴 やや崩れた円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層はほぼ水平に堆積している。

出土遺物 須恵器有台壺（1）、赤焼壺（2～4）などが出土した。須恵器壺、赤焼壺ともに回転糸切りである。赤焼壺はすべて口径14cm前後、器高5cm前後の製品で、ほぼ同じ法量を示す。

時期 赤焼壺から、9世紀半ばであると考えられる。

III 双葉町遺跡

F T B VISP 3 (第56図)

特 徴 円形を呈す。底面はやや丸みを帯び壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 砥石（1）や、土師器甕、須恵器裏の小破片が出土した。

時 期 出土した固化していない土師器・須恵器から、9世紀代であると考えられる。

F T B VISP21 (第57図：図版27)

特 徴 柱穴であるが、建物を構成するに至らなかったので単独で掲載した。隅丸方形を呈している。第2層が柱窓で、第1層が柱抜き取り窓であると思われる。

出土遺物 須恵器甕（1）が出土した。底部切り離しは回転ヘラ切りで、器高が低い。

時 期 須恵器甕（1）から、8世紀末～9世紀初頭であると考えられる。

F T B VISE15 (第57図)

特 徴 素掘りの井戸である。円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器甕（1）の他は、土師器甕など的小破片のみである。

時 期 時期が明瞭な遺物に乏しいが、おおよそ8世紀～9世紀代であると思われる。

F T B VISD16 (第58図)

特 徴 4～7グリッドから北西に伸び、3～6グリッドで約90度屈曲して南西方向に走る。断面形状はほぼ方形で、土層はレンズ状に堆積している。

出土遺物 土師器甕（1）・甕（2）などが出土している。小破片が多く、あまり接合しなかった。

時 期 出土遺物の時期にやや幅がある。おおよそ7世紀～9世紀初頭であると考えられる。

② 中世

F T B VISK10 (第59図)

特 徴 西側が調査区外にかかる。やや崩れた梢円形を呈し、底面は緩やかな起伏を帯びる。

出土遺物 ロクロかわらけ（1、2）、手づくねかわらけ（3）、瀬戸美濃系陶器天目茶碗（4）などが出土した。（1、2）には煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。

時 期 瀬戸美濃系陶器天目茶碗（4）から16世紀であると思われる。

F T B VISE 6 (第60図：図版27)

特 徴 素掘りの井戸である。円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 珠洲系陶器甕（1）、ロクロかわらけ（2）が出土した。少破片であり接合しなかった。

時 期 時期を特定できる遺物が少ないが、珠洲系陶器が出土しており13～14世紀と考えられる。

F T B VISE 8 (第61・62図)

特 徴 素掘りの井戸である。やや崩れた円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ちあがる。

出土遺物 珠洲系陶器甕（1）・捕鉢（2）、ロクロかわらけ（3）、砥石（4、5）、小柄（6）等が出土した。

時 期 珠洲系陶器甕（1）の形状から、13世紀であると考えられる。

F T B VISE11 (第60図: 図版27)

特 徴 素掘りの井戸である。やや崩れた楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ちあがる。土層は西から東に向かって低くなっている、堆積土は西から流れ込んだような様相を示している。

出土遺物 白磁碗(1)、手づくねかわらけ(2、3)などが出土した。手づくねかわらけ(2)はいわゆるコースター型かわらけである。

時 期 白磁碗(1)はおそらく白磁碗II類もしくはIV類であると考えられ、またコースター型かわらけが出土していることから、12世紀後半～13世紀前半であると考えられる。

F T B VISE13 (第62図)

特 徴 素掘りの井戸である。楕円形を呈し、底面は平坦で壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 皇宋通寶(1)と、古代の土師器、須恵器の小破片が出土した。

時 期 皇宋通寶の初鑄年が1038年であるので、埋没時期はこれ以降であるが詳細は不明である。

F T B VISE104 (第63図)

特 徴 素掘りの井戸である。楕円形を呈し、底面はやや起伏を帯び壁面はオーバーハングする。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗(1)、青白磁(2、3)、珠洲系陶器壺(4)、手づくねかわらけ(5～7)、口クロカわらけ(8)などが出土した。小破片が多く、あまり接合しなかった。

時 期 (1)に鎬蓮弁文が認められることから、13世紀後半～14世紀前半であると考えられる。

(3) 近世

F T B VISK191 (第64図)

特 徴 圓丸方形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 濱戸美濃系陶器皿(1～3)・肥前系陶器碗(4)などが出土した。濱戸美濃系陶器は皿のみ、肥前系陶器は碗のみ出土しており、产地ごとに器種が分かれている。

時 期 濱戸美濃系陶器では大窯第4段階の製品が出土しており、また肥前系磁器が出土していないことから、16世紀後半～17世紀初頭であると考えられる。

F T B VISK211 (第64図)

特 徴 楕円形を呈す。底面は丸みを帯び、北側壁面は緩やかに立ち上がり、南側はオーバーハングする。

出土遺物 肥前系陶器碗(1)、火打石(2)などが出土した。

時 期 肥前系陶器碗(1)の特徴から、17世紀初頭であると考えられる。

F T B VISP150 (第65図: 図版27)

特 徴 楕円形を呈す。柱穴と考えられるが建物を組むには至らなかったので、単独で掲載した。

出土遺物 肥前系陶器皿(1)などが出土した。

時 期 肥前系陶器皿(1)の高台などの特徴から、17世紀初頭～半ばであると考えられる。

III 双葉町遺跡

F T B VISE 7 (第65図)

- 特 徴 素掘りの井戸である。ほぼ円形を呈し、底面は平坦で壁面は急に立ち上がる。
- 出土遺物 珠洲系陶器鉢？(1)、ロクロかわらけ(2)、土師質はうろく(3)、砥石(4)などが出土した。小破片が多く、あまり接合しなかった。
- 時期 時期決定遺物が少ないが、ロクロかわらけの特徴などから17世紀であると考えられる。

F T B VISE23 (第66図：図版28)

- 特 徴 石組の井戸である。石組は上部の径が大きく、下方になるに従って径が小さくなる形態を示す。土層断面は精査中に崩落したため、下層は観察できなかった。尚、第2～4層は掘り方で、第1層は井戸が廃絶した後の堆積土である。
- 出土遺物 遺物は出土しなかった。
- 時期 16世紀の年代が与えられるSK10を切ること、及び他の石組井戸はおおよそ近世に属することから、本遺構も近世であると考えられる。

F T B VISE43 (第66図：図版28)

- 特 徴 石組の井戸である。やや小規模で、長径40～60cmの5個の礫を主体とし、その間に長径10cmの礫が挟められている様相を呈している。崩落の危険があったので下層断面の観察することはできなかった。
- 出土遺物 古代の土師器、須恵器の小破片のみ出土した。
- 時期 出土遺物の時期は古代であるが、他の石組井戸はおおよそ近世に属するので、本遺構も近世であると考えられる。土師器、須恵器は混入であろう。

F T B VISE128 (第67図)

- 特 徴 石組の井戸である。上部が攪乱に切られる。石組に使われている礫は長径15～40cmと、他の石組井戸と比較するとやや小さい。精査中に崩落したため、完掘することはできなかった。
- 出土遺物 濑戸美濃系陶器皿(1)、肥前系陶器皿(2)などが出土した。
- 時期 濑戸美濃系陶器皿(1)が大窯第3段階～第4段階の製品で、また肥前系陶器皿(2)は鉄絵が描かれている製品であることから、16世紀後半～17世紀初頭の年代が与えられる。

F T B VISE129 (第68図：図版28)

- 特 徴 石組の井戸である。精査中に崩落したため、完掘できなかった。
- 出土遺物 肥前系陶器皿(1)、五輪塔水輪(2)などが出土した。(2)は石鉢に転用されている。
- 時期 肥前系陶器皿(1)は胎土目であることから、16世紀末～17世紀初頭であると思われる。

F T B VISE173 (第69図)

- 特 徴 石組の井戸である。石組は1段ほどしか検出されなかった。石組に使われている礫は長径10～40cmと、他の石組井戸と比較するとやや小さいものが使用されている。
- 出土遺物 龍泉窯系青磁や須恵器、土師器が出土した。すべて小破片である。
- 時期 出土している龍泉窯系青磁から13世紀後半以降であるが、詳細な時期は不明である。

F T B VISE186 (第69図: 図版28)

特 徴 素掘りの井戸である。北側が調査区外にかかる。土層中にラミナが多く認められることから、自然堆積で埋没した可能性が高い。

出土遺物 潬戸美濃系陶器皿(1)のみが出土した。

時 期 (1)は大窯第4段階の製品であるので、16世紀後半～17世紀初頭であると考えられる。

F T B VISE187 (第70図)

特 徴 石組の井戸である。東側が調査区外にかかる。石組に使われている礎は長径10～30cmと、他の石組井戸と比較するとやや小さい。平面規模も長径187cmと小型である。

出土遺物 潤戸美濃系志野皿(1)、肥前系陶器火入れ(2)などが出土した。

時 期 潤戸美濃系志野皿(1)が16世紀後半～17世紀初頭、肥前系陶器火入れ(2)が17世紀半ばと、出土した遺物の生産年代にやや幅がある。

F T B VISE189 (第70・71図: 図版28)

特 徴 石組の井戸である。北側が調査区外にかかる。

出土遺物 潤戸美濃系陶器甕(1)、肥前系磁器火入れ(2)、ロクロかわらけ(3)、石鉢(4)などが出土した。

時 期 肥前系磁器火入れ(2)から17世紀半ば以降であるが、詳細な時期は不明である。

F T B VISE201 (第71図)

特 徴 石組井戸であるが、石組は明瞭には検出されなかった。東側が調査区外にかかる。

出土遺物 肥前系陶器皿(1)のみ出土した。

時 期 (1)に砂目が認められることから、17世紀前半～半ばの時期が与えられる。

F T B VISD139 (第72図: 図版28)

特 徴 3-30グリッドでSD140に切られ、ここから東に向かって直線的に走り、4-30グリッドで調査区外にかかる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 珠洲系陶器甕(1)、ロクロかわらけ(2、3)、手づくねかわらけ(4)などが出土した。

時 期 珠洲系陶器甕(1)の外面平行叩きの形状や、手づくねかわらけ(4)の口縁部のナデの特徴から、13世紀であると考えられる。

F T B VISD140 (第72図: 図版28)

特 徴 3-30グリッドで調査区外にかかり、ここから南に向かって直線的に走り、3-31グリッドでSX141に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 珠洲系陶器甕(1)、手づくねかわらけ(2)、ロクロかわらけ(3)、黒瓦平瓦が出土した。

時 期 黒瓦が出土するため近世と考えられるが、詳細な時期は不明である。中世に帰属する遺物(1～2)が出土しているが、中世の遺構SD139を切るのでこれらの遺物が混入したと考えられる。

III 双葉町遺跡

F T B VISD197 (第73図 : 図版28)

- 特 徴 2-28グリッドから4-28グリッドにかけて、東西方向に直線的に走る。東側および西側は調査区外にかかる。底面は丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。
- 出土遺物 濑戸美濃系陶器皿(1)、肥前系陶器皿(2~5)、肥前系磁器皿(6~12)・碗(13~16)、ロクロかわらけ(17、18)などが出土した。出土した肥前系陶器皿は、砂目で口縁部内側に溝が廻るいわゆる溝縁皿がほとんどである。また、肥前系磁器はいわゆる手塙皿(6~11)や、口径10cm前後で高台から底部にかけてやや厚みのある碗(13~15)が出土し、初期伊万里が高い割合を占めている。
- 時期 肥前系陶器皿では砂目の溝縁皿が多く、肥前系磁器ではの目高台風の手塙皿(6)や一重網目文の碗が出土しているため、17世紀半ばと考えられる。

F T B VISX79 (第74~78図 : 図版28・29)

- 特 徴 崩れた方形を呈す。底面は起伏に富み壁面は急に立ち上がる。底面の北側と西側には一段高いテラスを有する。土層中に礫やブロック状堆積土を多く含むので、人為堆積の可能性が高い。
- 出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1)、肥前系陶器皿(2)・碗(3)、信楽甕(壺?)(4)、土師質るつぼ(5)、円盤状石製品(6)、凹石状石製品(7~10)、砥石(11、12)、黒瓦軒丸瓦(13、14)・丸瓦(15)・平瓦(16)などが出土した。図化していないが黒瓦類は非常に多く出土し、それに比べ陶磁器類は少ない。
- 時期 肥前系陶器皿で砂目の製品(2)が出土していることから、17世紀前半~半ばであろう。

F T B VISX141 (第79~81図 : 図版29)

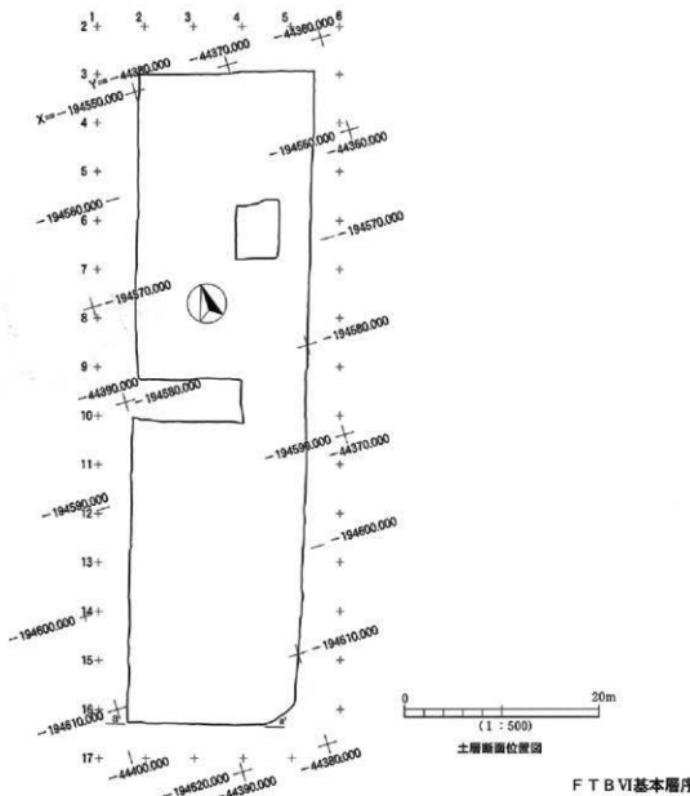
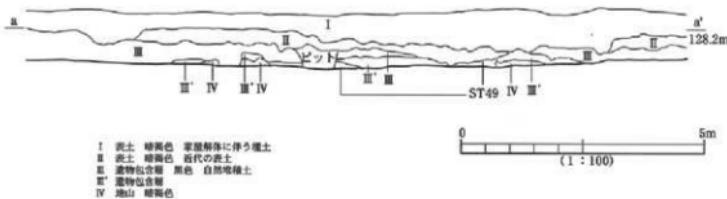
- 特 徴 東側から南側にかけて調査区外にかかり全体の様相はわからないが、東西に長い溝状あるいは隅丸方形を呈すると考えられる。中央付近を搅乱に切られる。底面はやや起伏を帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。
- 出土遺物 景徳鎮系磁器角皿(1)・碗(2)、白磁(3)、朝鮮碗(4)、瀬戸美濃系陶器皿(5)・志野皿(6~8)・碗(9~12)、肥前系陶器皿(13~17)・碗(18、19)、ロクロかわらけ(20~27)、硯(28)、火打石(29)、円盤状石製品(30~49)、黒瓦軒瓦(50)、五輪塔水輪?(51)、龍泉窯系青磁皿(52)、同安窯系青磁碗(53)、古瀬戸瓶子(54)、珠洲系陶器甕(55, 56)・鉢(57)、手づくねかわらけ(58)、ロクロかわらけ(59)、古錢(60~63)などが出土した。黒瓦軒瓦(50)には金箔が施されている。
- 時期 肥前系陶器皿で目跡が確認できるものはすべて胎土目であり、また肥前系磁器が出土していないため、16世紀末~17世紀初頭であると考えられる。

F T B VISX168 (第82図)

- 特 徴 西側が調査区外にかかる。底面は丸く、壁面の上部は緩やかに、下部は急に立ち上がる。
- 出土遺物 肥前系陶器皿(1~3)、肥前系磁器碗(4)などが出土した。肥前系陶器皿は目跡が胎土目の製品(2)と、砂目の製品(1)が混在する。
- 時期 肥前系陶器皿で胎土目の製品が16世紀末~17世紀初頭で、また肥前系磁器碗が17世紀半ばであり、やや出土遺物の時期に幅がある。最終的に埋没したのは、17世紀半ばであろう。

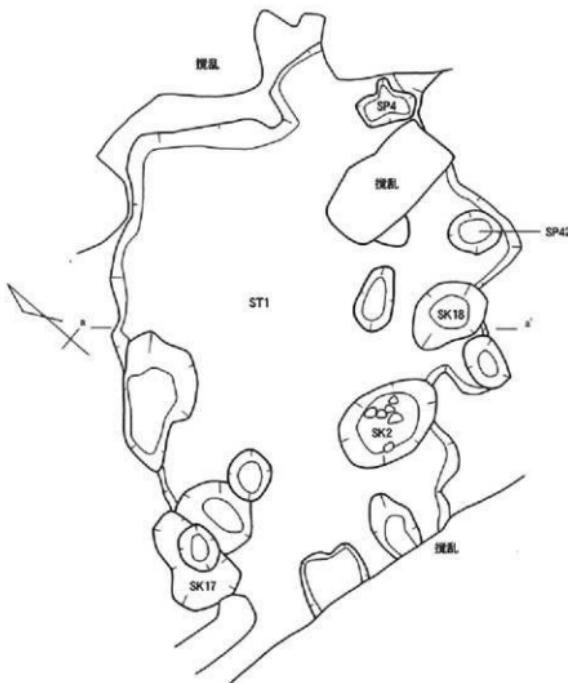


III 双葉町遭跡

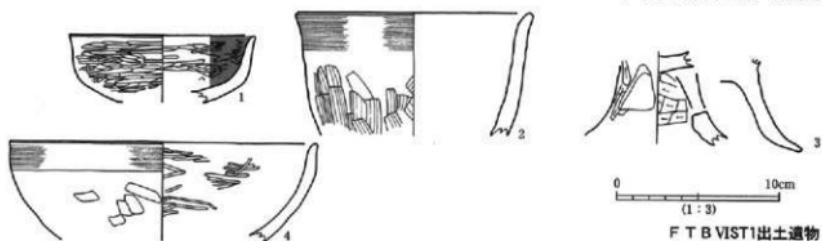


F T B VI基本層序

第46図

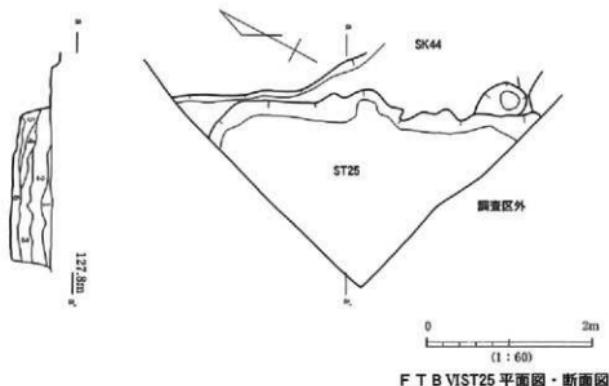


F T B VIST1平面図・断面図
(1 : 60)



F T B VIST1出土遺物
(1 : 3)

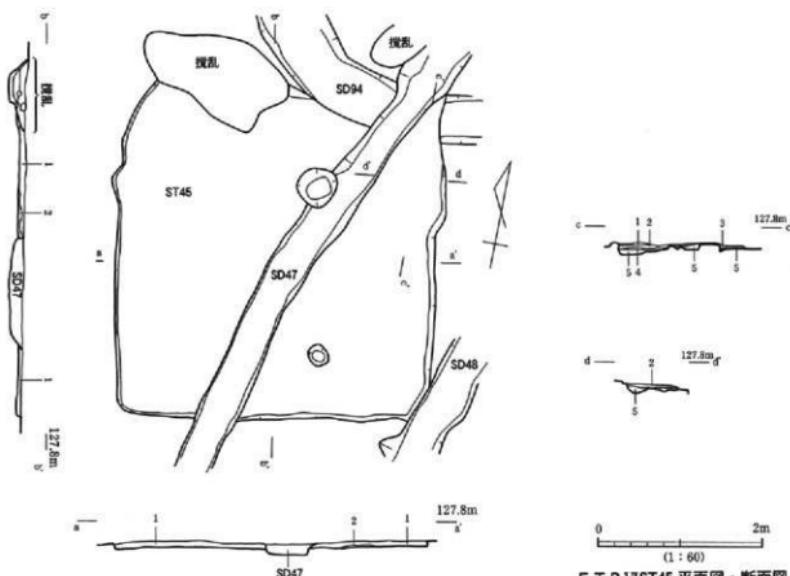
第47図



F T B VIST25 平面図・断面図



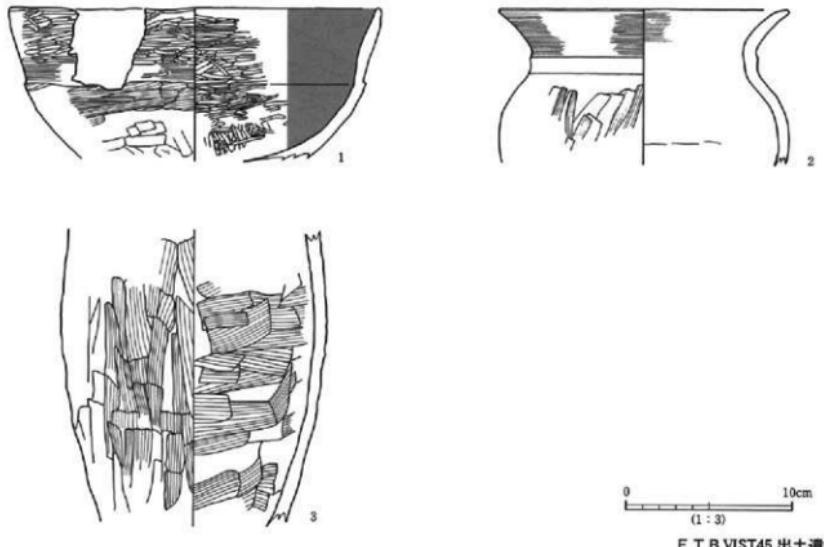
F T B VIST25 出土遺物



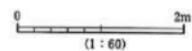
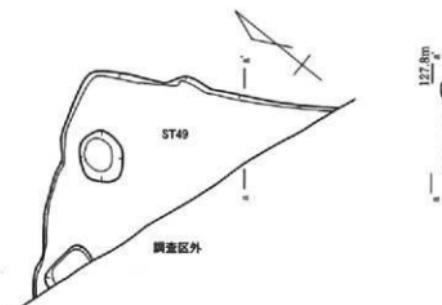
F T B VIST45 平面図・断面図

第 48 回

III 双葉町遺跡

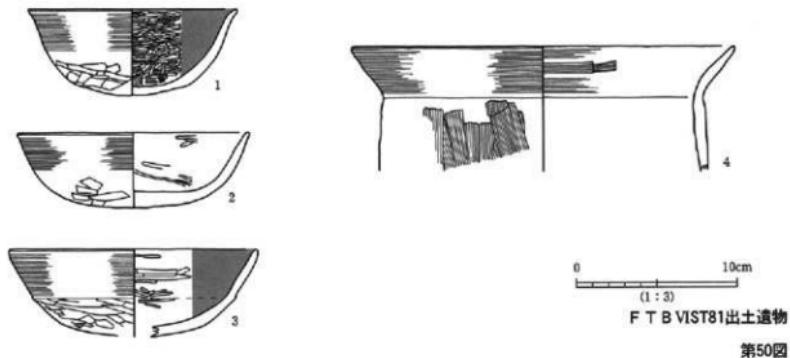
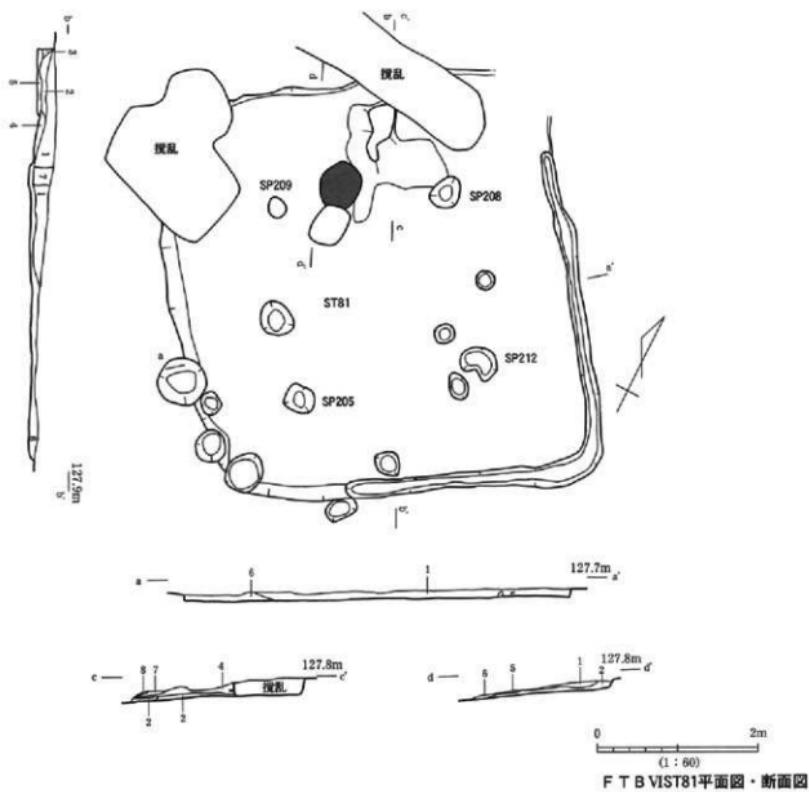


F T B VIST45 出土遺物

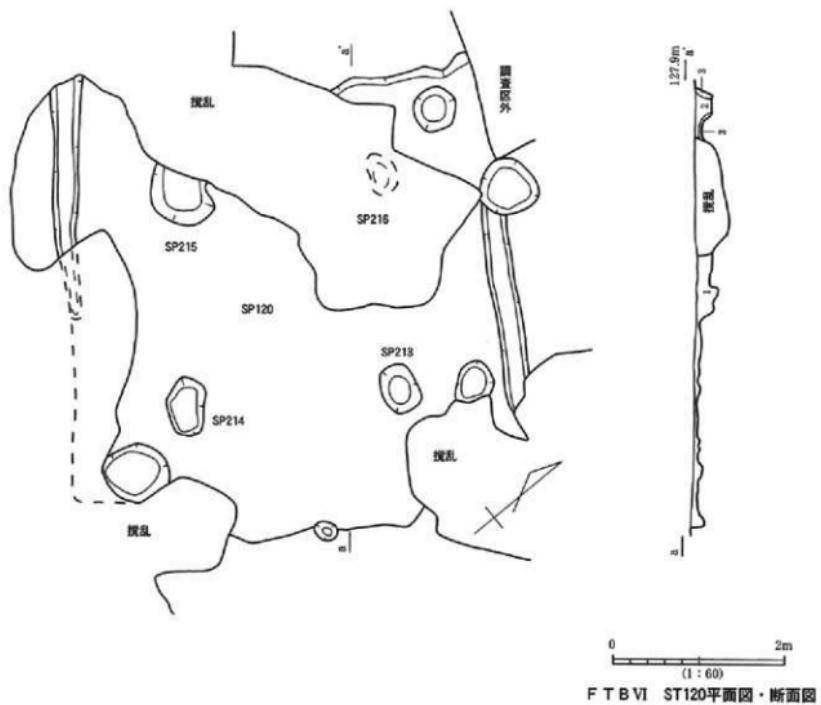


F T B VIST49 平面図・断面図

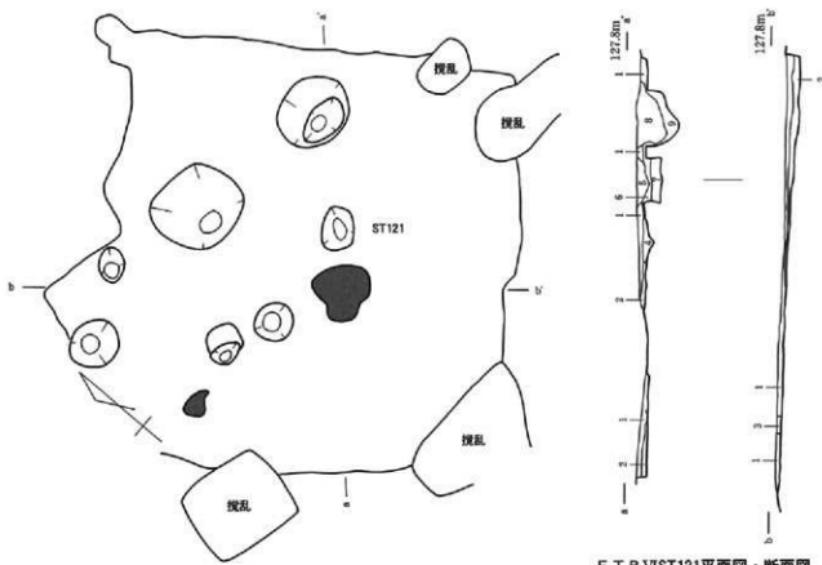
第 49 図



III 双葉町遺跡



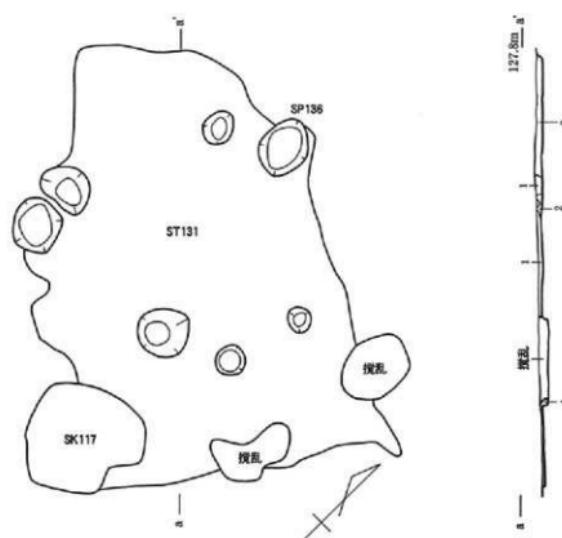
第51図



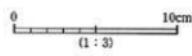
III 双葉町遺跡



F T B VIST126出土遺物

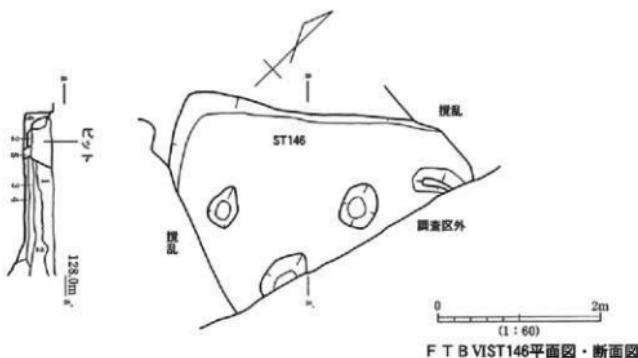


F T B VIST131平面図・断面図



F T B VIST131出土遺物

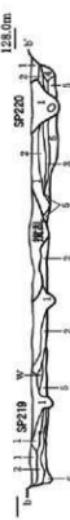
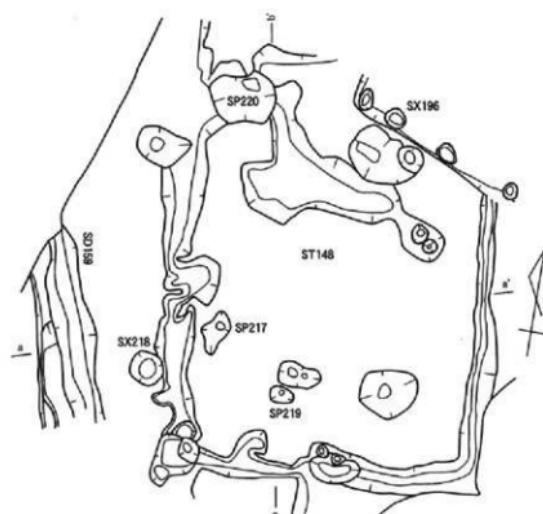
第53図



F T B VIST146平面図・断面図



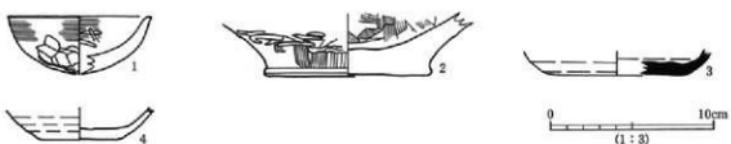
F T B VIST146出土遺物



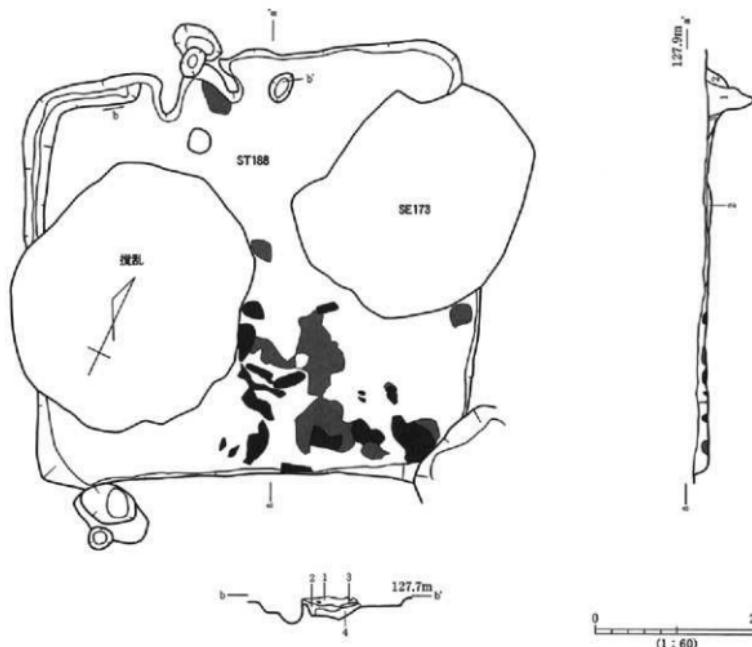
F T B VIST148平面圖・斷面圖

第54回

III 双葉町遺跡



F T B VIST148出土遺物

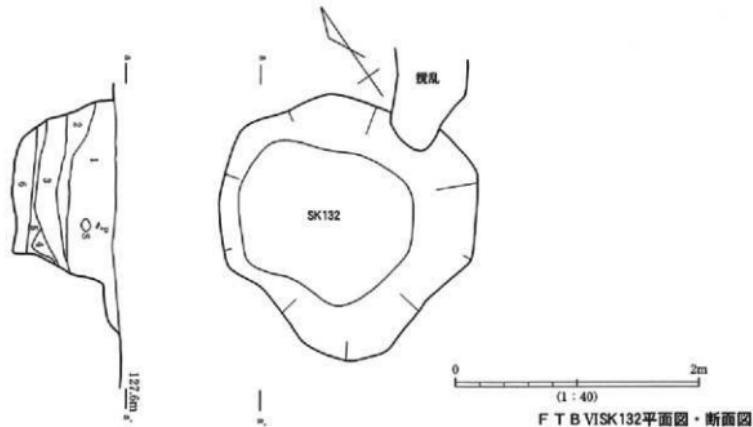


F T B VIST188平面図・断面図

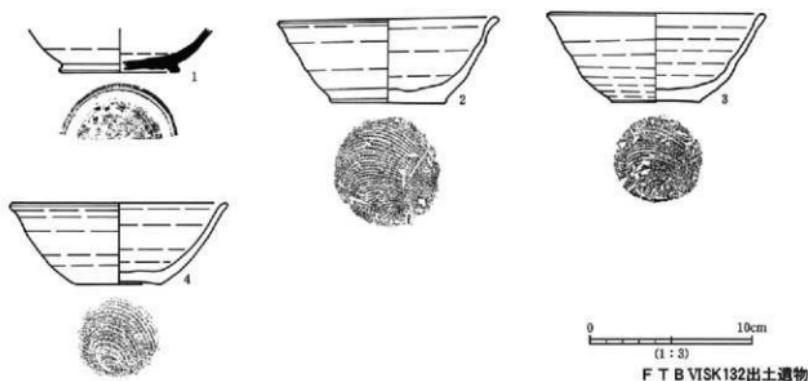


F T B VIST188出土遺物

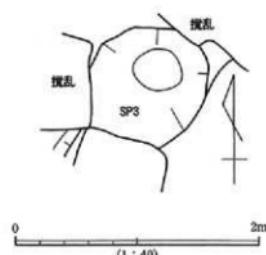
第55図



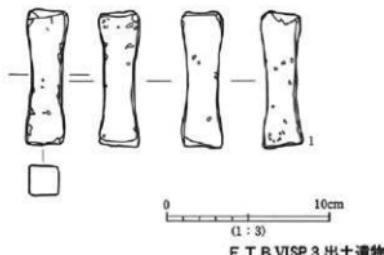
F T B VISK132平面図・断面図



F T B VISK132出土遺物



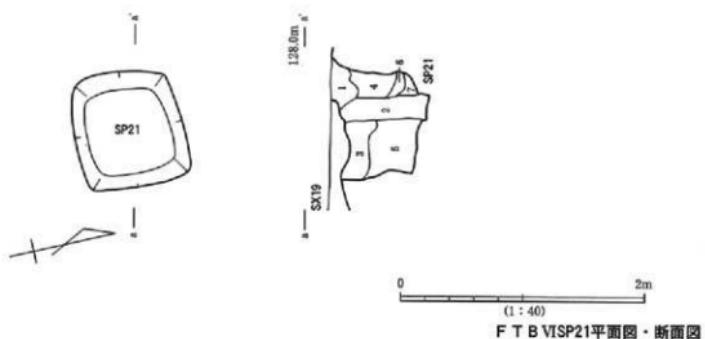
F T B VISP 3 平面図



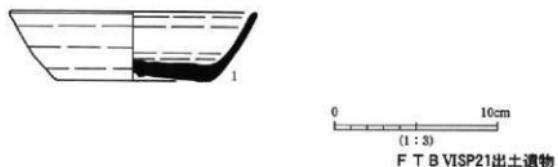
F T B VISP 3 出土遺物

第56回

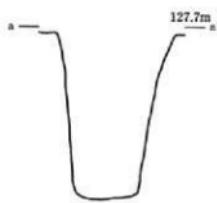
III 双葉町遺跡



F T B VISP21平面図・断面図



F T B VISE15出土遺物

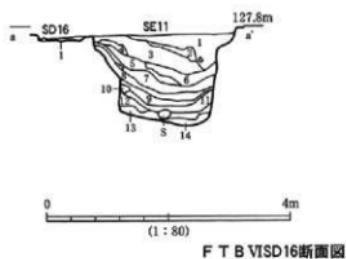
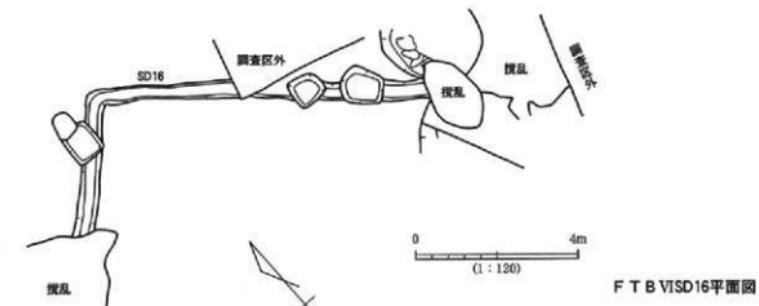


F T B VISE15平面図・断面図

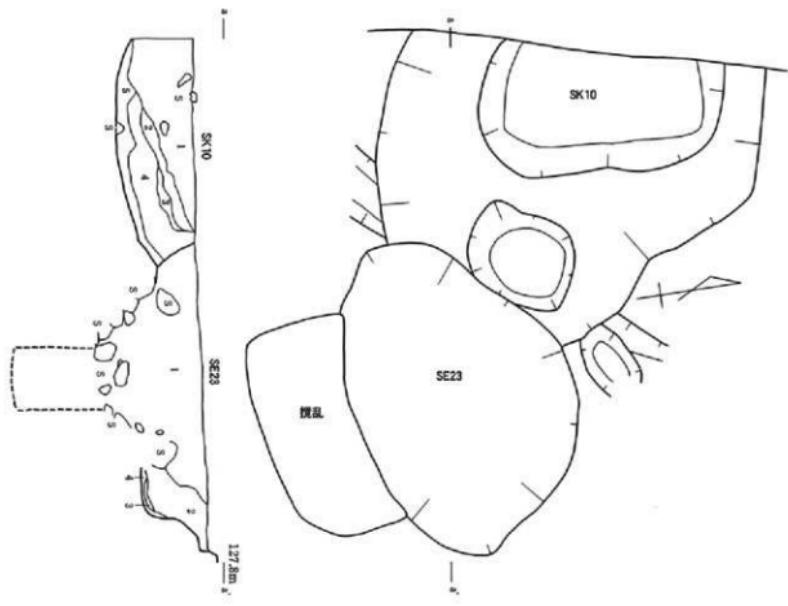


F T B VISE15出土遺物

第57図



F T B VISD16出土遺物
第58図



0 (1 : 40) 2m
(1 : 40)

F T B VISK10平面図・断面図



0 (1 : 3) 10cm

F T B VISK10出土遺物

第59図